Ninja H2 SX

モーターサイクル

取 扱 説 明 書

⚠ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

Kawasaki
Let the Good Times Roll

お車には定期的に点検・交換が必要な部品（エンジンオイル、タイヤ、ブレーキパッド、ホース類等）があり、その点検は法により義務付けられております。安心して快適にお乗りいただけるよう点検整備を必ず実施してください。

ご愛用の皆様に

カワサキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいたお車の正しい取り扱い方、安全な運転の仕方、簡単な整備の方法等について説明してあります。

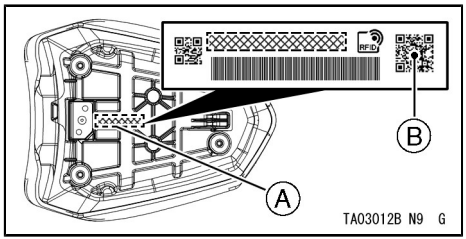
より快適に、より安全にお乗りいただくために、この取扱説明書を是非お読みください。また、メンテナンスノート、セーフティハンドブックも是非お読みください。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。最新の情報は、カワサキウェブサイトのオンライン取扱説明書から閲覧可能です。

[取扱説明書]
https://pws.ktivs.net/dispeBook?file=99817-0132&manual_kind=OM&lang_code=JA&mark=ZX1002RV

998170132JA

同乗者用シート裏側にある車両情報ラベル右側のQRコードを読み取ることで、お車の情報をご確認いただけます。



A. 車両情報ラベル
B. QRコード

アドバイス

○ QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

お車の受け取りの際には、お買いあげいただきましたカワサキ正規取扱店より「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティハンドブック」 を受け取り、下記の説明を必ず受けてください。

- お車の正しい取り扱い方について
- 保証の内容と保証期間について
- 保証書の発行方法について
- 初回点検について
- 日常点検、定期点検整備について
- 車両の確認とお受け取りの署名について

- 車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更等により図や内容が一部実車と異なる場合がありますので、ご了承ください。
- この車は、運転者を含めて2名まで乗車できます。
- この車は排出ガス規制適合車です。

本書では正しい取り扱い方法および点検・整備に関する重要な事項を、次のシンボルマークで示しています。

⚠ 危険

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が大きいと想定される場合を示しています。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

アドバイス

○ 製品の操作や整備に関連して知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

カワサキモータース株式会社
株式会社カワサキモータースジャパン

© 2026 カワサキモータース株式会社

2025. 4. 14 (1)

目次

安全運転のために **10**
主要諸元 **21**
各部の名称 **25**
ハイリーデュラブルペイント（一部のカラーバリエーションのみ） 31
エンジン番号・車台番号 **32**
メータの見方・使い方 **33**
メータユニット 33
起動 34
FCWインジケータ 34
シフトアップインジケータ 35
光度センサ 36
ホーム画面 36
メニューモード画面 37
操作ボタン 37
インジケータ 40
ホーム画面（上部） 51
ホーム画面（中央部） 58
ホーム画面（下部） 63
メニューモード画面 77
Kawasaki SPINアプリ 116
基本操作 119
プリインストールアプリ 119
KIPASSについて **121**
KIPASS 121
KIPASSインジケータ／キーノブインジケータ 121
エンジンの始動 123
FOBキー（携帯機） 124
FOBキー（携帯機）の通信範囲 133
KIPASSが正しく作動しないとき 134
KIPASSのご使用にあたって 134
スペアキー 135
スイッチの使い方 **137**
イグニションスイッチ 137
ステアリングロック 139
左ハンドルスイッチ 141
(A) ディマ／パッシングスイッチ 141
(B/D) 上MODEボタン／下MODEボタン 142
(C) ミドルボタン 143
(E) ホーンボタン 143
(F) ターンシグナルスイッチ 143

(G) ハザードボタン..... 144
(H) RESETボタン 144
(I) クルーズコントロールボタン..... 144
右ハンドルスイッチ..... 144
(A) エンジンスタート／ストップスイッチ..... 145
(B) Fnボタン..... 145
各部の取り扱い方.....**147**
サイドスタンド..... 147
センタスタンド..... 147
ブレーキレバーアジャスタ..... 148
クラッチレバーアジャスタ..... 149
シート..... 149
同乗者用シートの取り外し 150
同乗者用シートの取り付け 150
運転者用シートの取り外し 151
運転者用シートの取り付け 151
ヘルメットロック..... 152
ヘルメットロックの使い方 152
荷掛けフック..... 152
ツールキット..... 153
エアインテーク..... 153
DC電源ソケット..... 154
USBソケット 155
グリップヒータ..... 157
コーナリングライト..... 159
サスペンションセッティング (ZX1002P) 159
フロントフォークのセッティング..... 160
スプリングの初期荷重の調整..... 160
伸側減衰力の調整 161
圧側減衰力の調整 162
リヤショックアブソーバのセッティング..... 163
スプリングの初期荷重の調整..... 163
伸側減衰力の調整 164
圧側減衰力の調整 165
リヤショックアブソーバの取り扱い方..... 166
セッティング表 168
サスペンションセッティング (ZX1002R) 172
フロントフォークのセッティング..... 172
スプリングの初期荷重の調整..... 172
セッティング表 174
ETCの取り扱い方 **175**

ETCとは 175
ETC2.0の情報提供サービス 175
ETCを利用するには 175
ETC利用上の注意 175
車載器各部の名称 180
(A) ETC車載器本体 181
(B) 呼吸穴 181
(C) カードソケット 181
(D) 耐振ゴム 181
(E) カバー 181
(F) 銘版 181
(G) バックル 181
ETCカードの挿入 181
ETCインジケータの表示について 184
ETCレーンでの注意 185
故障かなと思ったら 187
燃料の補給 190
ガソリンの補給 190
正しい運転操作 194
エンジンのかけ方 194
ならし運転 196
走り方 197
シフトダウンの仕方 198
ブレーキの使い方 199
ESS 200
ABS 201
KIBS 203
エンジンの止め方 203
エンジンの非常停止 203
駐車の仕方 204
インテグレイテッドライディングモード (ZX1002P) 207
ライダモード (RIDER) 208
インテグレイテッドライディングモード (ZX1002R) 210
ライダモード (RIDER) 211
KTRC 214
KTRCインジケータ 215
KTRCモード 215
パワーモード 216
KECS (ZX1002R) 216
プリロードモード 217
減衰力 219
フロントレーダアシスト 219
注意事項 220
ACC 221
FCW 230
各機能の制限 232
リヤレーダアシスト 235
注意事項 236
BSD 237

各機能の制限 240
AHB 242
システム操作 243
AHBモードのオン／オフの方法 244
注意事項 245
各機能の制限 245
一時的なセンサ感度調整 247
VHA 247
KQS 248
シフトアップ 249
シフトダウン 249
KEBC 249
KLCM 249
KCMF 252
慣性計測装置（IMU） 253
点検整備について 254
簡単な整備 256
ブレーキ液量の点検 257
ブレーキライトスイッチ 258
ブレーキライトスイッチの点検 258
ブレーキライトスイッチの調整 259
クラッチ液量の点検 261
エンジンオイルの補給 262
冷却液 265
冷却液の作り方 265
冷却液の点検 266
冷却液の補給 267
スパークプラグ 269
エアクリーナ 270
エレメントの交換 270
オイルの排出 270
スロットルの点検 271
アイドリング回転速度の調整 271
ドライブチェーン 272
給油 272
たるみ点検 273
たるみ調整 273
タイヤ 273
空気圧 274
亀裂と損傷 275
異常な摩耗 276
溝の深さ 276
バッテリ端子部の清掃 277
バッテリの取り外しおよび取り付け方 277
バッテリ端子部の清掃 278
ヒューズの交換 280
車のお手入れ 284
洗車 286

長期間の格納..... 289
環境保護について.....291
DFI自己診断システムコネクタの位置 294
車両情報の記録に関して.....295
イベントデータレコーダ 296
万一の故障に備えて.....298
お客様相談室.....300
リコールについてのお願い 302
オープンソースソフトウェアについて.....303
適合宣言.....304
KIPASS..... 304
タイヤプレッシャーモニタリングシステム 305
フロントレーダセンサ..... 307
リヤレーダセンサ..... 309
メータ..... 311
バッテリに関する補足情報 316
バッテリ全般に関する情報..... 316
ボタン型電池の追加情報..... 321

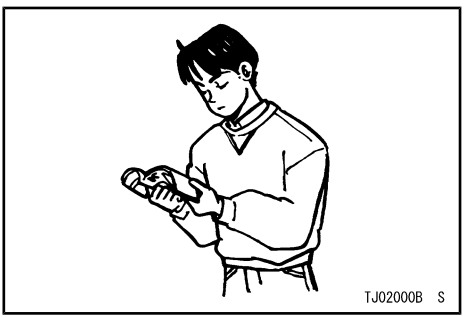
安全運転のために

ここにあげた項目は日常の走行上非常に基本的なものです。これらのことを守って安全運転および上手なオートバイ操作を心がけましょう。

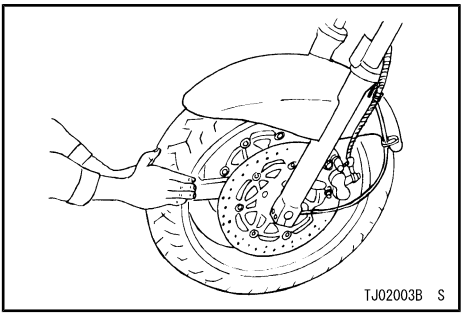
車を購入された当初は、いろいろ注意をはらって運転しますが、少し慣れてくるとこれらの注意を忘れがちになり、事故を起こす場合があります。
車に乗るとき、いつも心がけねばならない重要な注意事項を書いた“安全項目ラベル”が車に貼ってあります。これらの注意をいつもお守りください。

運転する前に

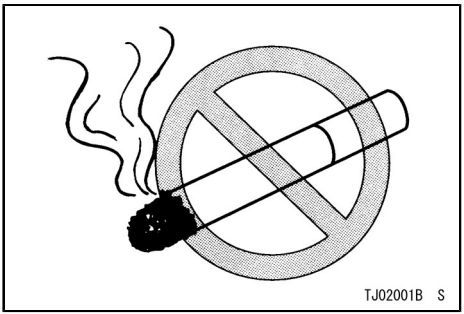
- **取扱説明書をよく読んでください。**
  車の取り扱いをよくご存じの方も、この車特有の構造や取り扱い方がありますので、この説明書を必ずお読みください。



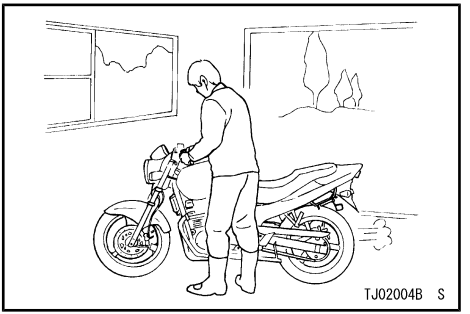
- **日常点検を必ず行ってください。**
  車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。日常点検については、メンテナンスノートの“日常点検”をご覧ください。



- **定期点検を必ず行ってください。**
  定期点検については、メンテナンスノートの“定期点検”をご覧ください。
- **ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。**



- **排出ガスには、一酸化炭素等の有害な成分が含まれています。エンジン始動、暖機運転は、風通しの良い場所で行ってください。**



服装

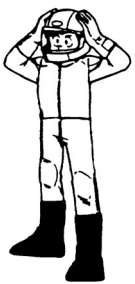
- 運転者と同乗者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。
  - ヘルメットは正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください。
  - ヘルメットは二輪車用でPSCマークのあるものを必ずお選びください。頭にしっくり合って、圧迫感のないものをお選びください。
- ヘルメットにはフェースシールドを取り付けてください。取り付けできないときは、ゴーグルを使用してください。
- 手袋を着用してください。手袋は、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- 可能な限り身体の各部（胸、肩、背中、ひじ、ひざ等）を保護する機能のあるライディングウェアを着用してください。または、身体各部を保護するプロテクタを装着してください。
  - 身体の露出が少ない長ズボンと長袖のジャケットを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。

– 動きやすい服を着用してください。
– すその広がったズボンや袖口の広い服は、ブレーキやクラッチ、チェンジ操作の邪魔になり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。
– 被視認性の観点から、明るく目だつ色の動きやすい服を着用してください。

● 靴は、ブレーキ操作やチェンジ操作のしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆う、足にあったサイズのものを選んでください。

⚠ 警告

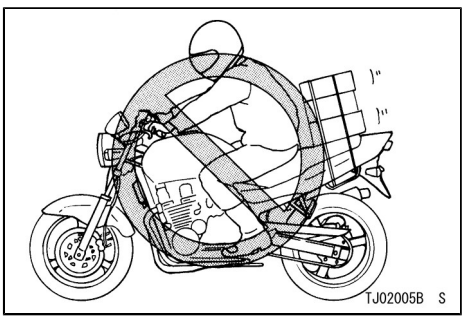
● ヘルメットは正しく着用してください。正しく着用していないと、事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。
● 運転者と同乗者は乗車時、ヘルメット、保護具および保護性の高い服を必ず着用してください。



TJ02002B S

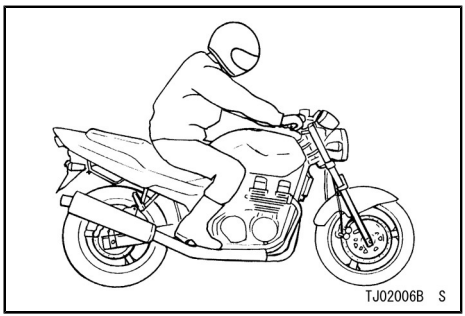
荷物を積むときは

- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積むときは、**“積み過ぎない”、“荷物をしっかりと固定する”**等充分注意して、安全に走行してください。



乗り方

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。



- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足は必ず、同乗者用ステップに乗せさせてください。
- この車の乗車定員は2名です。なお、次の運転者は法令により2人乗りすることはできません。

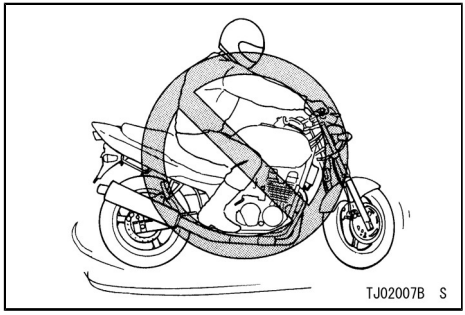
一般道路

免許取得後1年未満の運転者

高速道路

免許取得後3年未満の運転者、20歳未満の運転者、または2人乗り運転が禁止されている区間

- **急激なハンドル操作や片手運転は横すべりや転倒の原因となります。絶対におやめください。**



駐車するときは

⚠ 警告

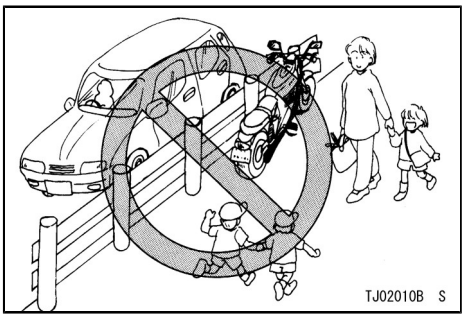
可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

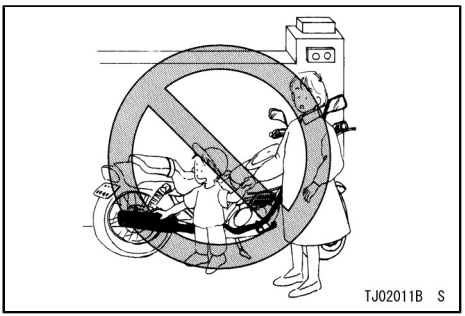
エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

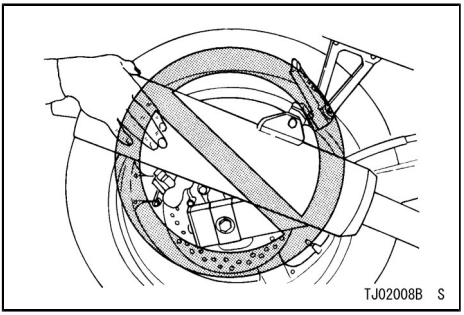
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

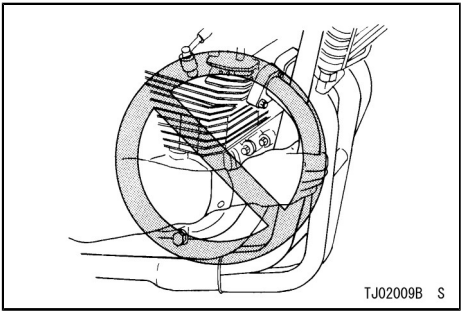
- 車は水平でしっかりとした地面の場所に駐車してください。やむをえず傾斜地や柔らかい地面等の不安定な場所に駐車するときは、車の転倒、動き出しのないよう、安全処置に充分留意してください。
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車してください。



- エンジン回転中や停止後しばらくの間はマフラ、エンジンに触れないでください。
- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車してください。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは、他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。







洗車後や水たまりを走行したときは

- 洗車後や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。
- ブレーキの効きが悪いときは、周囲の交通状況に充分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

タイヤ

- 異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の走行安定性に悪影響を及ぼしますので使用しないでください。

調整

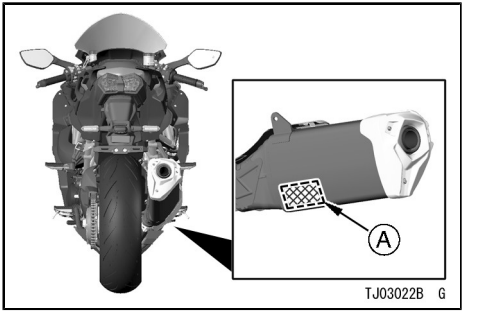
- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジンの調整はカワサキ正規取扱店におまかせください。

触媒装置

- この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の有害物質の排出量を低減します。
  触媒装置の適切な使用のため、下記の注意点をご確認ください。

改造

- **車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。**
- **車を改造することは法律に触れることは勿論、他の人への迷惑行為となります。**
- **他のマフラをこの車に取り付けますと、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラを交換する場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。**
- **マフラには、カワサキ純正部品を表わす“Kawasaki”マークが刻印されています。**



A. Kawasakiマーク

⚠ 警告

可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

昼間もヘッドライトオン

- この車は、エンジンが始動してエンジンスタート／ストップスイッチを放すと、ヘッドライトが点灯するデイライトシステム（昼間点灯システム）を採用しています。

注意

- **イグニションスイッチがONの位置のまま、またはエンジン始動後、アイドリング状態で長時間放置すると、バッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは必ずステアリングロックをかけてください。**

カウリングの取り扱い上の注意

- 走行中は、カウリングと車体の間に、物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響を及ぼすおそれがあります。

- ブレーキ液、クラッチ液、ガソリン、洗浄液等の化学物質が、スクリーンやカウリング本体にかかると、損傷の原因となりますので注意してください。
- スクリーンを洗浄する時は、表面を傷つけないように、水またはぬるま湯をかけながら、柔らかい布またはスポンジで拭いてください。

主要諸元

エンジン

エンジンオイル	カワサキ純正4サイクルオイル（263ページを参照）
エンジンオイル量	4.7 L
冷却液量	2.9 L
スパークプラグ	NGK SILMAR9E9
スパークプラグギャップ	0.8 ~ 0.9 mm

フレーム

タイヤサイズ：	
前輪	120/70ZR17M/C (58W)
後輪	190/55ZR17M/C (75W)
燃料タンク容量（車体直立状態）	19 L
ブレーキフルード	DOT4

電装品

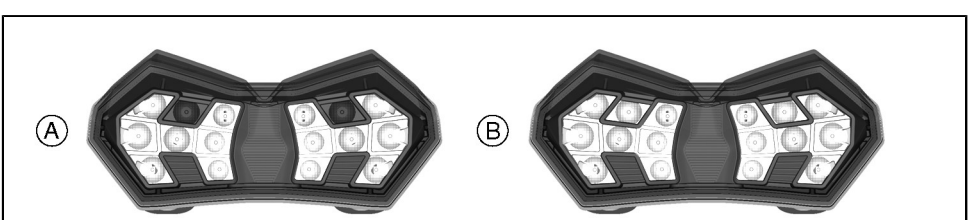
バッテリ	12 V 8.6 Ah (10 HR)

ヘッドライト：	
ハイビーム	LED
ロービーム	LED
ポジションライト	LED
コーナリングライト	LED
ブレーキ／テールライト	LED
ターンシグナルライト	LED
ライセンスプレートライト	LED

この車の灯火類にはLED（発光ダイオード）を採用しています。LEDライトが一つでも点灯しない時は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

ブレーキ／テールライト

ブレーキ／テールライトは下記のように点灯します。



A. イグニションスイッチをオンにしたとき
B. ブレーキを使用したとき

イグニションスイッチをオンにしたとき、いくつかのＬＥＤは点灯しませんが、故障ではありません。

詳しい諸元の情報については、カワサキウェブサイトで最新情報をご確認ください。また、仕様は予告なく変更される場合があります。

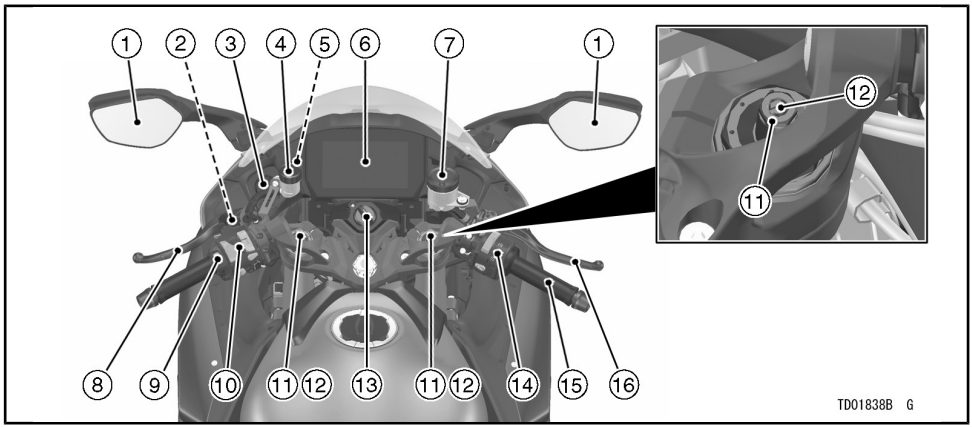
【主要諸元】

https://pws.ktivs.net/dispeBook?file=99888-0129-01&lang_code=JA

998880129JA

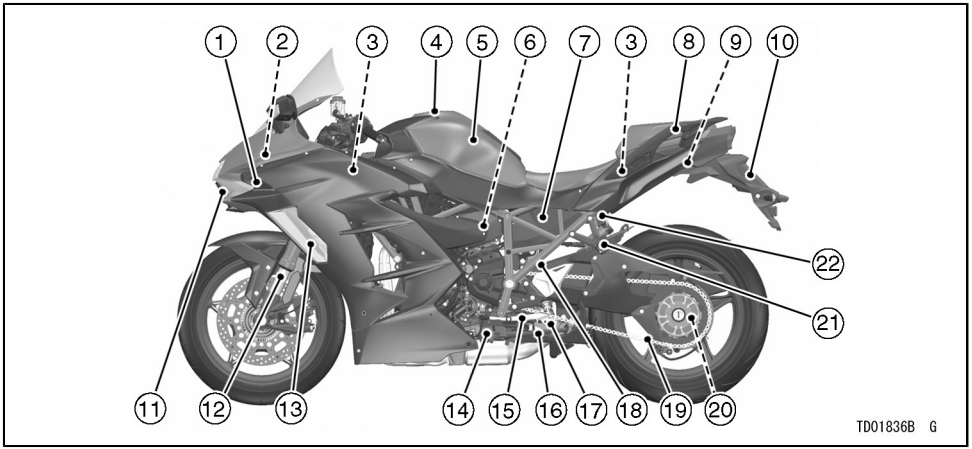
各部の名称

ZX1002P



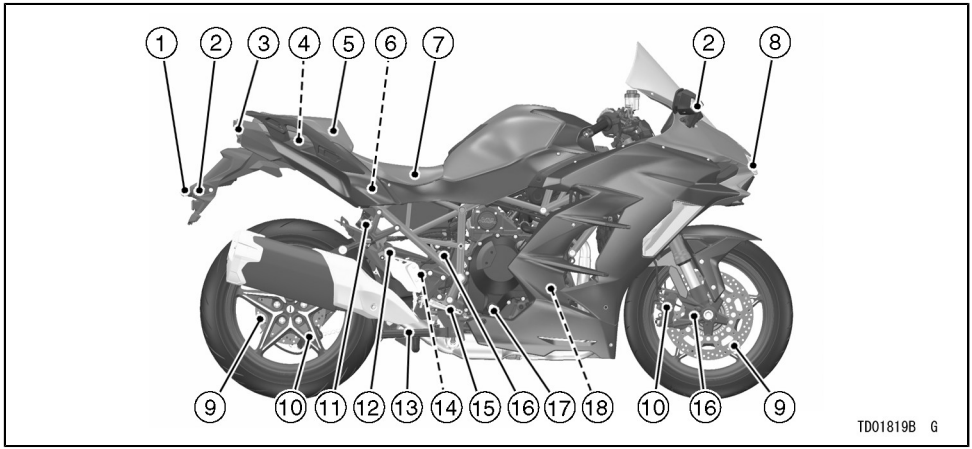
1. バックミラー
2. スタータロックアウトスイッチ
3. DC電源ソケット
4. クラッチリザーバ
5. ETCインジケータ
6. メータユニット
7. ブレーキリザーバ(フロント)
8. クラッチレバー
9. グリップヒータスイッチ
10. 左ハンドルスイッチ
11. スプリング初期荷重アジャスタ
12. 伸側減衰力アジャスタ
13. イグニションスイッチ／ステアリングロック
14. 右ハンドルスイッチ
15. スロットルグリップ
16. フロントブレーキレバー

ZX1002P



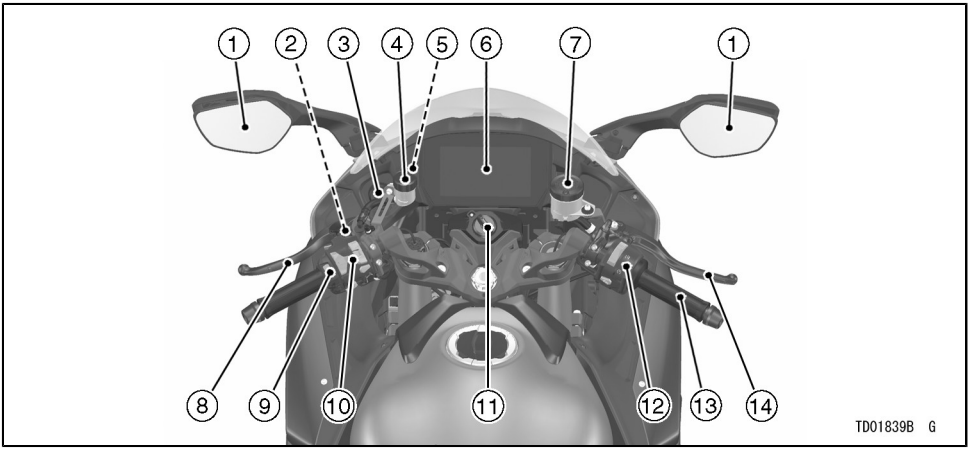
1. エアインテーク
2. ETCアンテナ
3. ヒューズボックス
4. 燃料タンクキャップ
5. 燃料タンク
6. エアクリーナ
7. シートロック
8. グラブレール
9. ETC車載器／ツールキット
10. リヤレーダセンサ
11. フロントレーダセンサ
12. フロントフォーク
13. コーナリングライト
14. サイドスタンドスイッチ
15. シフトペダル
16. サイドスタンド
17. 伸側減衰力アジャスタ
18. リヤショックアブソーバ
19. ドライブチェーン
20. チェーンアジャスタ
21. リヤステップ
22. ヘルメットロック

ZX1002P



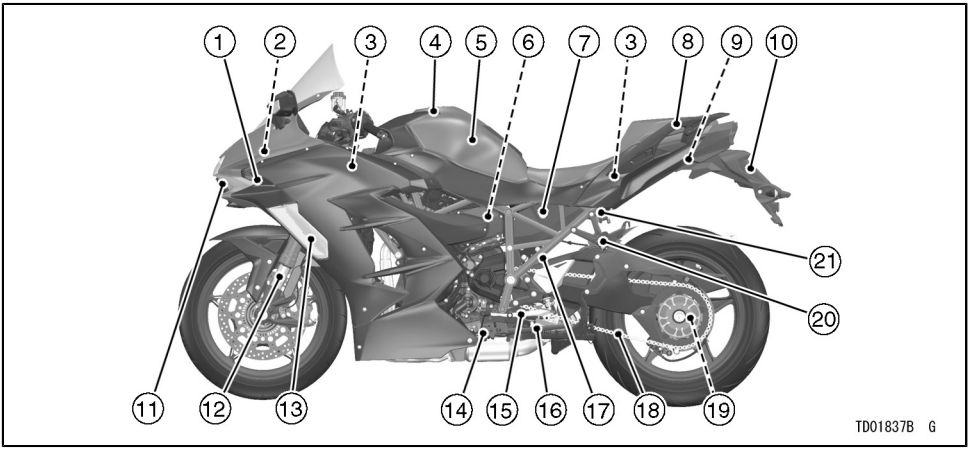
1. ライセンスプレートライト
2. ターンシグナルライト
3. ブレーキ／テールライト
4. USBソケット
5. 同乗者用シート
6. バッテリ
7. 運転者用シート
8. ヘッドライト
9. ブレーキディスク
10. ブレーキキャリパ
11. スプリング初期荷重アジャスタ
12. ブレーキリザーバ(リヤ)
13. センタスタンド
14. リヤブレーキライトスイッチ
15. ブレーキペダル
16. 圧側減衰力アジャスタ
17. オイルレベル点検窓
18. 冷却液リザーブタンク

ZX1002R



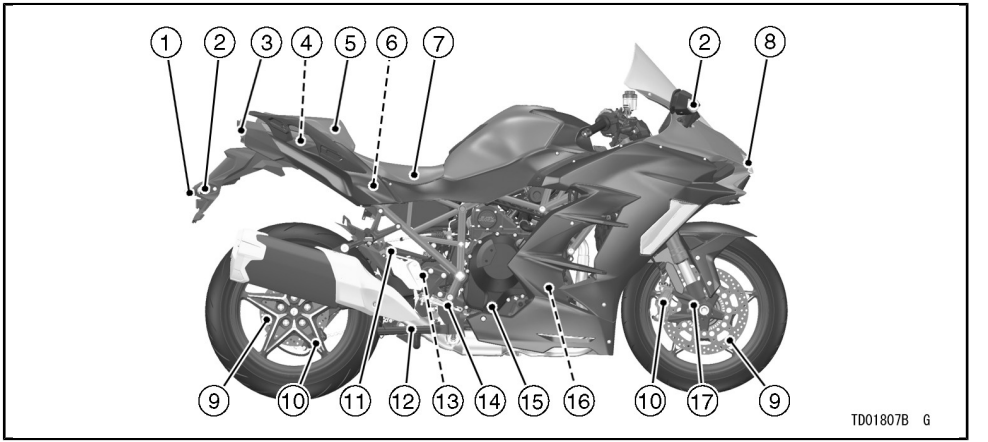
1. バックミラー
2. スタータロックアウトスイッチ
3. DC電源ソケット
4. クラッチリザーバ
5. ETCインジケータ
6. メータユニット
7. ブレーキリザーバ（フロント）
8. クラッチレバー
9. グリップヒータスイッチ
10. 左ハンドルスイッチ
11. イグニションスイッチ／ステアリングロック
12. 右ハンドルスイッチ
13. スロットルグリップ
14. フロントブレーキレバー

ZX1002R



1. エアインテーク
2. ETCアンテナ
3. ヒューズボックス
4. 燃料タンクキャップ
5. 燃料タンク
6. エアクリーナ
7. シートロック
8. グラブレール
9. ETC車載器／ツールキット
10. リヤレーダセンサ
11. フロントレーダセンサ
12. フロントフォーク
13. コーナリングライト
14. サイドスタンドスイッチ
15. シフトペダル
16. サイドスタンド
17. リヤショックアブソーバ
18. ドライブチェーン
19. チェーンアジャスタ
20. リヤステップ
21. ヘルメットロック

ZX1002R

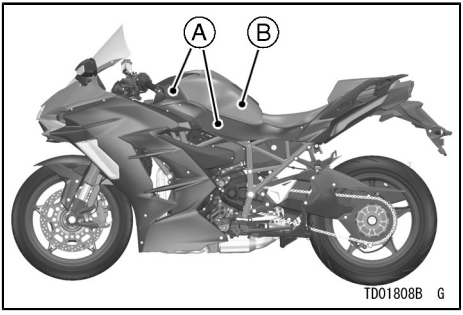


1. ライセンスプレートライト
2. ターンシグナルライト
3. ブレーキ／テールライト
4. USBソケット
5. 同乗者用シート
6. バッテリ
7. 運転者用シート
8. ヘッドライト
9. ブレーキディスク
10. ブレーキキャリパ
11. ブレーキリザーバ(リヤ)
12. センタスタンド
13. リヤブレーキライトスイッチ
14. ブレーキペダル
15. オイルレベル点検窓
16. 冷却液リザーブタンク
17. 圧側減衰力アジャスタ

ハイリーデュラブルペイント(一部のカラーバリエーションのみ)

ハイリーデュラブルペイントには、特殊な性質の塗料が使用されており、日常使用での擦り傷の防止に効果があります。

対象部品



A. 燃料タンクカバー
B. 燃料タンク

アドバイス

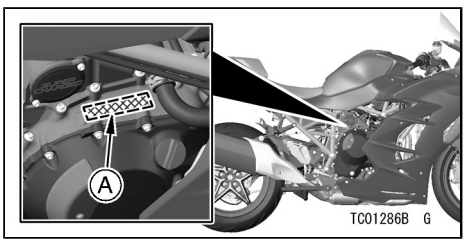
- 修復は、場合によっては1週間程度かかる可能性があります。
- 硬貨やキー、ファスナーなど鋭利な物による傷には効果がありません。

エンジン番号・車台番号

エンジン番号・車台番号は車の登録のために使われます。これらの番号はカワサキ正規取扱店に部品を注文する時に必要であり、盗難にあった場合、多くの同機種の車、あるいはいくらか特徴の似ている車の中からあなたの車を捜し出す手掛かりにもなります。

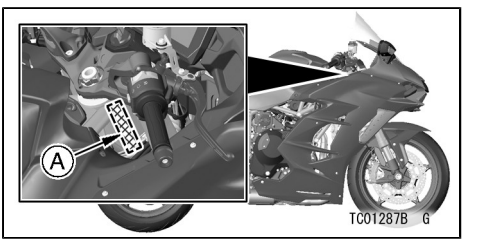
あなたの車のエンジン番号・車台番号を下記の欄に記入してください。

エンジン番号



A. エンジン番号

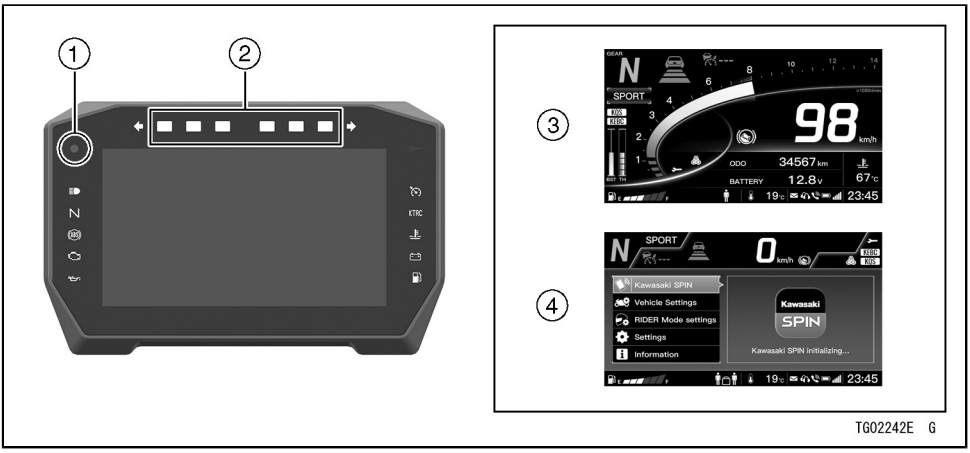
車台番号



A. 車台番号

メータの見方・使い方

メータユニット



TG02242E G

1. 光度センサ
2. FCW／シフトアップインジケータ
3. ホーム画面
4. メニューモード画面

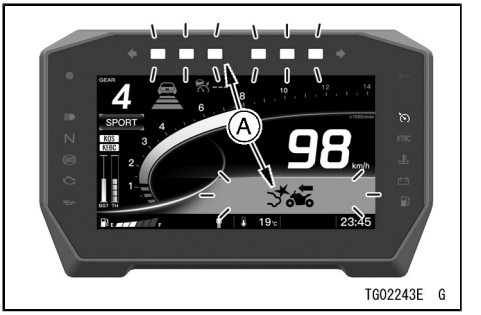
起動

アドバイス

- 車両が動き始めても、起動アニメーションは中断されません。ホーム画面が表示されてから発進してください。
- イグニションスイッチのオン／オフを繰り返すと、メータユニットの起動に通常より時間がかかる場合があります。

FCWインジケータ

FCWシステムが前方衝突の可能性を検出すると、赤色警告インジケータと画面上の警告メッセージが点滅します。

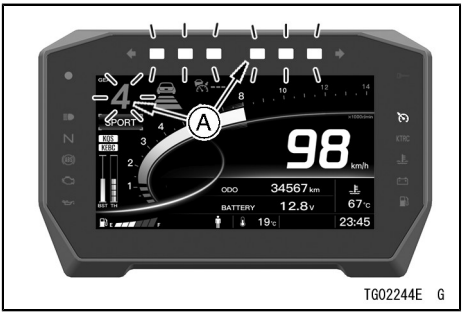


A. FCWインジケータ

アドバイス

- システムはブレーキをかけません。ブレーキをかける、車線を変更するなど適切な操作で衝突を避けてください。
- 特定の条件下では、システムが機能しない場合があります。注意事項、制限事項などの詳細については「正しい運転操作」の章、「フロントレーダアシスト」の項を参照してください(219ページを参照)。

シフトアップインジケータ



A. シフトアップインジケータ

FCWインジケータはシフトアップインジケータとしても機能します。設定したエンジン回転数になると点滅し、シフトアップに最適なタイミングを運転者に知らせます。この場合LEDは白色に点滅します。

アドバイス

○ 設定したエンジン回転数になる少し前からギヤポジションインジケータが点滅し、シフトアップインジケータが点滅している間はオレンジ色になります。

⚠ 警告

- **道路前方を充分に注意して運転しないと事故につながる可能性があります。シフトアップインジケータに気を取られないように充分注意してください。**
- **高速域から低いギヤにシフトダウンすると、エンジンに損傷を与えたり、車輪が滑って事故につながる可能性があります。低いギヤへのシフトダウンは各ギヤ共に5000回転以下で行ってください。**

設定方法

設定値を調整したり、機能をオフにすることもできます。「メニューモード画面」の項を参照してください(83ページを参照)。

光度センサ

メータユニットの照明は、周囲の明るさに応じて自動調整されます。

アドバイス

○ 光度センサを覆ったり、影になるものを取り付けたりすると、自動調整機能が正常に作動しない可能性があります。

メータユニットの明るさの設定

- メータユニットの明るさを、手動で3段階に調整できます。「メニューモード画面」の項を参照してください(94ページを参照)。

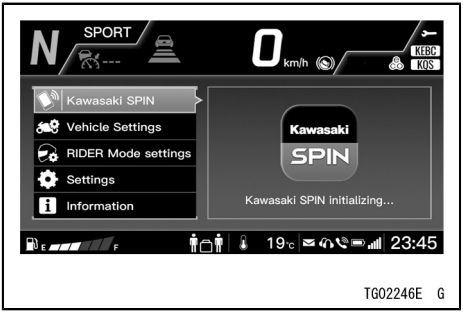
ホーム画面



ホーム画面にはメータユニットの全ての機能を表示できます。いくつかの要素は操作ボタンで切り替えることができます。

表示する要素が多いため、画面を3つの範囲に分け「ホーム画面」の項で順番に説明します。

メニューモード画面



メニューモード画面は、車両の各種機能を設定することができます。この画面は1つのボタンでホーム画面から切り替えることができ、この画面が表示された状態で車両に乗ることができますが、ホーム画面と比べると表示項目が少なくなっています。

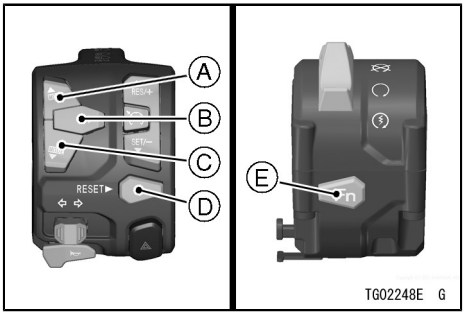
また、Kawasaki SPINアプリを使用して、ワイヤレス接続されたスマートフォンの一部のアプリをミラーリングすることもできます。

Kawasaki SPINアプリ



操作ボタン

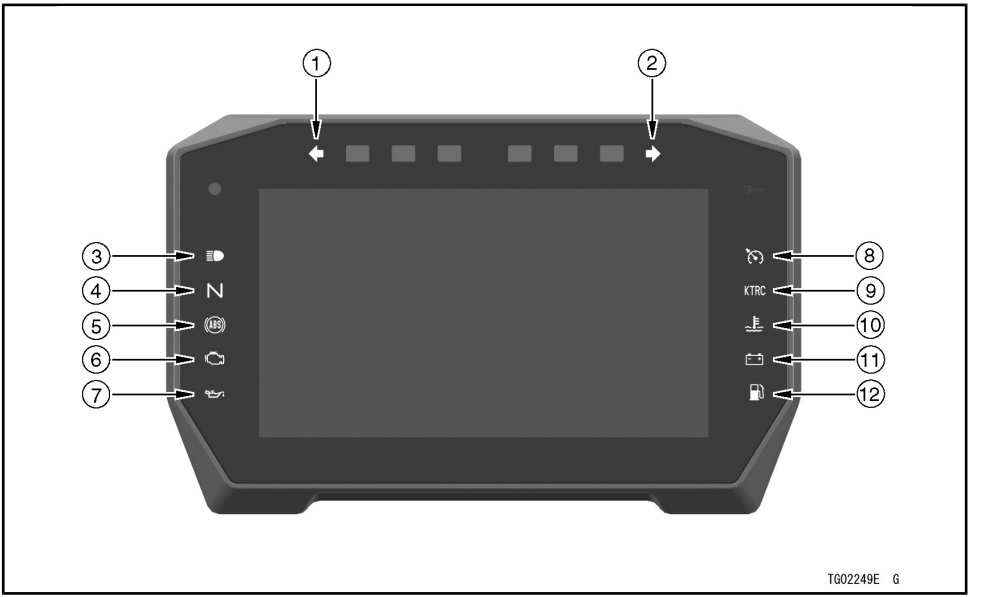
メータを操作するためのハンドルのボタンは以下のとおりです。



A. 上MODEボタン
B. ミドルボタン
C. 下MODEボタン
D. RESETボタン
E. Fnボタン

ページ調整のため挿入した白紙です。

インジケータ



1. 緑色左ターンシグナルインジケータ
2. 緑色右ターンシグナルインジケータ
3. 青色ハイビームインジケータ
4. N 緑色ニュートラルインジケータ
5. 黄色ABSインジケータ
6. 黄色エンジン警告インジケータ
7. 赤色油圧警告インジケータ
8. 白色クルーズコントロールインジケータ
9. KTRC 黄色KTRCインジケータ
10. 赤色水温警告インジケータ
11. 赤色バッテリ電圧警告インジケータ
12. 橙色燃料警告インジケータ

警告インジケータが点灯または点滅したとき

警告インジケータが表示された場合、車両に問題がある可能性があります。安全な場所に車両を停車した後、次の表の対応をしてください。

インジケータ	状態	対応
	点灯	油圧が低いとき、またはイグニションスイッチをオンにしたときに点灯します。エンジン始動後も継続して点灯する場合は、エンジンを直ちに停止し、エンジンオイルレベルを確認してください。エンジンオイルが不足している場合は補充してください。オイル量が正常でも点灯する場合はカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点灯	水温が約115°C以上になると点灯します。安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンが冷えてからリザーブタンクの冷却液の量を確認してください。冷却液の量が不充分な場合は、リザーバタンクに冷却液を補給してください。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点灯	バッテリ電圧が11.0V以下または16.0V以上になっています。11.0V以下の場合は、バッテリを充電してください。16.0V以上の場合もしくはバッテリを充電した後でも点灯する場合はカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

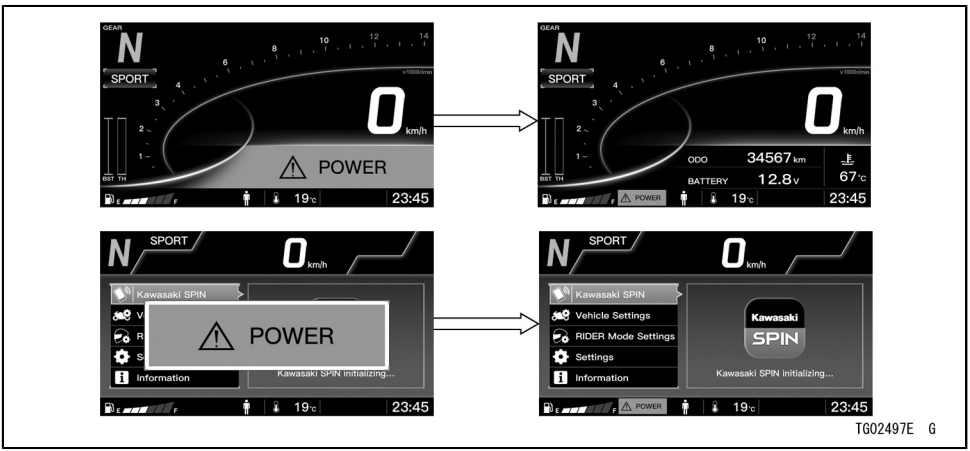
インジケータ	状態	対応
	点灯	特定の条件*1で点灯することがあります。インジケータが点灯した場合は、一旦イグニションスイッチをオフにして、再度イグニションスイッチをオンにした後、5 km/h以上の車速で走行するとインジケータは消灯します。ABSに問題がある場合は点灯し続けます。点灯中にはABSは作動しませんが、通常のブレーキシステムは正常に作動します。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点灯	FI（フューエルインジェクション）システムに問題があります。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。
	点滅	
	点灯	点灯時、燃料タンクには燃料が約3.0L残っています。燃料を早めに補給してください。サイドスタンド状態においては燃料計は燃料量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、燃料量の確認を行ってください。
	点滅	燃料警告システムに問題があります。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

*1：
- 連続して悪い路面を走行したとき。
- スタンドで後輪を持ち上げ、ギヤを入れた状態でエンジンを始動して、後輪を回転させたとき。
- 前輪が地面から離れるような、急激な加速をしたとき。
- ABSが強力な電波障害を受けたとき。
- タイヤの空気圧が異常なとき。（空気圧を調整してください。）
- 標準とは異なるサイズのタイヤが使用されたとき。（標準タイヤを使用してください。）
- ホイールが変形しているとき。（ホイールを交換してください。）

警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージが表示されると、それらのシステムは無効になります。電子制御システムに問題がある可能性があります。カワサキ正規取扱店にお問い合わせください。

警告メッセージは表示を最小化できます。すべてのメッセージが最小化されるまでRESETボタンを繰り返し押してください。



⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

警告メッセージ	問題があるシステム
	**Kawasaki TRaction Control (KTRC)** システムの詳細はKTRCの項を参照してください。
	**パワーモード** システムの詳細はパワーモードの項を参照してください。
	**Kawasaki Engine Brake Control (KEBC)** システムの詳細はKEBCの項を参照してください。
	**Kawasaki Quick Shift (KQS)** システムの詳細はKQSの項を参照してください。
	**Kawasaki Launch Control Mode (KLCM)** システムの詳細はKLCMの項を参照してください。
	**Kawasaki Electronic Control Suspension (KECS)** システムの詳細はKECSの項を参照してください。
	**カワサキインテリジェントアンチロックブレーキシステム (KIBS)** システムの詳細はKIBSの項を参照してください。
	**Kawasaki Cornering Management Function (KCMF)** システムの詳細はKCMFの項を参照してください。
	**アダプティブクルーズコントロール(ACC)** システムの詳細はACCの項を参照してください。

警告メッセージ	問題があるシステム
⚠ FCW	**前方衝突警告（FCW）** システムの詳細はFCWの項を参照してください。
⚠ BSD	**後方死角検知（BSD）** システムの詳細はBSDの項を参照してください。
⚠ VHA	**ビークルホールドアシスト（VHA）** システムの詳細はVHAの項を参照してください。
⚠ CL	**コーナリングライト** システムの詳細はコーナリングライトの項を参照してください。
⚠ AHB	**オートハイビーム（AHB）** システムの詳細はAHBの項を参照してください。

次の警告メッセージが表示された場合は、車両に問題がある可能性があります。安全な場所に停車した後、次の表の対応をしてください。警告メッセージは、RESETボタンを押すことで最小化できます。

警告メッセージ	対応
	KIPASSがFOBキー（携帯機）を検出できないか、FOBキー（携帯機）の電池が切れています。走行中にFOBキー（携帯機）を紛失した場合、エンジンを再始動できない場合があります。KIPASSの項の手順に従ってください。
	FOBキー（携帯機）の電池が弱っています。KIPASSの項の手順に従ってFOBキー（携帯機）の電池を交換してください。
	前輪のタイヤ空気圧が低下しています。空気圧を規定値に調整してください。表示が消えない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。
	後輪のタイヤ空気圧が低下しています。空気圧を規定値に調整してください。表示が消えない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。
	前輪のタイヤ空気圧センサの電池が弱っています。カワサキ正規取扱店にご相談ください。
	後輪のタイヤ空気圧センサの電池が弱っています。カワサキ正規取扱店にご相談ください。
	タイヤ空気圧監視システムに問題があります。カワサキ正規取扱店にご相談ください。

その他のインジケータ

インジケータ	状態
⬅	ターンシグナルスイッチを左の方に入れると点滅します。
➡	ターンシグナルスイッチを右の方に入れると点滅します。
≡D	ヘッドライトの照射をハイビーム（上向き）にすると点灯します。
N	トランスミッションがニュートラルのときに点灯します。
	クルーズコントロールシステムをオンにすると点灯します。詳細は「正しい運転操作」の章、「ACC」の項を参照してください（221ページを参照）。
KTRC	KTRCが作動しているときに点滅します。

インジケータ初期動作



TG02250E G

イグニションスイッチをオンにすると、次の表のとおり、インジケータが点灯または消灯します。もし動作しない場合は、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

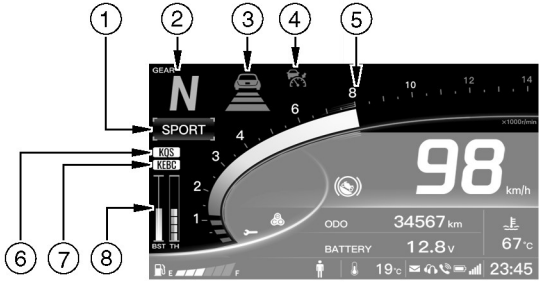
アドバイス

○ このとき、FCWインジケータ(赤)とシフトアップインジケータ(白)も数秒間点灯します。同時に点灯するためピンク色に見えます。

ON	⌛		インジケータ
□	□	□	ABS* N
□	□	■	
□	■	■	KTRC

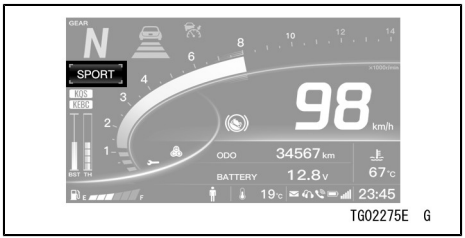
ON: イグニションスイッチをオンにしたとき
⌛: 数秒後
: エンジン始動時
□: 点灯
■: 消灯
*: 車両が動き始めてから消灯

ホーム画面（上部）



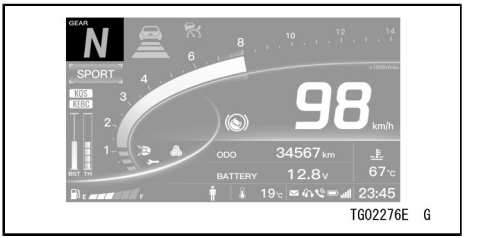
1. インテグレイテッドライディングモードインジケータ
2. ギヤポジションインジケータ
3. 車間距離インジケータ
4. ACCインジケータ
5. タコメータ
6. KQSインジケータ
7. KEBCインジケータ
8. マルチファンクションゲージ
   –ブースト圧
   –スロットル開度
   –フロントブレーキ圧
   –加速度／減速度

インテグレイテッドライディングモードインジケータ



使用中のライディングモードを表示します。「正しい運転操作」の章、「インテグレイテッドライディングモード」の項を参照してください(207ページを参照)(210ページを参照)。

ギヤポジションインジケータ

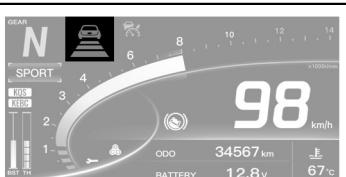


トランスミッションのギヤ位置を表示します。ギヤがニュートラルのときは"N"を表示します。

アドバイス

- ギヤポジションインジケータが表示されていない場合、ギヤが正しく入っていない可能性があります。
- ギヤポジションインジケータはシフトアップインジケータが作動すると点滅、または色が変わります。「シフトアップインジケータ」の項を参照してください(35ページを参照)。

車間距離インジケータ



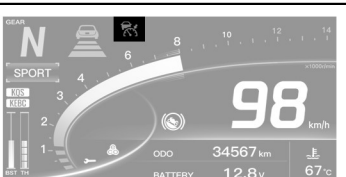
TG02277E G

ACCによる車間距離の設定を3段階で表示します。「正しい運転操作」の章、「ACC」の項を参照してください(221ページを参照)。

設定方法

「メニューモード画面」の項を参照してください(86ページを参照)。

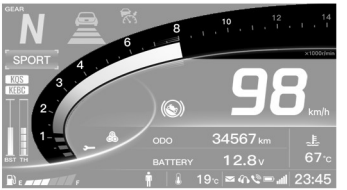
ACCインジケータ



TG02278E G

ACCの状況を表示します。「正しい運転操作」の章、「ACC」の項を参照してください(221ページを参照)。

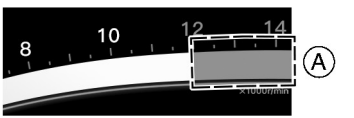
タコメータ



毎分のエンジン回転速度を示します。タコメータにはレッドゾーンがあります。バーがレッドゾーンに入らないように運転してください。

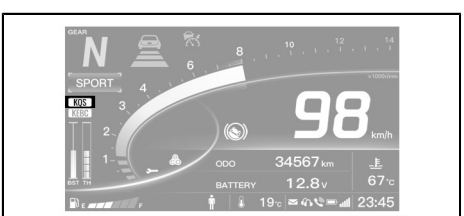
注意

レッドゾーンは、エンジンの許容回転速度を超える領域を示したもので、レッドゾーンに入るような運転あるいはレッドゾーン内での運転は、エンジン故障の原因となりますので、そのような運転をしないようにお願いします。



A. レッドゾーン

KQSインジケータ

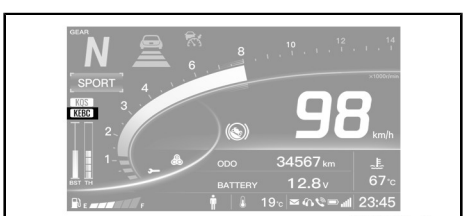


メニューモード画面でKQSをオンにすると表示します。「正しい運転操作」の章、「KQS」の項を参照してください(248ページを参照)。

設定方法

「メニューモード画面」の項を参照してください(84ページを参照)。

KEBCインジケータ

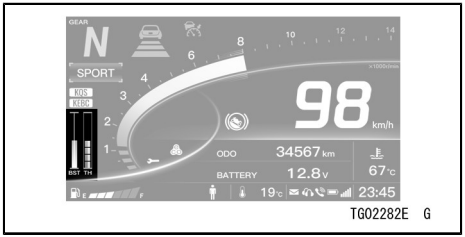


メニューモード画面でKEBCをオンにすると表示します。「正しい運転操作」の章、「KEBC」の項を参照してください(249ページを参照)。

設定方法

「メニューモード画面」の項を参照してください(85ページを参照)。

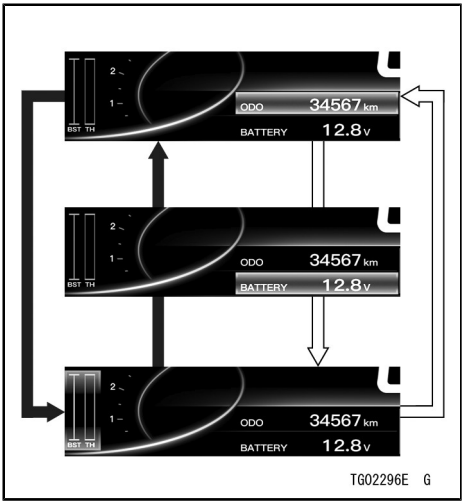
マルチファンクションゲージ



ブースト圧に加えて、フロントブレーキ圧、スロットル開度、加速度／減速度のいずれかを表示することができます。

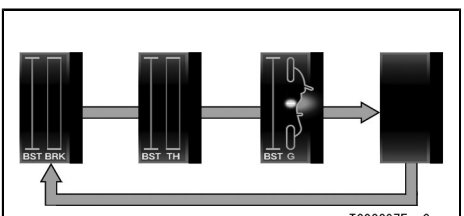
設定方法

- 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押すと、カーソルが表示されます。
- 上MODEボタンまたは下MODEボタンでマルチファンクションゲージにカーソルを合わせます。



➡ : 上MODEボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : 下MODEボタンを押したときの切り替わり方

- ミドルボタンを押すと、表示項目が次の順序で切り替わります。



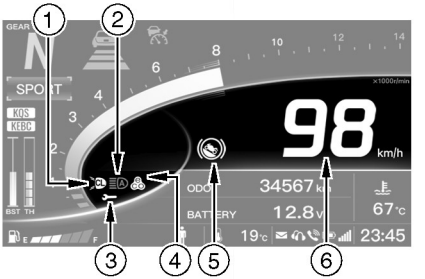
⇨ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方

マルチファンクションゲージ

ブースト圧／フロントブレーキ圧
ブースト圧／スロットル開度
ブースト圧／加速度と減速度
表示なし

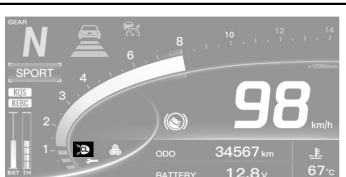
- RESETボタンを押すとカーソルの選択が解除されます。

ホーム画面（中央部）



1. コーナリングライトインジケータ
2. AHBインジケータ
3. サービスインジケータ
4. ECO走行インジケータ
5. VHAインジケータ
6. スピードメータ

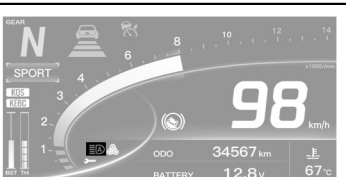
コーナリングライトインジケータ



TG02283E G

メニューモード画面でコーナリングライト（CL）機能をオンにするとインジケータが点灯します。「各部の取り扱い方」の章、「コーナリングライト」の項を参照してください(159ページを参照)。

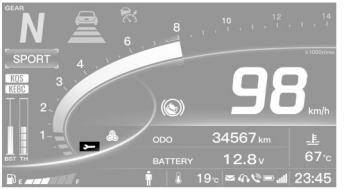
AHBインジケータ



TG02659E G

AHBシステムをオンにするとインジケータが点灯します。「正しい運転操作」の章、「AHB」の項を参照してください(242ページを参照)。

サービスインジケータ



TG02284E G

この車にはメンテナンスに関する通知機能を3種類（カワサキの標準設定および個人で指定できるエンジンオイル用とその他用）設定できます。

日付または距離が設定した値に達すると、イグニションスイッチをオンにしたときに、画面上にサービスインジケータとサービス通知メッセージが表示されるようになります。

サービス通知メッセージは30秒経過後に非表示となります。



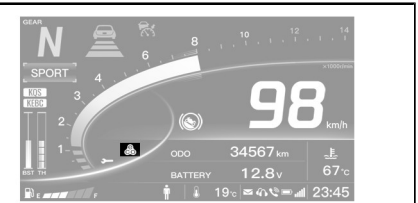
TG02298E G

A. サービス通知メッセージ

設定方法

「メニューモード画面」の項を参照してください(110ページを参照)。

ECO走行インジケータ



TG02285E G

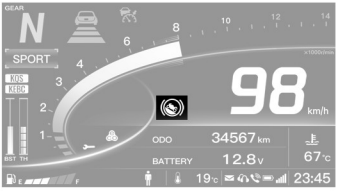
運転者が燃料消費を抑えた走行を行っているときはECO走行インジケー

タが表示され、低燃費走行であることが確認できます。ECO走行インジケータが表示される運転を心がけることで、燃料効率を高めることができます。

⚠ 警告

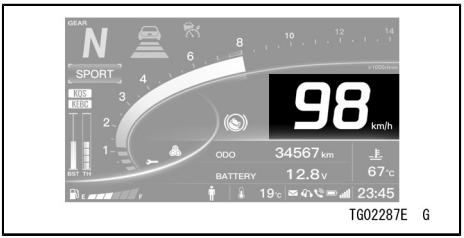
ECO走行インジケータに気を取られ過ぎて道路や交通の状況への注意を怠ると、死亡や傷害につながる事故を引き起こす可能性があります。常に広い視野をもって運転してください。

VHAインジケータ



VHAシステムでブレーキをかけているときにインジケータが点灯します。システムがブレーキを解除する前に、このインジケータは点滅します。「正しい運転操作」の章、「VHA」の項を参照してください(247ページを参照)。

スピードメータ

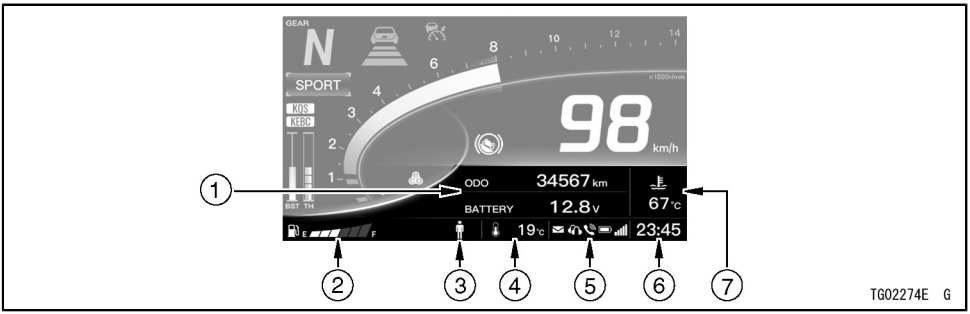


走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

アドバイス

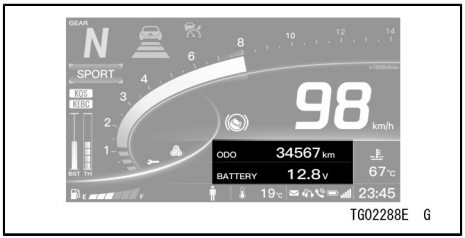
- 日本国内では、スピードメータの表示をキロメートル(km/h)に合わせてください。切り替え方法は「メニューモード画面」の項、「表示単位の設定(Units)」を参照してください(93ページを参照)。

ホーム画面(下部)



1. マルチファンクションディスプレイ
   - –オドメータ
   - –トリップメータA/B
   - –リーン角
   - –最大リーン角
   - –タイヤ空気圧
   - –ブースト圧(%)
   - –ブースト温
   - –瞬間燃費
   - –平均燃費
   - –航続可能距離
   - –平均車速
   - –経過時間
   - –バッテリ電圧
2. 燃料計
3. KECSプリロードモードインジケータ(装備モデル)
4. 外気温計
5. 機器接続インジケータ
6. 時計
7. 水温計

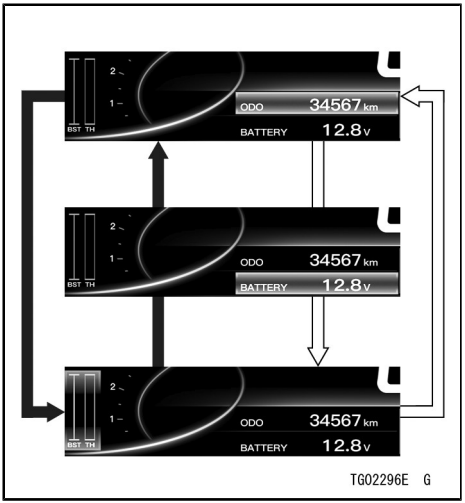
マルチファンクションディスプレイ



車両の現在の状態に関する様々な情報を表示することができます。

設定方法

- 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押すと、カーソルが表示されます。
- 上MODEボタンまたは下MODEボタンでマルチファンクションディスプレイにカーソルを合わせます。

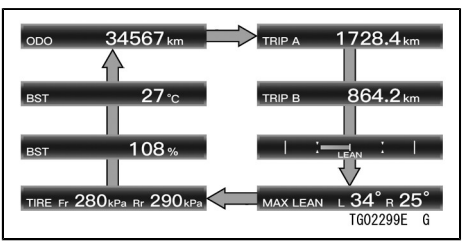


➡ : 上MODEボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : 下MODEボタンを押したときの切り替わり方

- ミドルボタンを押すと、表示項目が次の順序で切り替わります。

上段

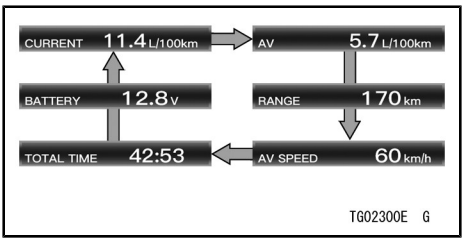
オドメータ
トリップメータA
トリップメータB
リーン角
最大リーン角
タイヤ空気圧
ブースト圧
ブースト温



⇨ :ミドルボタンを押したときの切り替わり方

下段

瞬間燃費
平均燃費
航続可能距離
平均車速
経過時間
バッテリ電圧



⇨ :ミドルボタンを押したときの切り替わり方

- RESETボタンを押すとカーソルの選択が解除されます。

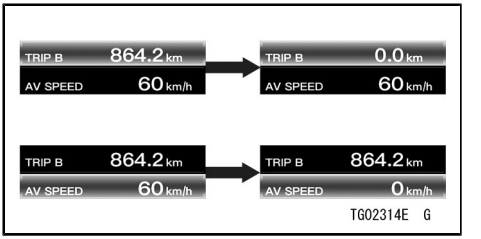
リセット方法

- 上記の手順でカーソルを表示し、リセットしたい項目をマルチファンクションディスプレイに表示させます。

リセットできる項目

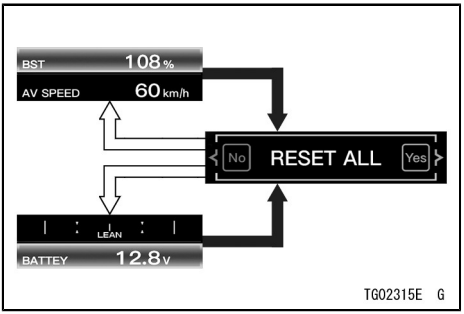
トリップメータA/B
最大リーン角
平均燃費
平均車速
経過時間

- 数値がリセットされるまでRESETボタンを押し続けます。



➡ : RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

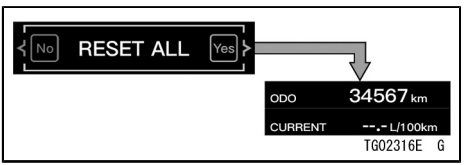
- リセットできる項目をすべてリセットするには、マルチファンクションディスプレイの項目をリセットできない項目に切り替え、カーソルを合わせてください。
- “RESET ALL”と表示されるまでRESETボタンを長押しします。



➡ : RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

- ミドルボタンを押してリセットを完了します。



⇨ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方

オドメータ

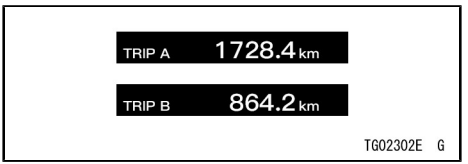


総走行距離を表示します。定期点検整備の目安となります。オドメータは“0 km”に戻すことはできません。

アドバイス

○ 値は“999999 km”までカウントされ、以降は固定されます。

トリップメータ

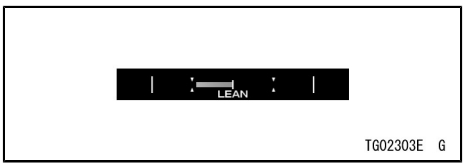


リセットした時点からの走行距離を表示します。

アドバイス

○ 値は“9999.9 km”を超えると“0.0 km”に戻ります。

リーン角



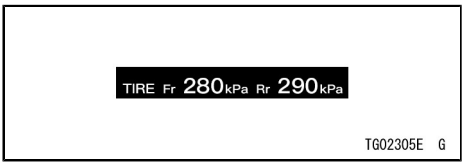
車体の左右の傾き（リーン角）を表示します。角度が大きいほどゲージが増えます。

最大リーン角



リセット時点から最も大きい車体の左右の傾き（最大リーン角）を表示します。

タイヤ空気圧



タイヤの空気圧を表示します。約20 km/h以上の車速で走行すると表示します。

アドバイス

- タイヤ空気圧は350 kPaまで表示することができます。
- 表示するタイヤ空気圧は実際の値と多少異なる場合があります。ゲージ等で測定した値と明らかに異なる場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。
- 空気圧の点検、調整は「簡単な整備」の章、「タイヤ」の項を参照してください(274ページを参照)。
- タイヤ空気圧センサは、電波を発生します。ノイズが多い場所、または強力な電波が存在する場所では、タイヤ空気圧が正しく表示されない場合があります。

ブースト圧(%)



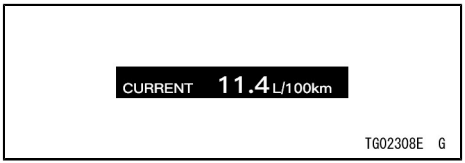
エアインテークチャンバ内の過吸圧（ブースト圧）をパーセントで表示します。

ブースト温



エアインテークチャンバ内の過吸気温（ブースト温）を表示します。

瞬間燃費

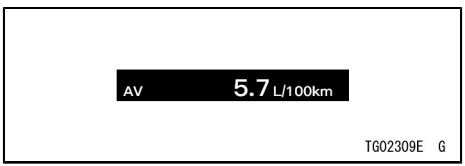


走行中に瞬間の燃料消費率を表示します。

アドバイス

- 走行開始から数秒後に数値が表示されます。

平均燃費

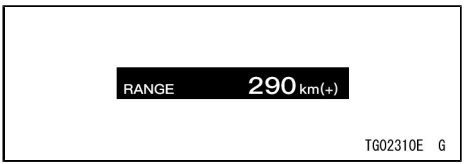


リセット時点からの平均の燃料消費率を表示します。

アドバイス

- 走行開始から数秒後に数値が表示されます。

航続可能距離



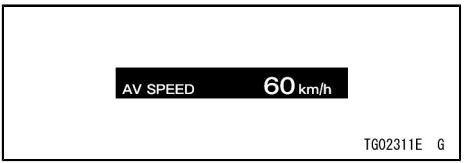
燃料タンクの残量に基づいて航続可能距離を表示します。

アドバイス

- 燃料が充分にあるときは、数値の横に「(＋)」が表示されます。
- 燃料が少なくなり燃料シンボルが点滅し始めた後、しばらく走行を続けると航続可能距離は表示されなくなります。
- 燃料を補給すれば燃料シンボルの点滅は止まり、航続可能距離が表示されるようになります。航続可能距離は、

燃料残量が少ないときにも表示されますが、正確ではありません。

平均車速



リセット時点からの平均の車速を表示します。

経過時間

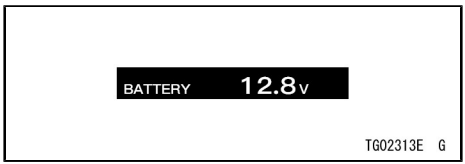


イグニションスイッチをオンにしている間に経過した時間を表示します。

アドバイス

○ 値は“99:59”（99時間59分）までカウントされ、以降は固定されます。

バッテリ電圧

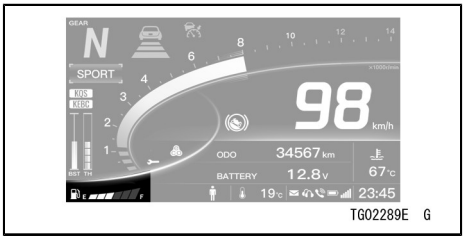


現在のバッテリ電圧を表示します。

アドバイス

○ 表示する値は実際の電圧と多少異なる場合があります。電圧計等で測定した値と明らかに異なる場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

燃料計

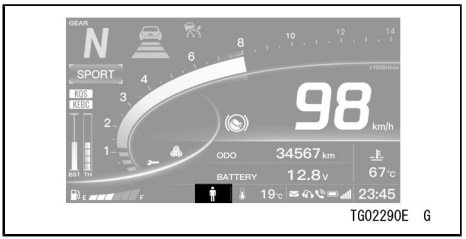


燃料タンクの残量がセグメントの数で表示されます。

アドバイス

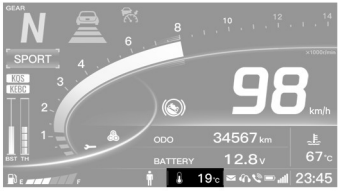
- **燃料警告インジケータが点灯すると、燃料計（燃料シンボルとセグメント1つ）が点滅します。**
- **燃料計全体が点滅してる場合は、燃料計系統に問題があります。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**

KECSプリロードモードインジケータ（すべてのモデルで使用できるわけではありません。）



使用中のKECSプリロードモードを表示します。「正しい運転操作」の章、「KECS」の項を参照してください(216ページを参照)。

外気温計



周囲の気温を表示します。−20 ~ 60°Cの範囲で表示します。

アドバイス

○ 外気温センサが濡れたり、車速が20 km/h以下の場合は正しく表示されない場合があります。車速が20 km/h以下の場合、外気温計の値は変化しません。

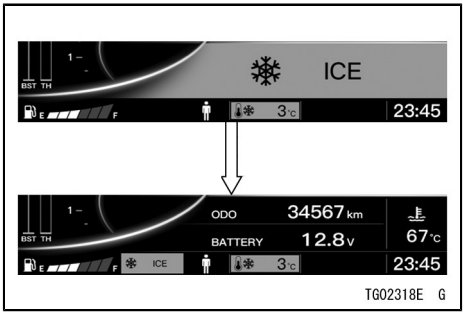
⚠ 警告

キーON時に外気温が3°C以下になっていた場合、"ICE"警告が表示されて路面が凍結している可能性があることをお知らせします。警告が表示された場合、路面状況に特に注意して運転してください。

アドバイス

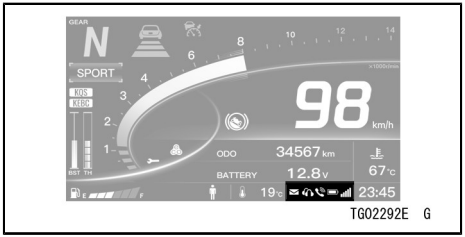
○ この警告メッセージは外気温が4°Cに上昇すると解除されます。

○ 警告メッセージはRESETボタンを押すことで表示を最小化できます。

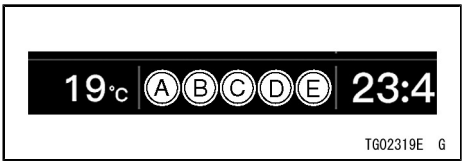


⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

機器接続インジケータ



スマートフォンやヘルメットヘッドセットが車両に接続されている場合、インジケータが表示されます。



A. メールインジケータ
B. ヘルメット／ヘッドセット接続インジケータ
C. スマートフォン接続インジケータ
D. バッテリ残量インジケータ
E. 電波強度インジケータ

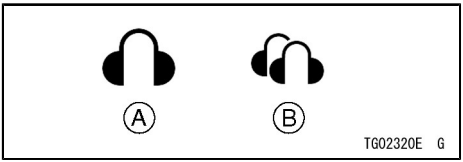
メールインジケータ

SMSまたはMMSを受信したときに表示されます。



ヘルメット／ヘッドセット接続インジケータ

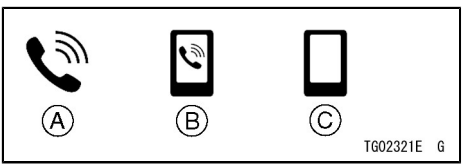
ヘルメットまたはヘッドセットを車両に接続すると表示されます。



A. 1つのヘルメットまたはヘッドセット接続時
B. 2つのヘルメットまたはヘッドセット接続時

スマートフォン接続インジケータ

スマートフォンを車両に接続すると表示されます。



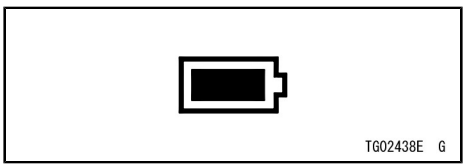
A. ブルートゥース®接続時
B. 無線LANとブルートゥース接続時
C. 無線LAN接続時

アドバイス

- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標です。
- 周囲の温度が60°Cを超えると、無線LANおよびブルートゥースは切断されます。

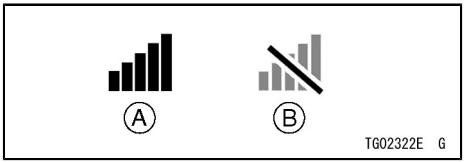
バッテリ残量インジケータ

接続しているスマートフォンのバッテリ残量を表示します。



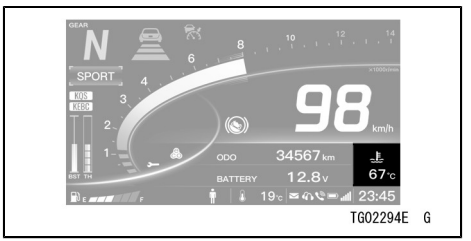
電波強度インジケータ

接続しているスマートフォンの電波強度を表示します。



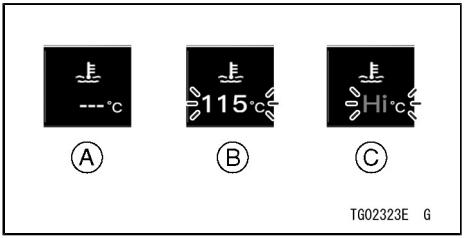
A. 電波が強い
B. 電波がない

水温計



冷却液の温度を表示します。水温が40°C以下の場合は“——”と表示され、数値は表示されません。

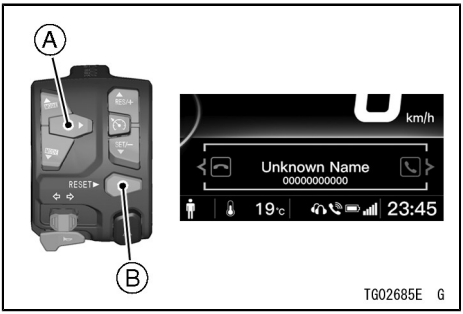
水温が上昇して115°Cを超えると数値が点滅し、120°C以上になると“Hi”の点滅表示に切り替わり、水温が高いことを警告します。



A. 40°C以下
B. 115°C ~ 119°C
C. 120°C以上

電話

スマートフォンとヘッドセットがメータに接続されている場合は、電話を受けることができます。

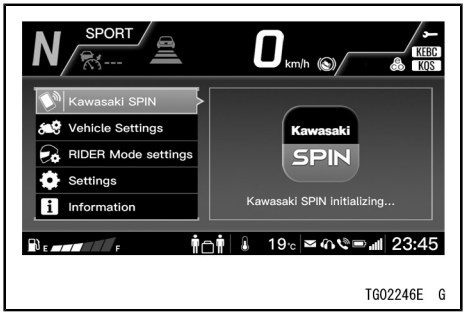


A. 電話を受ける
B. 電話を切る

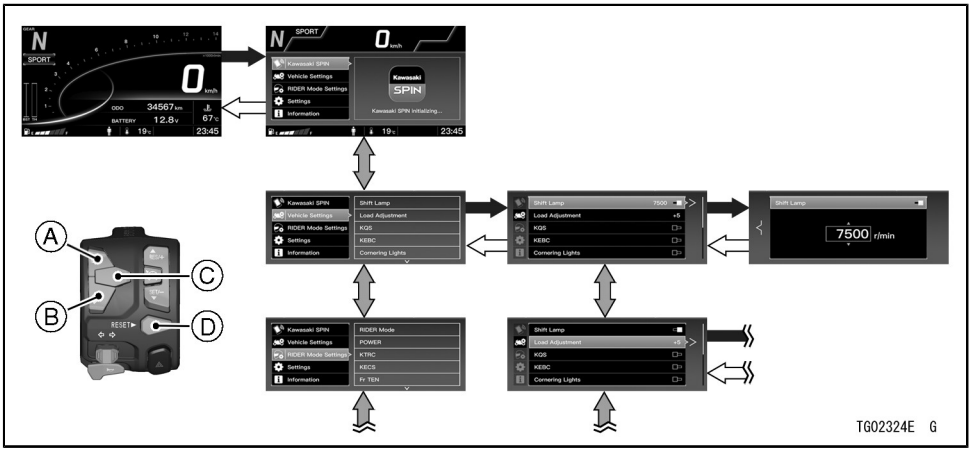
アドバイス

○ 通話中の音量は上下のMODEボタンで調整ができます。

メニューモード画面



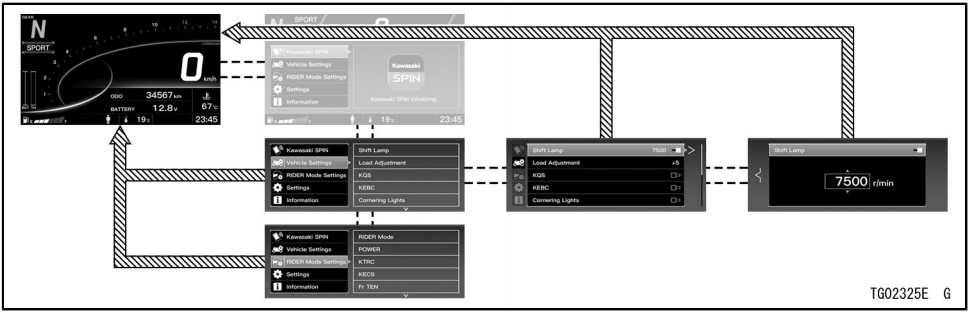
基本操作



➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方
A. 選択項目の移動
B. 選択項目の移動
C. 次の画面に進む（決定）
D. 前の画面に戻る（キャンセル）

アドバイス

○ メニューモードのどの画面でも、RESETボタンを押し続けるとホーム画面に戻ります。



⇨ : RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

アドバイス

○ 運転中にミドルボタンを押すと、スマートフォンに接続していればミラーリング画面に切り替わります。



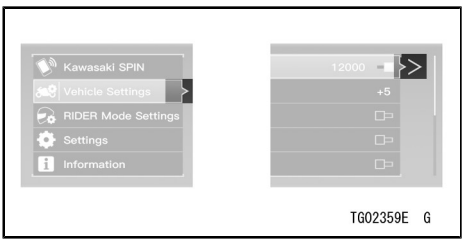
アドバイス

○ スマートフォンに接続していない場合は警告メッセージが表示されます。



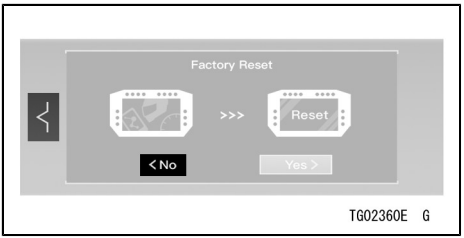
A. 警告メッセージ

凡例
右向き矢印状の記号



これらの記号がある場合は、ミドルボタンを押すことで、選択の決定や次画面への移行ができます。

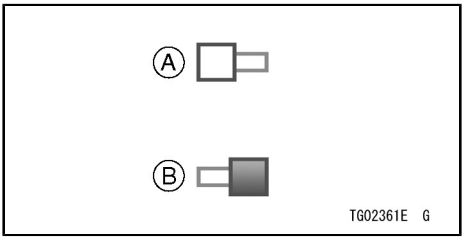
左向き矢印状の記号



TG02360E G

これらの記号がある場合は、RESETボタンを押すことで、選択のキャンセルや前画面への移行ができます。

スライドスイッチ状の記号

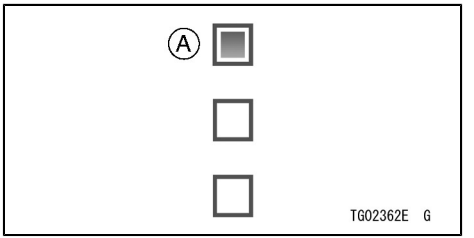


TG02361E G

A. オフ
B. オン

オン／オフを示す記号です。ミドルボタンを押して切り替えます。

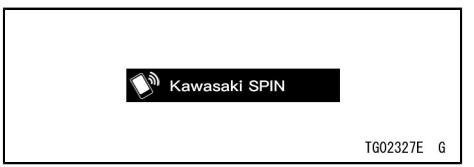
チェックボックス状の記号



A. 選択した項目

複数の選択肢を示す記号です。上MODEボタンまたは下MODEボタンで項目を選び、ミドルボタンを押して設定します。

Kawasaki SPIN

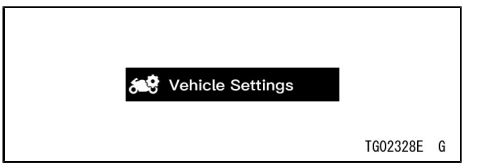


アドバイス

○ Kawasaki SPIN機能を使用するには、Kawasaki SPINアプリが必要です。詳細は、Kawasaki SPINアプリの項を参照してください(116ページを参照)。

スマートフォンと車両が接続されている場合は、ここからKawasaki SPINアプリのミラーリングを開始できます。

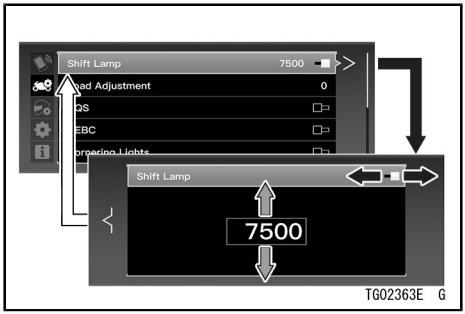
Vehicle Settings



Shift Lamp

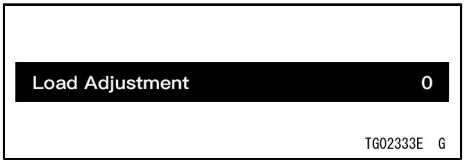


シフトアップインジケータのオン／オフを切り替えます。また、シフトアップインジケータが作動するタイミングも設定できます。

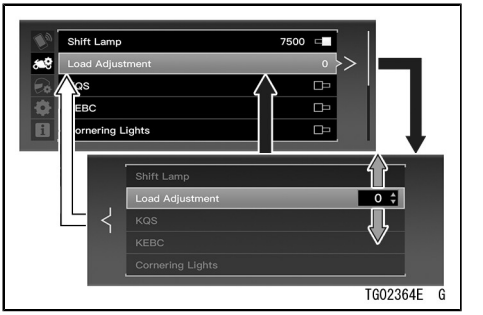


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

Load Adjustment
（すべてのモデルで使用できるわけではありません。）

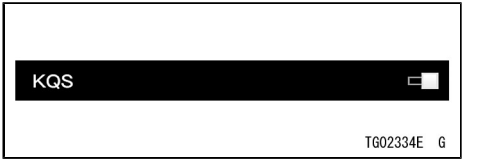


KECSのプリロードセッティング値を11段階の範囲で調整します。

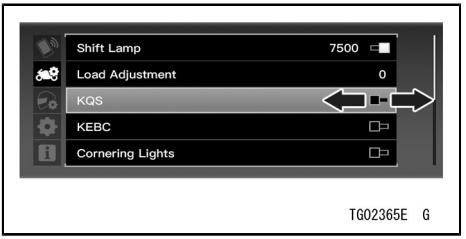


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

KQS



KQSのオン／オフを切り替えます。

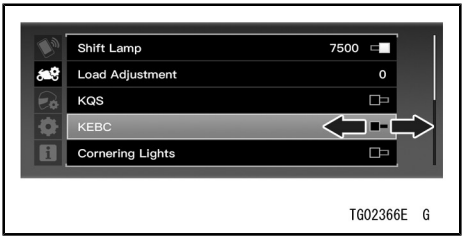


➡ :ミドルボタンを押したときの切り替わり方

KEBC



KEBCのオン／オフを切り替えます。



➡ :ミドルボタンを押したときの切り替わり方

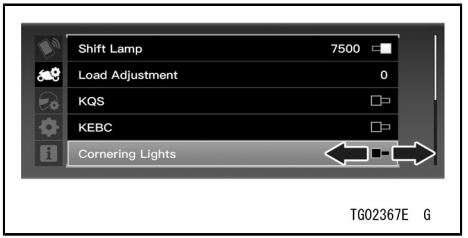
Cornering Lights



コーナリングライトのオン／オフを切り替えます。

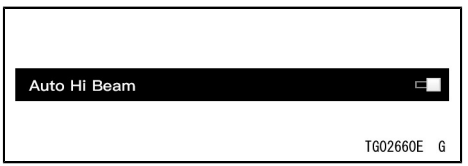
アドバイス

○ エンジンを停止している間は選択できなくなります。

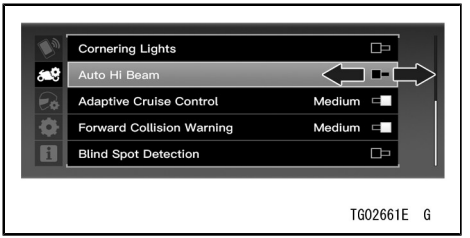


➡ :ミドルボタンを押したときの切り替わり方

Auto Hi Beam

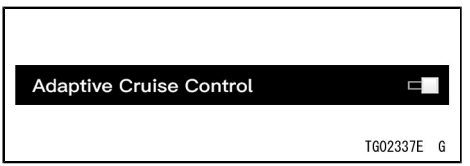


AHBのオン／オフを切り替えます。



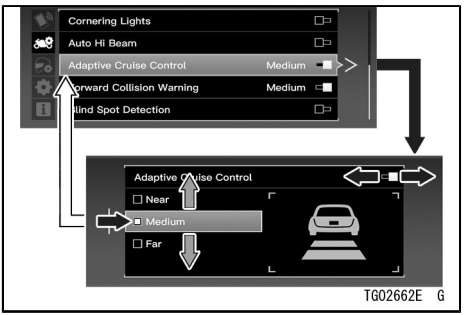
➡ :ミドルボタンを押したときの切り替わり方

Adaptive Cruise Control



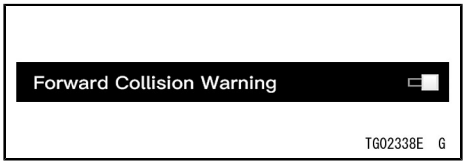
ACCのオン／オフを切り替えます。また、車間距離も3段階で調整できます。

Near	近い
Medium	標準
Far	遠い



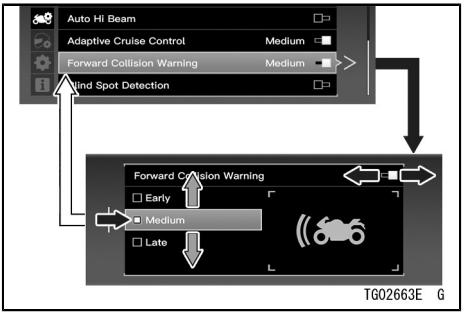
➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
➡ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

Forward Collision Warning



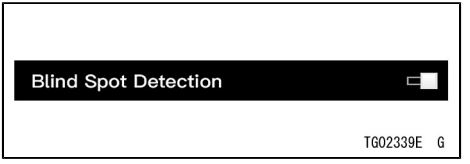
FCWのオン／オフを切り替えます。また、FCWが作動するタイミングも3段階で設定できます。

Early	早め
Medium	標準
Late	遅め

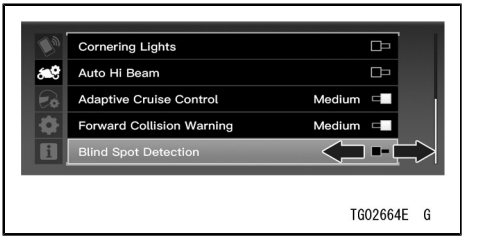


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇛ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

Blind Spot Detection

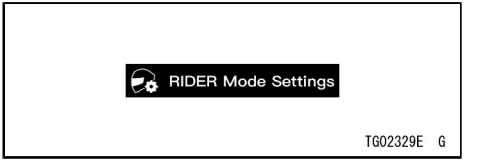


BSDのオン／オフを切り替えます。



➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方

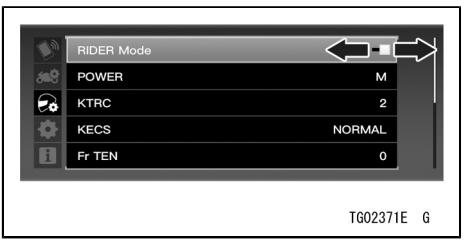
RIDER Mode Settings



RIDER Mode



ライダモードのオン／オフを切り替えます。



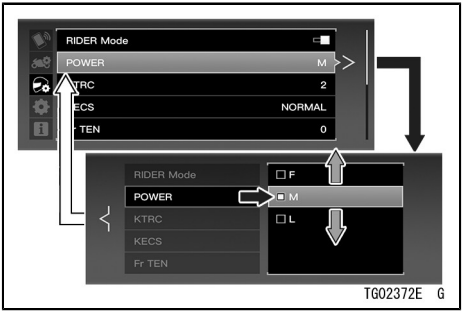
➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方

POWER



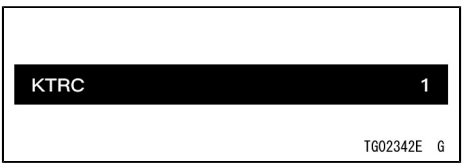
パワーモードを3段階で切り替えます。

モード	出力特性
F	フルパワー
M	ミドルパワー（約75%）
L	ローパワー（約50%）



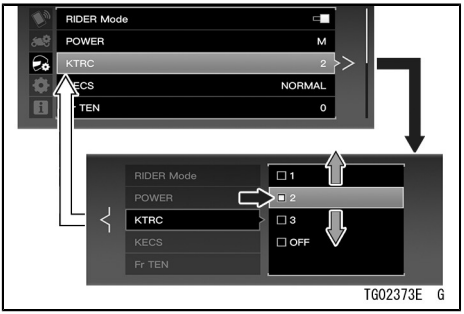
➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇛ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

KTRC



KTRCを3段階で切り替えます。また、機能をオフにすることもできます。

モード	システム介入頻度
1	少
2	中
3	多
OFF	介入なし



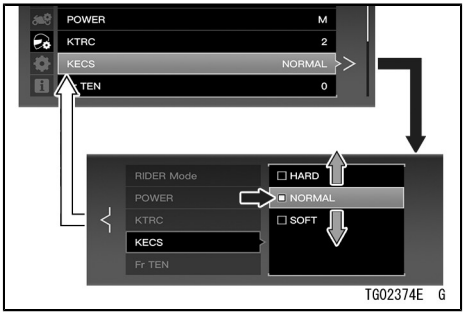
➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

KECS
（すべてのモデルで使用できるわけではありません。）



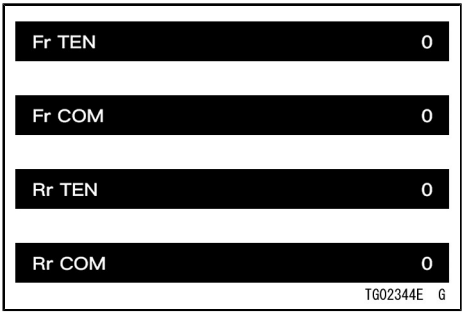
KECSを3段階で切り替えます。

モード	サスペンションセッティング
HARD	硬め、高荷重時や高速域用
NORMAL	標準レベル
SOFT	柔らかめ、軽荷重時や低速域用



➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

KECS減衰力
（すべてのモデルで使用できるわけではありません。）



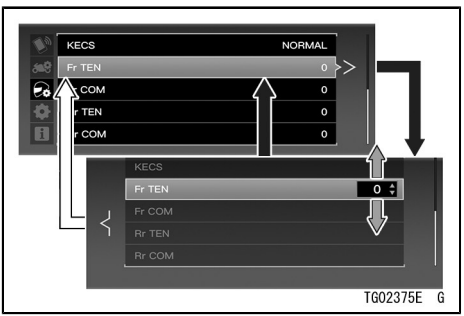
ライダモードでは、前後サスペンションの減衰力セッティングを個別に調整できます。

Fr	フロントフォーク
Rr	リヤショックアブソーバ

COM	圧側減衰力
TEN	伸側減衰力

アドバイス

○ KECSの減衰力セッティングはHARD、NORMAL、SOFTそれぞれで個別に保存されます。



➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
➡ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

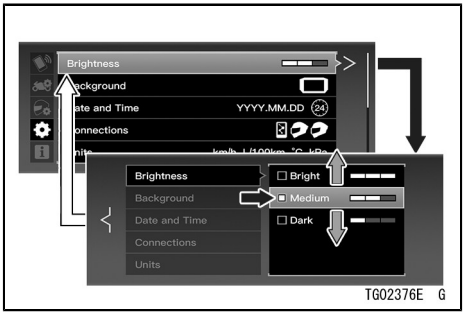
Settings



Brightness

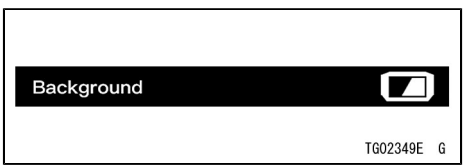


画面の明るさを3段階で切り替えます。

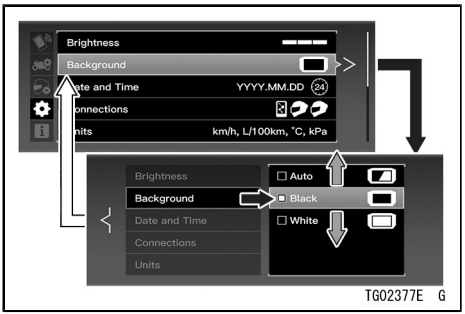


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

Background

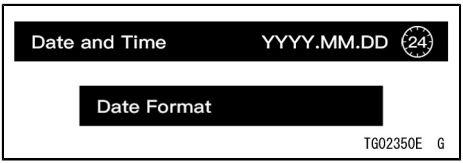


画面の背景色を切り替えます。また、自動モードに設定することもできます。

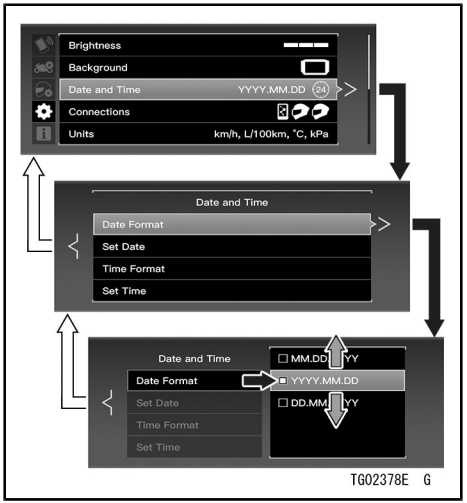


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

Date and Time (Date Format)



日付の表示方法を切り替えます。

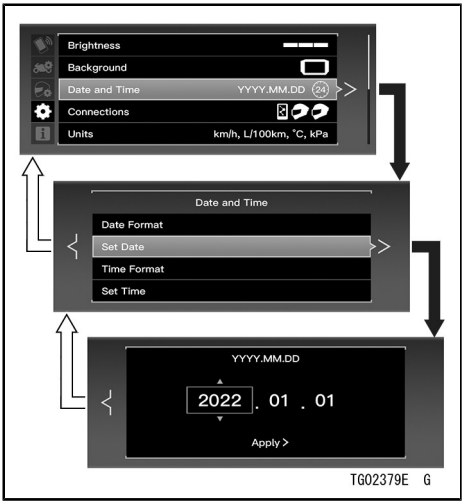


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

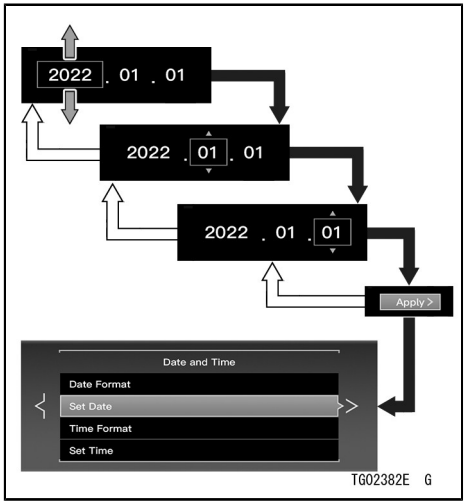
Date and Time (Set Date)



日付を設定します。

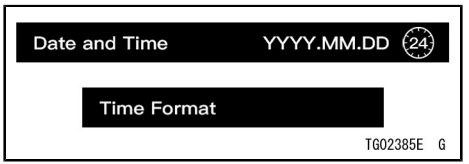


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

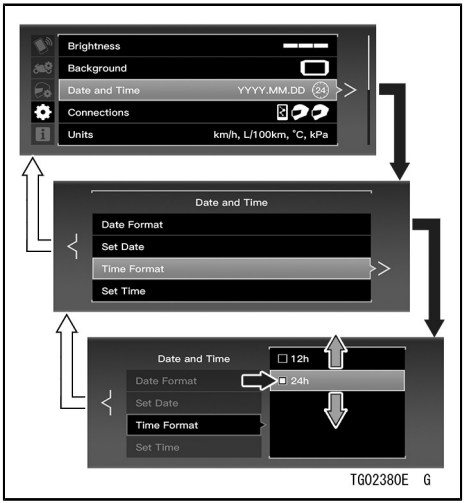


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
➡ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

Date and Time (Time Format)



時計の表示方法を切り替えます。

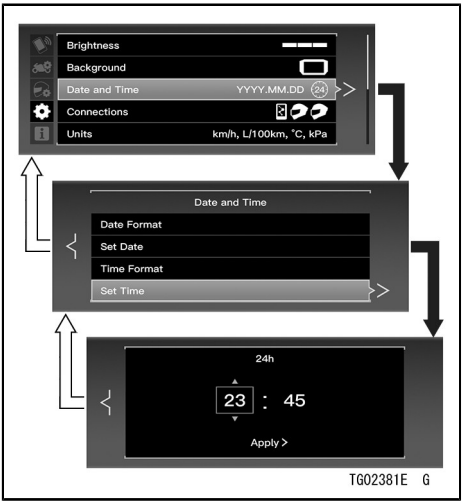


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
➡ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

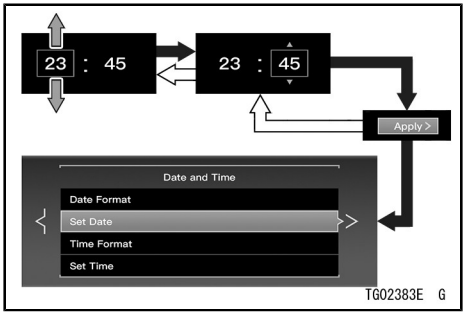
Date and Time (Set Time)



時計を設定します。

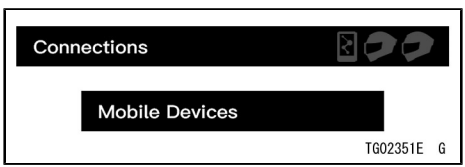


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

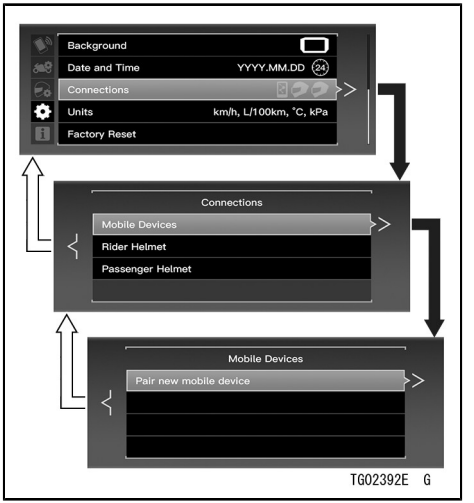


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇛ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

Connections (Mobile Devices)

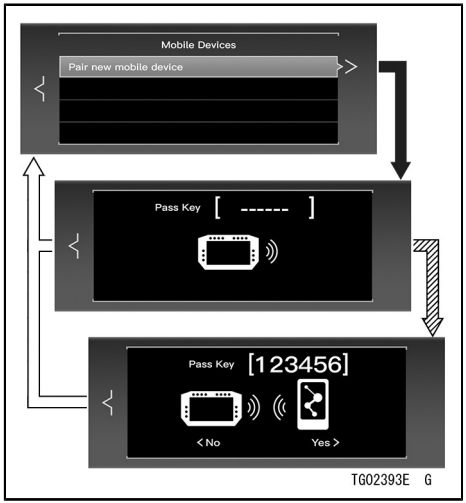


ブルートゥースによるスマートフォンへの接続（ペアリング）の設定をします。



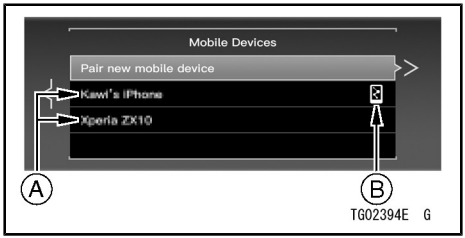
➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

“Pair new mobile device”を選択すると検索が開始されるので、機器のブルートゥースをオンにします。車両と機器が互いに検出すると、機器に“Kawasaki001 ZXT02P”または“Kawasaki001 ZXT02R”が表示されます。選択すると、両方の画面にパスキー（PIN）が表示されるので、両方が同じであることを確認し、両方で接続を承認します。



➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇛ : 機器を検出したときの切り替わり方

通信が成立すると、機器の名称とアイコンが表示されます。

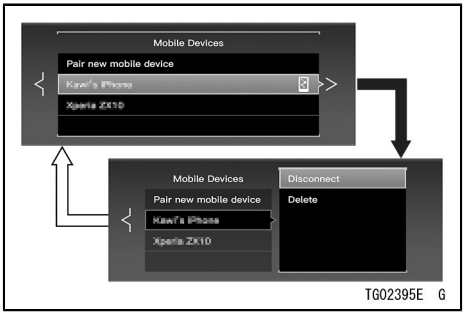


A. 接続した機器の名称
B. 接続アイコン

アドバイス

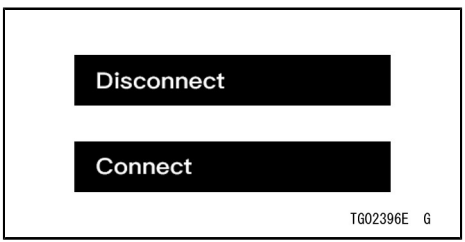
- 車両が機器を検知しない場合は、機器をメータに近付けてください。
- 車両には2つの設定を保存することができます。3つ目の機器を接続する場合は、保存されているいずれかの設定を削除する必要があります。

接続している機器を切り替えたり、設定を削除する場合は機器名を選択し、次の画面に進みます。



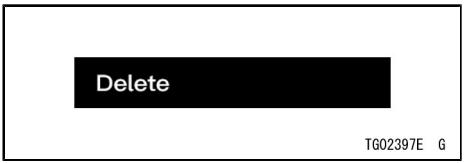
➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

Disconnect/Connect



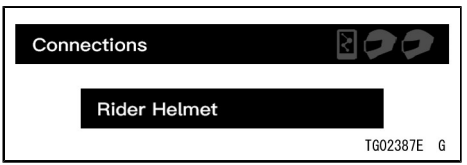
接続された機器の接続／切断を切り替えます。

Delete

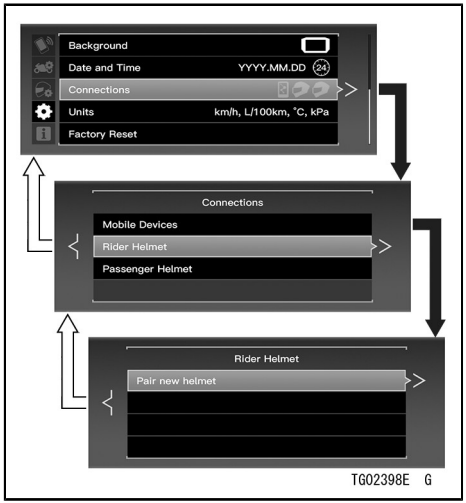


接続された機器の接続設定を削除します。

Connections (Rider Helmet)



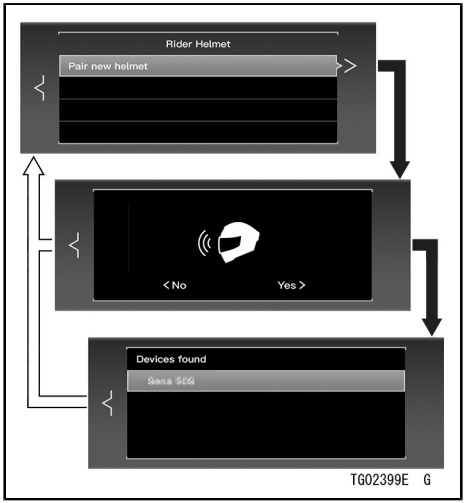
ブルートゥースによる運転者のヘルメットやヘッドセットへの接続（ペアリング）の設定をします。



➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

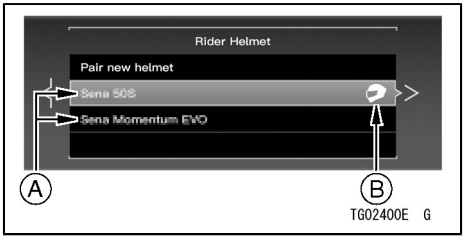
"Pair new helmet"を選択すると検索が開始されるので、機器のブルートゥースをオンにします。

車両が機器を検出すると、機器の名称が画面に表示されます。



➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

通信が成立すると、機器の名称とアイコンが表示されます。



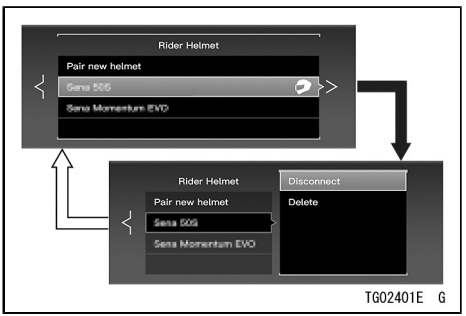
A. 接続した機器の名称
B. 接続アイコン

アドバイス

- 車両が機器を検知しない場合は、機器をメータに近付けてください。
- 車両には2つの設定を保存することができます。3つ目の機器を接続する場合は、保存されているいずれかの設定を削除する必要があります。

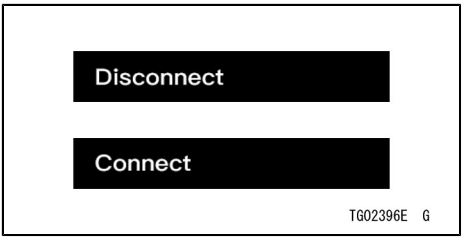
ブルートゥースプロファイル
HFP ver. 1. 7
A2DP ver. 1. 3
AVRCP ver. 1. 6

接続している機器を切り替えたり、設定を削除する場合は機器名を選択し、次の画面に進みます。



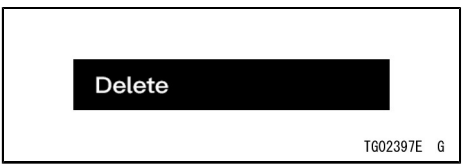
➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

Disconnect/Connect



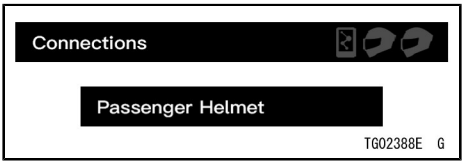
接続された機器の接続／切断を切り替えます。

Delete



接続された機器の接続設定を削除します。

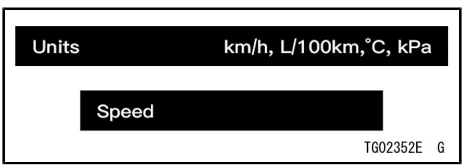
Connections (Passenger Helmet)



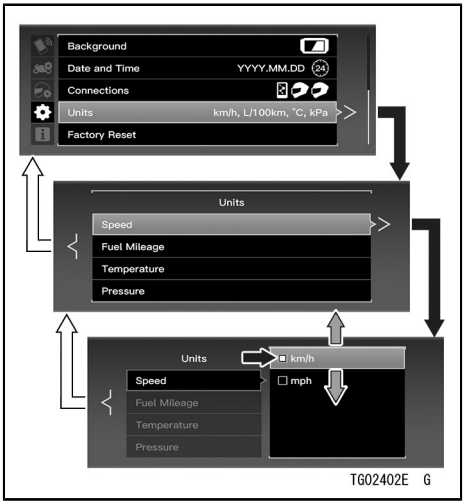
ブルートゥースによる同乗者のヘルメットやヘッドセットへの接続（ペアリング）の設定をします。

操作方法や仕様については“Connections (Rider Helmet)”と同じです。

Units (Speed)



速度の単位を切り替えます。

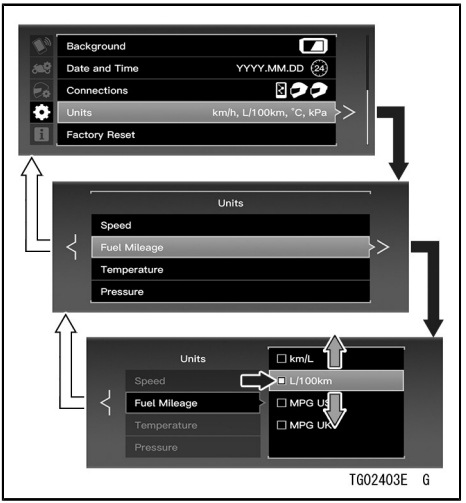


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
➡ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

Units (Fuel Mileage)



燃費の単位を切り替えます。

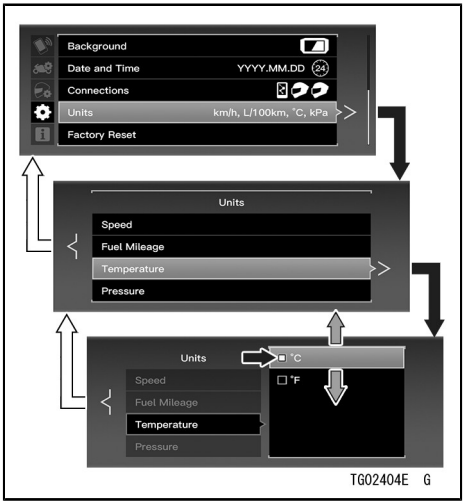


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
➡ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

Units (Temperature)



温度の単位を切り替えます。

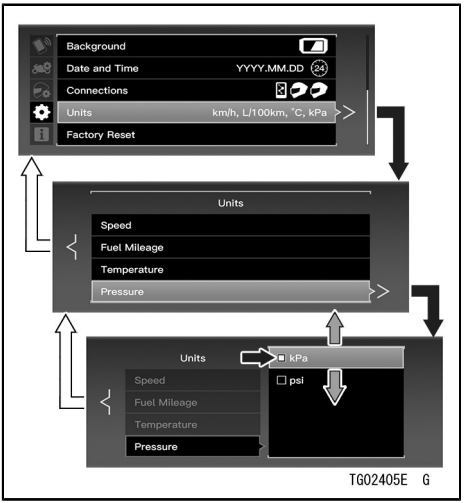


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
➡ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

Units (Pressure)



圧力の単位を切り替えます。

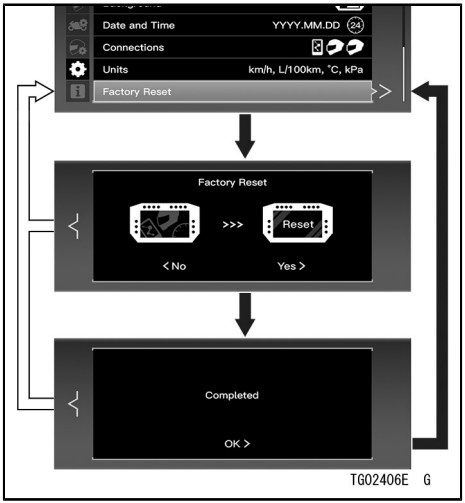


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
➡ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

Factory Reset

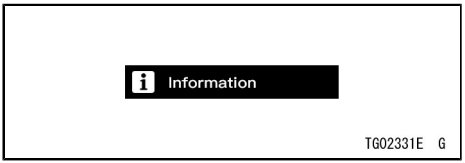


すべての設定を工場出荷時の状態にリセットします。

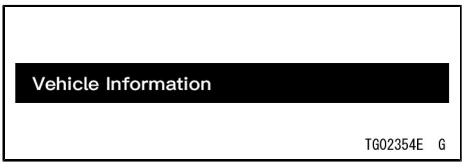


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

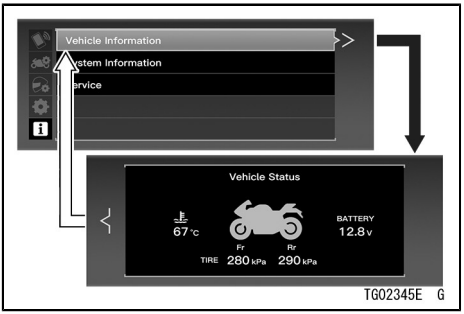
Information



Vehicle Information

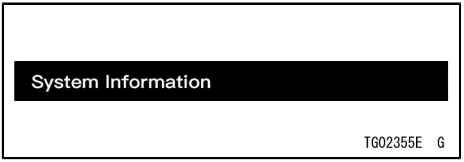


水温、バッテリ電圧、前後のタイヤ空気圧を表示します。

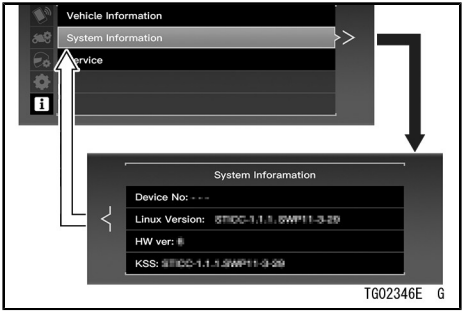


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

System Information



メータユニットのソフトウェアバージョン、ハードウェアバージョンなどを表示します。

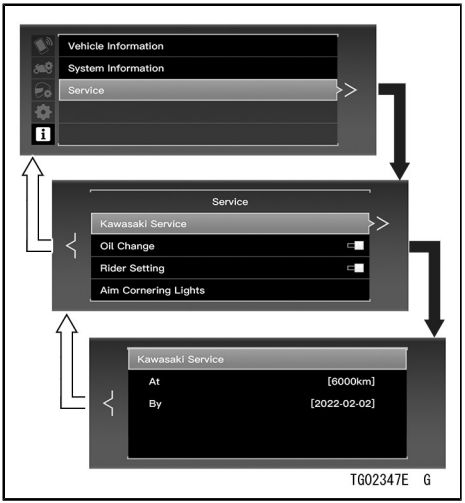


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

Service (Kawasaki Service)

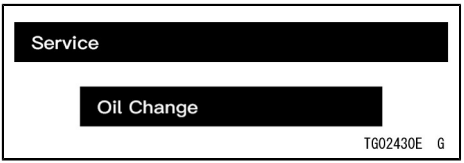


この項目はカワサキ正規取扱店で設定が可能です。サービスインジケータにより通知されるタイミングを表示します。

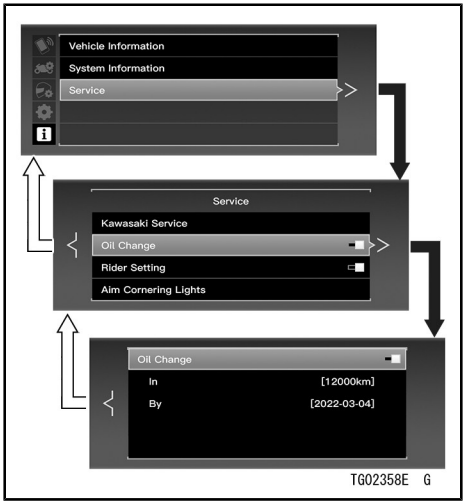


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

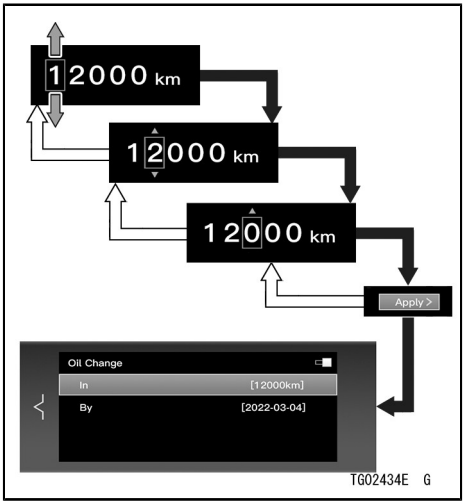
Service (Oil Change)



ユーザーが設定するエンジンオイル交換用の項目です。通知する距離と日付を設定できます。

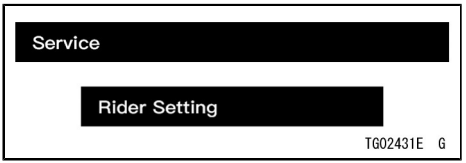


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方

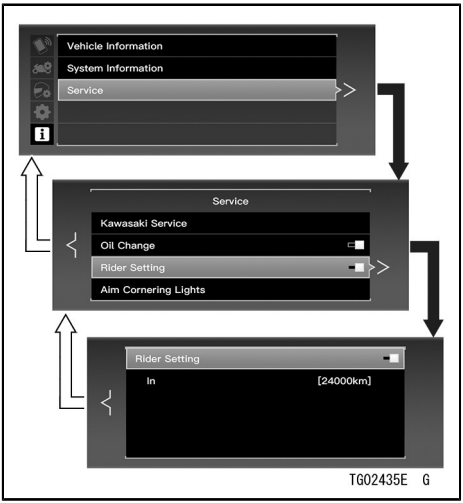


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

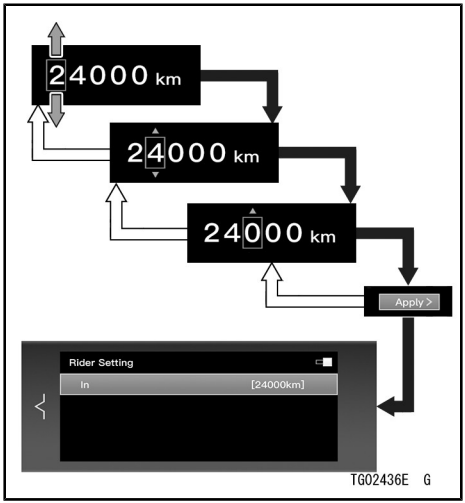
Service (Rider Setting)



ユーザーが設定するその他メンテナンス用の項目です。通知する距離を設定できます。

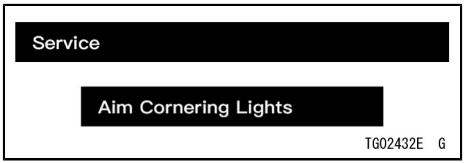


➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方



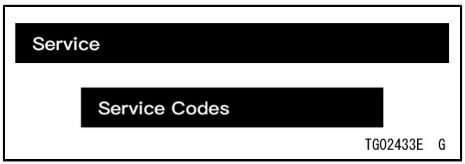
➡ : ミドルボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : 上MODEボタンまたは下MODEボタンを押したときの切り替わり方

Service (Aim Cornering Lights)



この項目はカワサキ正規取扱店が使用します。光軸調整用にコーナリングライトを点灯させるための項目です。

Service (Service Codes)



この項目はカワサキ正規取扱店が使用します。車両に異常がある場合、サービスコードが表示されます。

Kawasaki SPINアプリ

Kawasaki SPINは車両とスマートフォンを接続するスマートフォン向けアプリです。

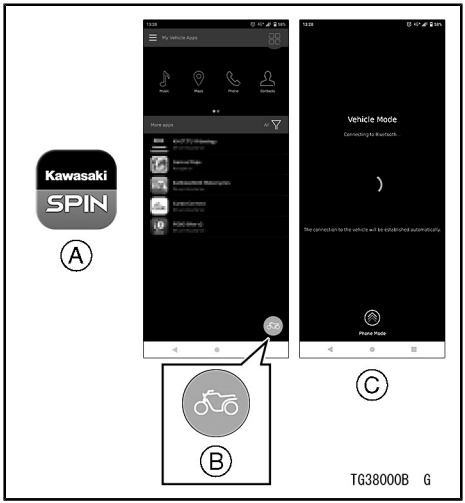
Kawasaki SPINに対応した様々なアプリを、車両のメータにミラーリング表示することができます。

対応アプリはKawasaki SPIN内にリストアップされ、そこからインストールできます。

アドバイス

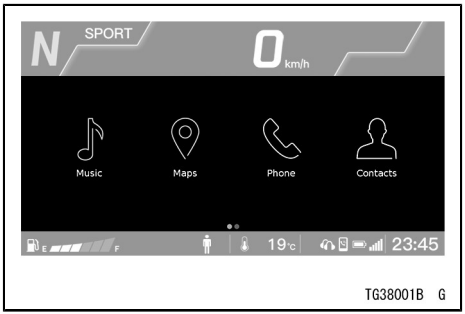
- Kawasaki SPINはWi-Fi(無線LAN)とブルートゥースの両方を使用します。スマートフォンの両機能を有効にしておく必要があります。
- Kawasaki SPINを起動するには、あらかじめブルートゥースの接続設定を行ってください(99ページを参照)。
- ブルートゥースで接続すると、Wi-Fiの接続設定が自動的に行われます。
- 「Wi-Fi」は「Wi-Fi Alliance」の商標または登録商標です。

- アプリを起動します。
- 車両のアイコンをタップしてビークルモードに切り替えると、アプリがミラーリング表示を開始します。



*: 画面は開発中のものです
A. Kawasaki SPINアプリのアイコン
B. ビークルモードのアイコン
C. ビークルモードの開始画面

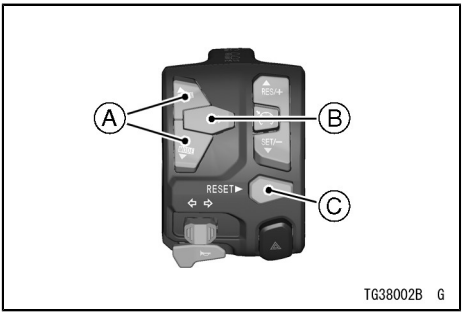
ミラーリング表示エリア



アドバイス

- ビークルモード中（ミラーリング表示中）はスマートフォンを使用できません。ハンドルスイッチで画面を操作します。
- Kawasaki SPINアプリがスマートフォンの画面上から消えるとビークルモードが終了しますので、スマートフォンの画面をオフにしたり、画面をロックしたり、他のアプリに切り替えたりしないでください。
- ミラーリング表示は、特定の条件下（機器の過熱や、通信が不安定になるなど）で自動的にキャンセルされる場合があります。
- アプリの設定を変更することで、アプリ起動時に自動接続させることもできます。

基本操作



A. カーソルや選択項目の移動
B. 次の画面に進む（決定）
C. 前の画面に戻る（キャンセル）

プリインストールアプリ

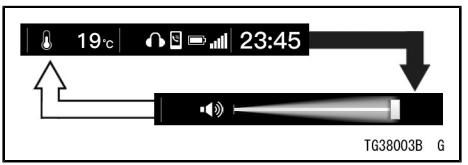
以下の機能は最初から使用できます。

音楽アプリ

シンプルな音楽プレイヤーです。スマートフォンに保存されている音楽ファイルを再生できます。

アドバイス

- 再生および一時停止は、ミドルボタンを使用します。
- 上下のMODEボタンを押すと、前後の曲に移動します。
- Fnボタンを押すと、上下のMODEボタンで音量調節ができるようになります。



➡ : Fnボタンを押したときの切り替わり方
⇨ : RESETボタンを押したとき、または3秒経過したときの切り替わり方

マップアプリ

現在地を表示できる地図アプリです。ナビゲーション機能はありませんが、目的地の検索や設定はできます。

電話アプリ

電話をかけたり受けたりできます。

ミラーリング表示中の通話履歴がKawasaki SPIN内に残ります。

アドバイス

○ **通話中は上下のMODEボタンで音量を調節できます。**

連絡先

スマートフォンの電話帳アプリに登録されている内容を参照して電話をかけることができます。

カレンダー

スマートフォンのスケジュールアプリに登録されている内容を参照できます。

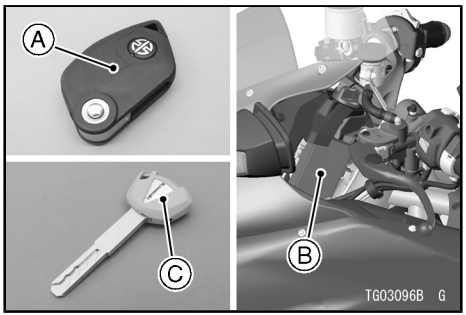
KIPASSについて

KIPASS

この車には、KIPASS（Kawasaki's Intelligent Proximity Activation Start System）が装備されており、FOBキー（携帯機）を携帯することにより、エンジンを始動したり、ステアリングロックを解除することができます。このシステムの構成部品は、FOBキー（携帯機）、KIPASS ECU（イグニションスイッチ）、スペアキーがあります。

アドバイス

○ バッテリが上がっている場合、イグニションスイッチは操作できません。

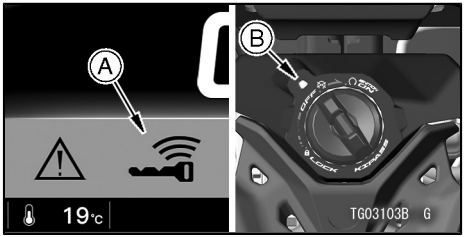


A. FOBキー（携帯機）
B. KIPASS ECU（イグニションスイッチ）
C. スペアキー

KIPASSインジケータ／キーノブインジケータ

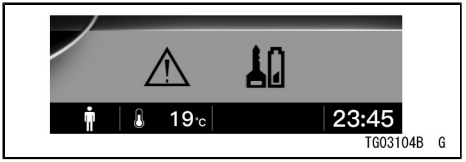
FOBキー（携帯機）の電池が放電したり、FOBキー（携帯機）を失った場合、メータユニットに警告メッセージが表示されたりキーノブインジケータ

が点滅をして運転者に警告をします。KIPASSが故障した場合イグニションスイッチをオンにした後、キーノブインジケータが点灯します。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

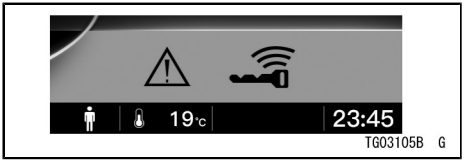


A. 警告メッセージ
B. キーノブインジケータ

- 次の警告メッセージが表示された場合、FOBキー（携帯機）の電池電圧が低下しています。FOBキー（携帯機）の電池を交換してください(129ページを参照)。



- 車両が動き始めた後に次の警告メッセージが表示された場合、FOBキー（携帯機）が失われた、もしくはFOBキー（携帯機）の電池が放電したことを意味します。



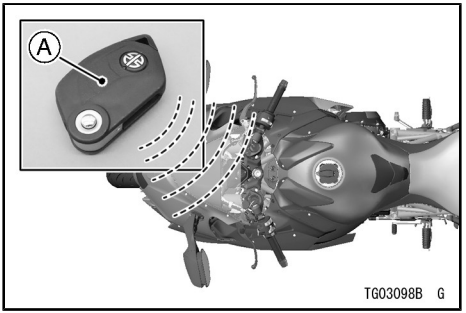
- KIPASSがFOBキー（携帯機）を検出していない状態でイグニションスイッチをオフにすると、以下の画面が表示され、キーノブインジケータが点滅します。イグニションスイッチは、この5秒間であれば回す

だけでオンにできます。5秒経過後でも、キーノブを押すことでイグニションスイッチを回せるようになります。 キーノブインジケータが点滅している35秒間に、エンジンを再始動してください。35秒経過すると、イグニションスイッチをオンにできなくなります。



エンジンの始動

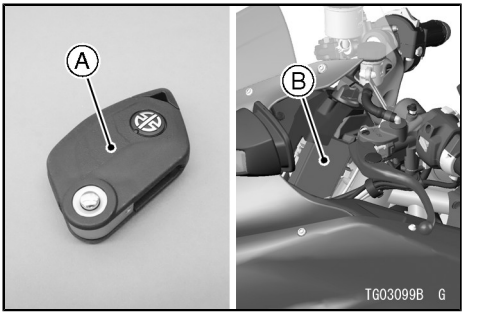
このKIPASSは、電波によって車両とFOBキー（携帯機）との間でユーザIDの相互認証を行い、ユーザIDが正しく認証されると、エンジンを始動することができます。



A. FOBキー（携帯機）

⚠ 警告

- **KIPASS は電波を発信しますので、植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器の作動に影響する危険性があります。FOB キー（携帯機）あるいはKIPASS ECUのアンテナ部とこれらの医療機器の植込み部位との距離は、必ず22 cm以上離しておいてください。FOB キー（携帯機）は胸ポケットに入れないでください。**
- **植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器を使用されている方は必ず医師または医療機関と相談してください。**



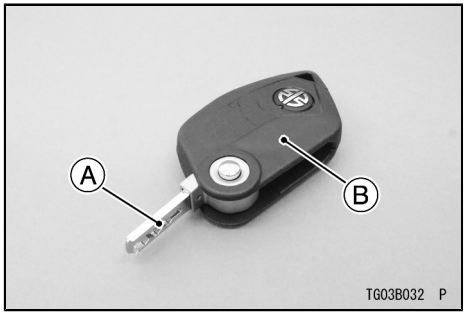
A. FOBキー（携帯機）
B. KIPASS ECU（イグニションスイッチ）

FOBキー（携帯機）

この車のFOBキー（携帯機）には、メカニカルキーが内蔵されています。

メカニカルキーを使用して、以下の部品を取り外す、または開くことができます。

- 燃料タンクキャップ
- 同乗者用シート



A. メカニカルキー
B. FOBキー（携帯機）

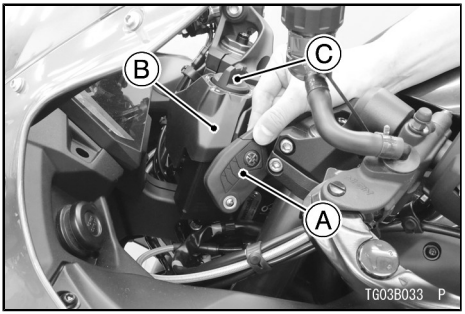
このFOBキー（携帯機）は、一度に最大5つまでKIPASSに登録することができます。FOBキー（携帯機）を追加登録するときは、登録されているすべてのキーを準備する必要があります。カワサキ正規取扱店にご相談ください。

すべてのFOBキー（携帯機）を紛失された場合は、新しくFOBキー（携帯機）を登録することができなくなりますので、ご注意ください。

FOBキー（携帯機）の使用上の留意点

- FOBキー（携帯機）を金属面の上に置いたり、リング等で他の金属とつなげたりしないでください。通信不良の原因となります。
- FOBキー（携帯機）が電波送受信の範囲内にあるときは、FOBキー（携帯機）を携帯していない人でもエンジンを始動することができますので、注意してください。
- お店のガラス越しや家の塀越しなど隔てた場所でも、車を駐車した場所が電波送受信範囲内にあると、FOBキー（携帯機）を携帯していない人でもエンジンを始動することができますので、注意してください。
- FOBキー（携帯機）は必ず運転者が携帯してください。そして、エンジンを停止する前にFOBキー（携帯機）を所持していることを確認してください。

- FOBキー（携帯機）は電波を送受信するので、FOBキー（携帯機）の電池は消耗していきます。電池の寿命は使用状況により変わりますが、約2年です。強い電波を発生する電子機器の近くに置かれているときは、電池を早く消耗することがあります。FOBキー（携帯機）は、イグニションスイッチのオン／オフ時、ロック解除時、および車の発進時に通信を行います。
- FOBキー（携帯機）の電池が放電すると、イグニションスイッチの操作ができなくなります。FOBキー（携帯機）をKIPASS ECU（イグニションスイッチ）に当てます。キーノブを押し、約3秒後にイグニションスイッチの操作ができるようになります。



A. FOBキー（携帯機）
B. KIPASS ECU（イグニションスイッチ）
C. キーノブ

- 登録済みのFOBキー（携帯機）を複数所持しているときは、いずれかのFOBキー（携帯機）にて正しく認証を行うことができれば、エンジンを始動することができます。もし通信不良が起こったときは、どちらかのFOBキー（携帯機）の位置を移動してください。

- FOBキー（携帯機）が電波送受信範囲内にあっても、正しく電波を送受信しない場合があります。このときは、FOBキー（携帯機）の位置を移動して使用してください。

注意

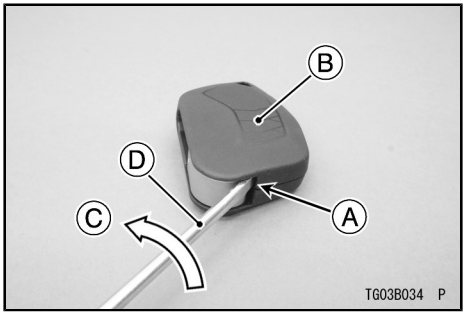
FOBキー（携帯機）の保護のために次の注意事項をお守りください。

- 高温多湿になる場所に放置しないでください。
- 削ったり、無理に形状を変えたり、超音波洗浄器で洗浄したりしないでください。
- 磁気に近づけないでください。
- 他の電気製品または医療機器に近づけないでください。
- 水につけないでください。
- 電池交換以外の目的で分解しないでください。
- 落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- ガソリン、またはシンナー等で磨かないでください。
- FOBキー（携帯機）を紛失されたときは、ただちにカワサキ正規取扱店にご相談ください。
- 全てのFOBキー（携帯機）を紛失されたときは、ECUの交換と新しいFOBキー（携帯機）の登録が必要となります。

電池交換

FOBキー（携帯機）にはボタン電池を使用しています。もし電池交換を行う場合は、カワサキ正規取扱店に相談するか、または以下の手順で行ってください。

- FOBキー（携帯機）の溝へマイナスドライバを差し込み、マイナスドライバを軽くひねってカバーを取り外します。

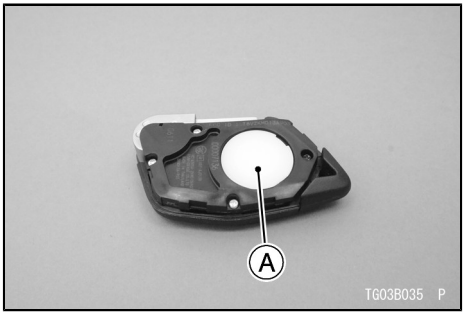


A. 溝
B. カバー
C. ひねる
D. マイナスドライバ

アドバイス

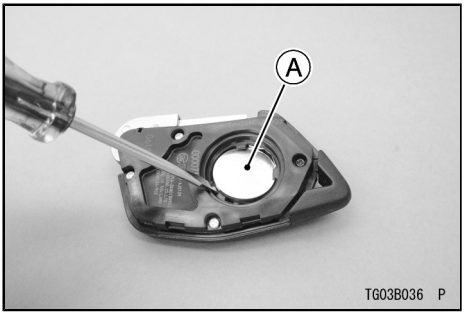
○ FOBキー（携帯機）を分解するときは、マイナスドライバの先にウエスなどを当てて、FOBキー（携帯機）を傷つけないようにしてください。

- キャップを取り外します。



A. キャップ

● 電池を取り外します。

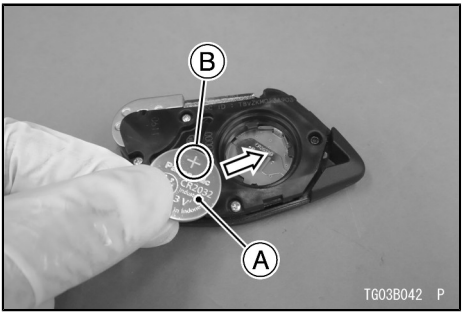


A. 電池

● 新しい電池を取り付けます。

アドバイス

○ 電池の(＋)面を上側に向けて取り付けます。



A. 電池
B. (+)面

使用電池(ボタン電池)

CR2032

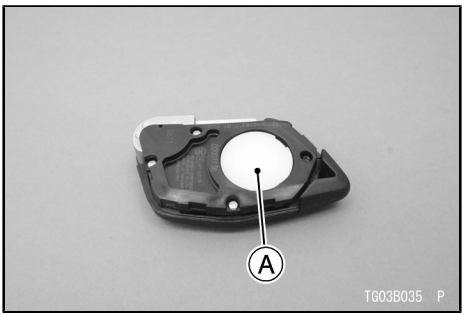
⚠ 警告

間違った電池と交換した場合には、電池が破裂して負傷する可能性があります。必ず同じタイプまたは同等品の電池と交換してください。

注意

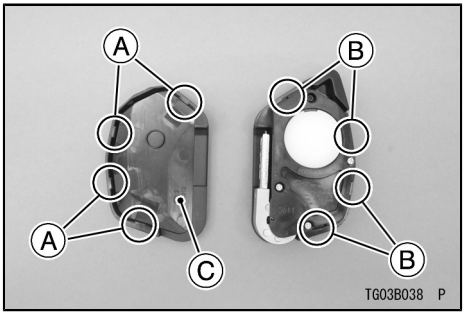
電池を直射日光に当てたり、火気に近付けないでください。発火や液漏れなどを引き起こす可能性があります。

- キャップを取り付けます。



A. キャップ

- カバーの突起を溝に差し込みます。



A. 突起
B. 溝
C. カバー

⚠ 警告

ボタン電池や取り外した小さな部品を子供が誤って飲み込むと、重大な負傷をおう可能性があります。ボタン電池や取り外した部品は、子供の手が届かないところへ置いてください。

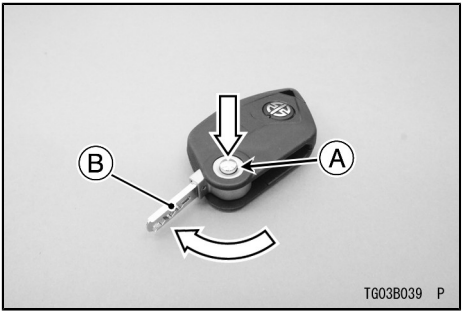
注意

ボタン電池を交換するときは、FOBキー（携帯機）の保護のために次の注意事項をお守りください。

- **無理な分解などで傷つけないようにしてください。**
- **ボタン電池は必ず（＋）（−）を正しい方向に取り付けてください。**
- **内部の電子部品、または電子回路に触れないようにしてください。**
- **埃の多い場所での電池交換は行わないでください。**
- **内部に水、ごみ、埃等が入らないようにしてください。**
- **電池およびFOBキー（携帯機）のターミナル部分を素手で触らないようにしてください。**

メカニカルキーの使用方法

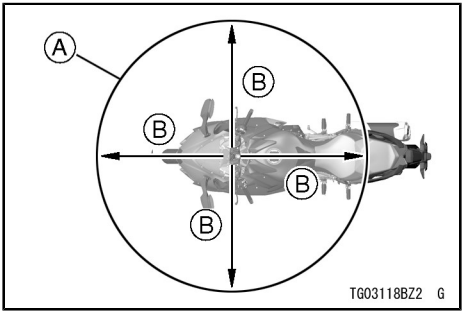
- ボタンを押してメカニカルキーを取り出します。メカニカルキーを戻すには再度ボタンを押して格納します。



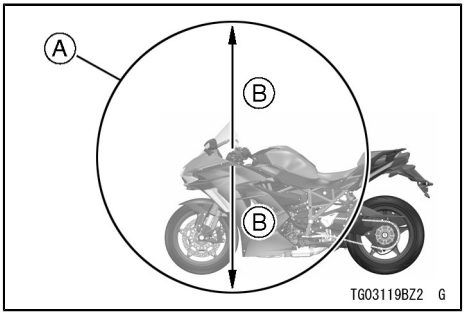
A. ボタン
B. メカニカルキー

FOBキー（携帯機）の通信範囲

FOBキー（携帯機）はアンテナから約100cmの範囲で通信できます。KIPASSは微弱電波を送受信しているため、この通信範囲は変動することがあります。また、FOBキー（携帯機）の位置によっては、範囲内であっても通信できない場合があります。



A. 範囲
B. 約100 cm



A. 範囲
B. 約100 cm

KIPASSが正しく作動しないとき

もしKIPASSが正しく作動しないときは、以下の項目を点検してください。症状が改善されない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

- 放送局、発電所、携帯電話、パソコンなどの妨害ノイズを発生し通信障害を引き起こす可能性がある機器の近く、またはFOBキー（携帯機）が金属製のものに覆われていたり、接していたりしていないか。このような状況での使用は、通信不良が起こる可能性があります。
- ボタン電池が正しく取り付けられていない、または消耗している(129ページを参照)。

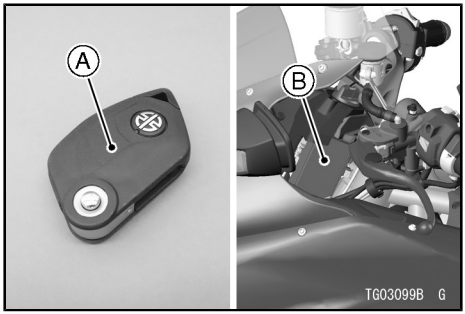
KIPASSのご使用にあたって

この車のKIPASSは、アンテナとFOBキー（携帯機）の間で電波を送受信しております。

心臓ペースメーカ、および植込み型除細動器などの医療機器を使用されている運転者または同乗者が使用するときは、必ず使用する前にアンテナの位置を確認し、次の内容を必ず読んで理解してください。

⚠ 警告

- **KIPASS は電波を発信しますので、植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器の作動に影響する危険性があります。FOB キー（携帯機）あるいはKIPASS ECUのアンテナ部とこれらの医療機器の植込み部位との距離は、必ず22 cm以上離しておいてください。FOB キー（携帯機）は胸ポケットに入れないでください。**
- **植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器を使用されている方は必ず医師または医療機関と相談してください。**



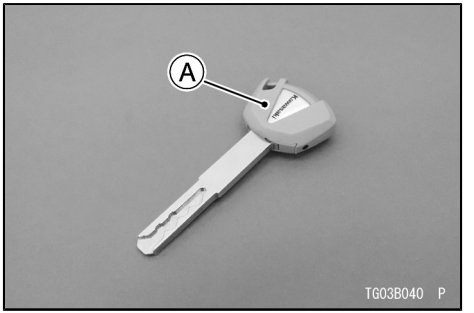
A. FOBキー（携帯機）
B. KIPASS ECU（イグニションスイッチ）

スペアキー

この車には、FOBキー（携帯機）に加えてスペアキーを備えています。FOBキー（携帯機）を紛失した場合、スペアキーを非常用として使うことができます。紛失しないように保管しておくことをおすすめします。

スペアキーは、一度に最大2つまでKIPASSに登録することができます。ス

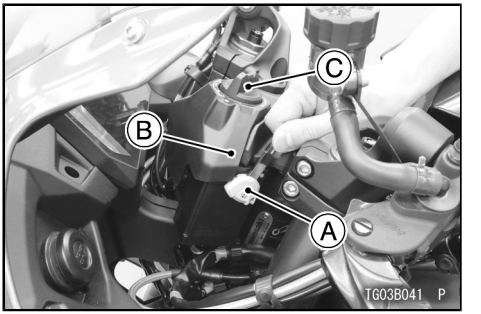
ペアキーを追加登録する場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



A. スペアキー

スペアキーにはKIPASS機能はありません。スペアキーを使用するときは、次の手順に従ってください。

- スペアキーをKIPASS ECU（イグニションスイッチ）に当てます。キーノブを押し、約3秒後にイグニションスイッチの操作ができるようになります。



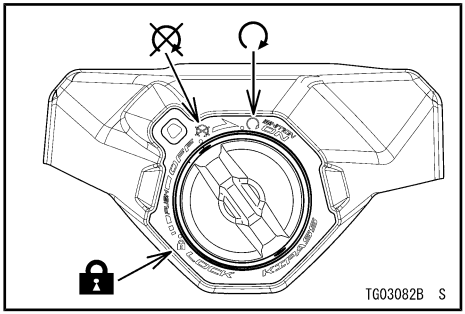
A. スペアキー
B. KIPASS ECU（イグニションスイッチ）
C. キーノブ

スイッチの使い方

イグニションスイッチ

この車にはKIPASSが装備されており、FOBキー（携帯機）を携帯することでエンジンを始動したり、ステアリングロックを解除することができます。

イグニションスイッチは3段切換えです。キーノブを取り外すことはできません。



ON	エンジンは始動し走行できる。すべての電装部品が使用できる。
OFF	エンジンが停止する。エンジンは始動できない。電気回路を遮断する。
LOCK	エンジンは始動できない。電気回路を遮断する。ステアリングがロックされる。

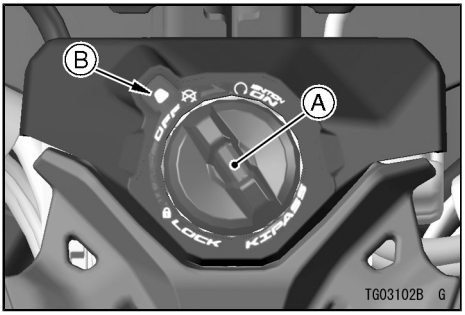
アドバイス

- **イグニションスイッチの無理な操作は故障の原因となります。**

⚠ 警告

走行中にイグニションスイッチをOFFやLOCKの位置に操作すると電気系統の作動が停止し、負傷や死亡事故につながる可能性があります。イグニションスイッチは必ず停車中に操作してください。

キーノブを押したとき、キーノブインジケータが点灯します。点灯している間はキーノブをオン、オフ、ロックの位置に回すことができます。キーノブが正しい位置にあることを確認してください。キーノブインジケータの点灯は、FOBキー（携帯機）が正しく認証されていることを表します。



A. キーノブ
B. キーノブインジケータ

アドバイス

- イグニションスイッチが繰り返し操作されると、保護回路が作動しイグニションスイッチが一時的に作動しなくなる場合があります。
- イグニションスイッチをオンにしたとき、ポジションライト、テールライト、ライセンスプレートライトが点灯します。ヘッドライトはエンジンが始動してエンジンス

タート／ストップスイッチを放すと点灯します。
○ キーノブを押し込んでも正しく通信しないときは、数秒おいてから再度キーノブを押し込んでください。

注意

- **イグニションスイッチをオンにしたまま、またはエンジン始動後にアイドリング状態のまま長時間放置すると、バッテリあがりの原因となります。**
- **車から離れるときは必ずステアリングロックをかけてください。**

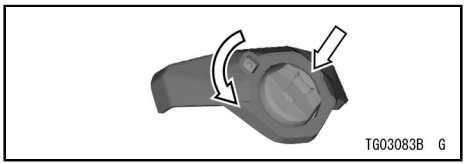
ステアリングロック

車から離れるときは、盗難予防のため必ずステアリングロックをかけてください。

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

かけ方

- ハンドルを左にきります。
- オフの位置でキーノブを押し込み、そのままロックの位置まで回します。



- ハンドルを軽く左右に動かし確実にロックされているか確認します。

⚠ 警告

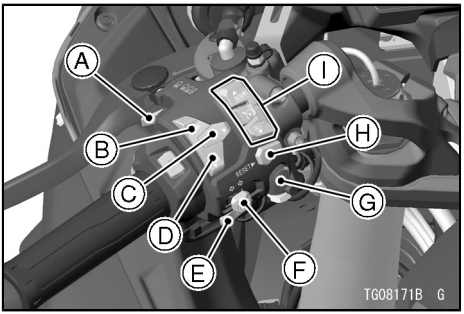
エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

はずし方
- キーノブを押すと、キーノブインジケータが点灯します。
- キーノブインジケータが点灯している間にイグニションスイッチを回します。

⚠ 警告

ハンドルのきれ角が左右均等でないと、死亡または重大な傷害となる事故につながる可能性があります。走行前にハンドルを左右に動かして、ハンドルのきれ角が左右均等であることを確認してください。

左ハンドルスイッチ



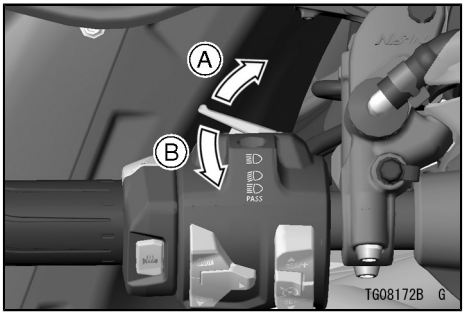
A. ディマ／パッシングスイッチ
B. 上MODEボタン
C. ミドルボタン
D. 下MODEボタン
E. ホーンボタン
F. ターンシグナルスイッチ
G. ハザードボタン
H. RESETボタン
I. クルーズコントロールボタン

(A)ディマ／パッシングスイッチ

ヘッドライトの照射の上下切り替えは、ディマ／パッシングスイッチで行います。

ハイビーム（上向き）を使用するときは、スイッチを前方に押し出してください。ロービームに戻す場合は、スイッチを手前に引いてください。

他車に対して合図をするときは、スイッチを手前に引いてください。スイッチを手前に引いている間だけハイビームが点灯します。



A. 押す:ハイビーム点灯
B. 引く:ハイビーム消灯／パッシング

≡D	上向き
≡D	下向き
≡D PASS	パッシング

アドバイス

○ ヘッドライト点灯時にレンズ部分を衣類等でさえぎらないでください。ヘッドライトの熱によりレンズ部が変色、溶損等を引き起こす可能性が有ります。また、さえぎった衣類等にも影響を及ぼす可能性がありますので、行わないでください。

(B/D)上MODEボタン／下MODEボタン

メータ表示やインテグレイテッドライディングモードの切り替え等に使用します。

メータ表示：「メータの見方・使い方」の章を参照してください（78ページを参照）。

ライディングモード：「正しい運転操作」の章、「インテグレイテッドライディングモード」の項を参照してください（207ページを参照）（210ページを参照）。

(C)ミドルボタン

メータ表示やKECSプリロードモードの切り替えに使用します。

メータ表示： 「メータの見方・使い方」の章を参照してください（78ページを参照）。

KECS： 「正しい運転操作」の章、「KECS」の項を参照してください（216ページを参照）。

(E)ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。ホーンが正常に作動しない時は、ホーンが故障しています。

アドバイス

○ 必要なとき以外は使用しないでください。

(F)ターンシグナルスイッチ

右左折するときや進路を変更するときは、ターンシグナルで合図します。

スイッチを左（ ⇦ ）または右（ ⇨ ）に入れると、メータユニットのターンシグナルインジケータが、ターンシグナルライトと共に点滅します。

⇦ ･･･左折　　⇨ ･･･右折

⚠ 警告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除しません。使用後は必ずスイッチを操作して解除してください。つけたままにしておくと他の方の判断を誤らせて事故をまねく可能性があります。

(G)ハザードボタン

路肩で緊急停車するときは、ハザードライトで他の運転者に停車していることを警告します。

イグニションスイッチをオンにしてハザードボタンを押すと、ターンシグナルインジケータとすべてのターンシグナルライトが点滅します。

注意

ハザードボタンを長時間使用すると、バッテリが上がる原因になるため、ハザードボタンは長時間使用しないでください。

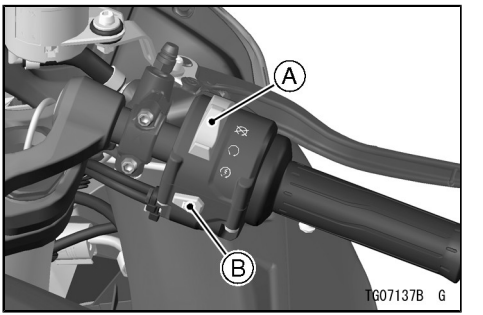
(H)RESETボタン

メータ表示のリセット等に使用します。「メータの見方・使い方」の章を参照してください(78ページを参照)。

(I)クルーズコントロールボタン

クルーズコントロールシステムの操作に使用します。「正しい運転操作」の章、「ACC」の項を参照してください(226ページを参照)。

右ハンドルスイッチ



A. エンジンスタート／ストップスイッチ
B. Fnボタン

(A)エンジンスタート／ストップスイッチ

エンジンを始動する手順については、「正しい運転操作」の章、「エンジンのかけ方」の項を参照してください(194ページを参照)。

注意

スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。

非常時にエンジンを停止するには、エンジンストップスイッチを ⊠ の位置にします。

通常、車を作動させるためには、エンジンストップスイッチを ↻ の位置にしなければなりません。

アドバイス

○ エンジンストップスイッチは、転倒またはスロットル系統に故障を生じたときなどの非常時にエンジンを停止させるために使用します。

○ 通常、エンジンを停止するときは、イグニションスイッチを使用します。

注意

- **エンジンストップスイッチでエンジン停止後、すぐにイグニションスイッチをOFFの位置にしてください。ONのままにしておくと、バッテリあがりの原因となります。**
- **走行中にエンジンストップスイッチを ↻ → ⊠ → ↻ にするとエンジン回転が円滑に作動しなくなり、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。**

(B)Fnボタン

音量調節やACC、KLCMの設定に使用します。

音量調節：　「メータの見方・使い方」の章、「Kawasaki SPINアプリ」の項を参照してください（119ページを参照）。

ACC：　「正しい運転操作」の章、「ACC」の項を参照してください（228ページを参照）。

KLCM：　「正しい運転操作」の章、「KLCM」の項を参照してください（250ページを参照）。

各部の取り扱い方

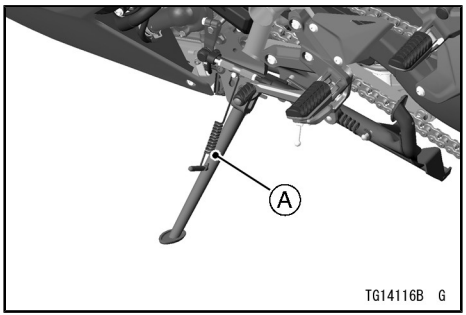
サイドスタンド

この車にはサイドスタンドがあります。

サイドスタンドを使ったときは、発進する前に、サイドスタンドを確実に格納する習慣をつけてください。サイドスタンドが降りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが止まります。

アドバイス

- **サイドスタンドを使用する時には、ハンドルを必ず左にきってください。**
- **車から離れる前にサイドスタンドが確実にセットされているか確認してください。**



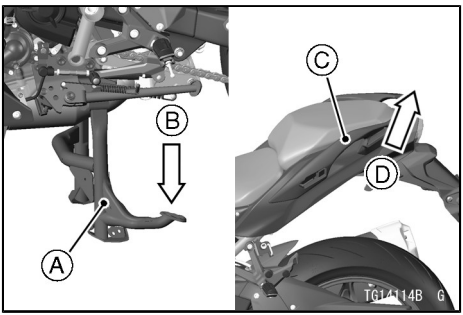
A. サイドスタンド

センタスタンド

センタスタンドを使用する場合、スタンドの上にしっかりと右足を置き、グラブレールを持って、右足に全体重をかけると同時に車を矢印の方向に持ち上げます。

注意

センタスタンドを使用するときにシートを持って車を持ち上げるとシートに損傷を与えますので、必ずグラブレールを持って車を持ち上げるようにしてください。



A. センタスタンド
B. 踏み降ろす
C. グラブレール
D. 持ち上げる

ブレーキレバーアジャスタ

注意

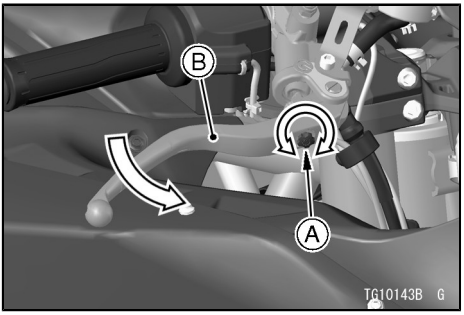
記載したレバー位置調整以外は行わないでください。ブレーキレバー位置調整以外の内容についてはカワサキ正規取扱店にご相談ください。

調整方法

- レバーを前方に押します。
- アジャスタを回して、好みの位置に調整します。
- レバーを放します。

[ブレーキレバーの調整]

アジャスタ	締め込む	←→	ゆるめる
レバーの位置	遠い	←→	近い



A. アジャスタ
B. ブレーキレバー

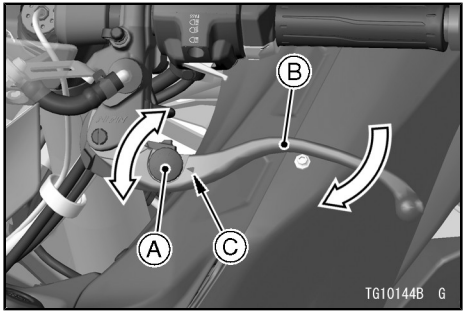
クラッチレバーアジャスタ

クラッチレバーとグリップの距離を5段階からお好みの位置に調整できます。レバーとグリップの距離は1が最大、5が最小です。

- レバーを前方に押しながらアジャスタを回して、アジャスタの番号をレバーホルダのマークに合わせ、レバーを放します。

[クラッチレバーの位置調整]

アジャスタの位置	1	2	3	4	5
レバーとグリップの距離	遠い← ― →近い				



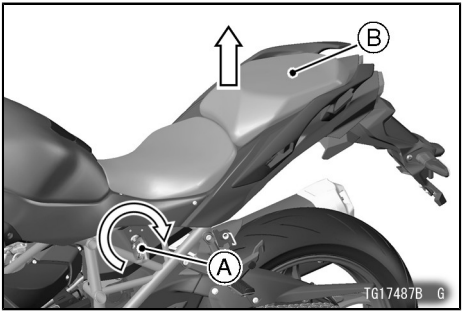
A. アジャスタ
B. クラッチレバー
C. マーク

シート

シートは同乗者、運転者の順で取り外し可能です。

同乗者用シートの取り外し

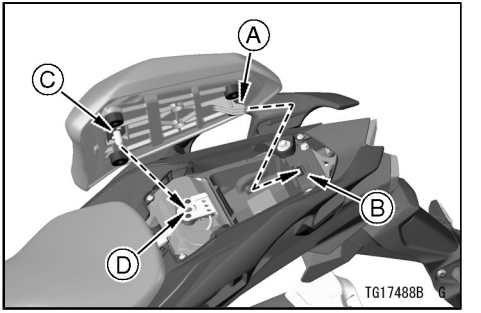
- シートロックにキーを差し込みます。
- キーを時計回りに回し、シートの前側を引き上げます。
- 同乗者用シートを取り外します。
- キーを抜き取ります。



A. キー
B. 同乗者用シート

同乗者用シートの取り付け

- シート後側のフックをスロットに差し込みます。
- シート前側にあるラッチプレートをラッチ穴に差し込みます。



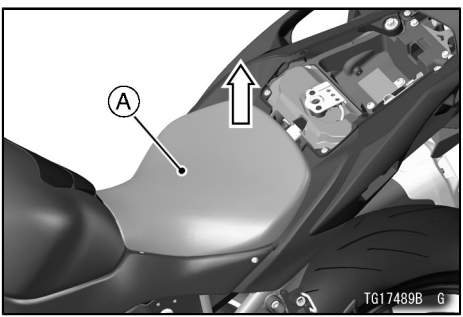
A. フック
B. スロット
C. ラッチプレート
D. ラッチ穴

- シートの前側を上から押してロックします。

- シートの前後を軽く引き上げ、確実にロックされていることを確認します。

運転者用シートの取り外し

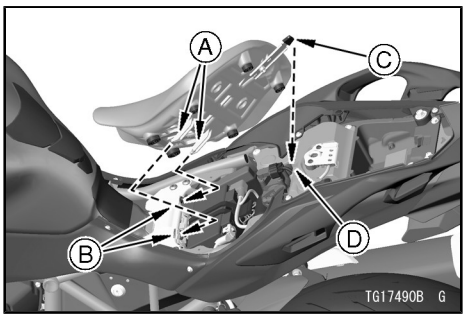
- 同乗者用シートを取り外します(150ページを参照)。
- シートの後側を引き上げて運転者用シートを取り外します。



A. 運転者用シート

運転者用シートの取り付け

- シート前側のフックをブラケットのスロットに差し込みます。
- シート後側のタブをガイドに合わせます。



A. フック
B. スロット
C. タブ
D. ガイド

ヘルメットロック

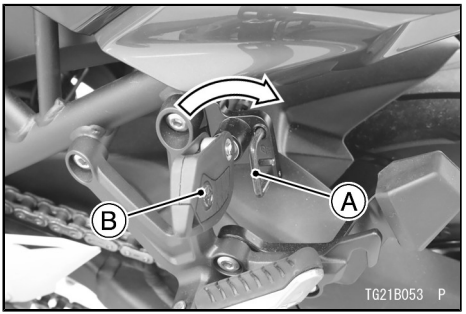
この車には、ヘルメットをかけるためのヘルメットロックがあります。ヘルメットロックは、車体の左側にあります。

⚠ 警告

ヘルメットをヘルメットロックにつけた状態で走行すると、走行の妨げになり事故につながる危険性があります。また、ヘルメットに損傷を与え機能を低下させる可能性があります。ヘルメットをヘルメットロックにつけたまま走行しないでください。

ヘルメットロックの使い方

- ヘルメットロックにキーを差し込み、キーを時計回りに回してロックをはずします。
- ヘルメットロックのフックにヘルメットの金具をかけます。
- フックを閉じてキーを抜きます。



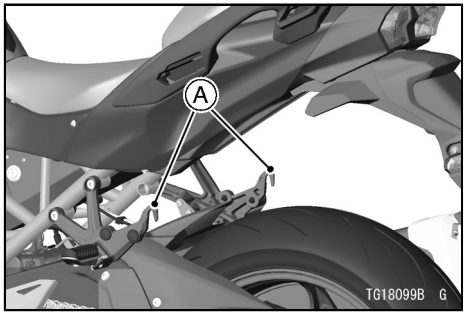
A. ヘルメットロック
B. キー

アドバイス

○ ヘルメットロックは、常にロックした状態にしておいてください。

荷掛けフック

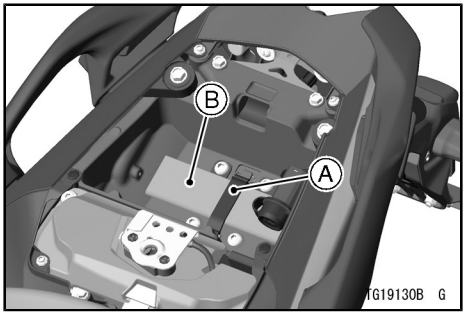
シートに軽い荷物を結びつける場合、リヤステップ後方にある左右の荷掛けフックを使用してください。



A. 荷掛けフック

ツールキット

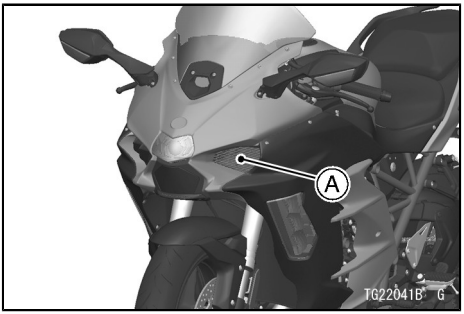
ツールキットは、同乗者用シート下のETC車載器の下にあります。ツールキットは整備や調整などに使用するので常備してください。



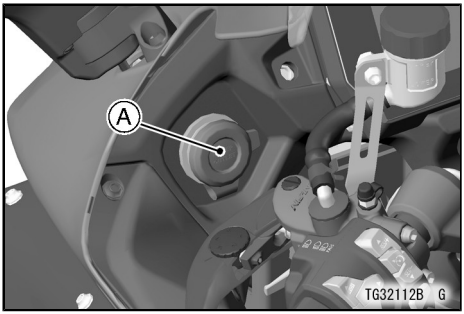
A. バンド
B. ツールキット

エアインテーク

エンジンに空気を取り入れるためのエアインテーク（吸気口）が車の前方にあります。このエアインテークを塞いでしまうと､空気取り入れ量が少なくなり、車の性能を低下させたり、排出ガスを増やしたりする原因となります。



A. エアインテーク



A. DC電源ソケット

DC電源ソケット

DC電源ソケットからバッテリ電源を取り出すことができます。以下の注意事項に従ってご使用ください。

アクセサリコネクタ	定格ヒューズ	許容電力
DC電源ソケット	7.5 A	25 W
USBソケット		

注意

ソケットにアクセサリを接続するときは、アクセサリ部品またはリード線がハンドル操作を妨げないようにしてください。

注意

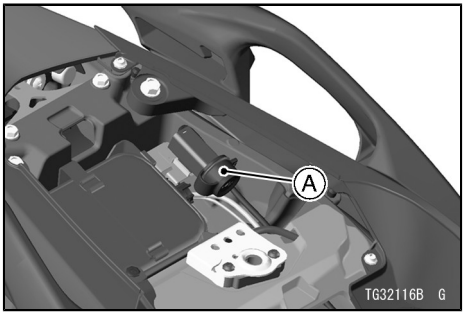
- **ソケットに防水型でないアクセサリを接続している場合は、雨天時の走行や洗車はしないでください。配線がショートして故障の原因となります。**
- **アクセサリを使用しないときには、必ずソケットにキャップを取り付けてください。**

注意

- **アクセサリ用回路には必ず定格のヒューズを使用してください。**
- **このアクセサリ用回路には許容以上の負荷をかけないでください。負荷が大きくなると、エンジンをかけていてもバッテリが放電する可能性があります。**

USBソケット

USBソケットからバッテリ電源を取り出すことができます。以下の注意事項に従ってご使用ください。



A. USBソケット

アクセサリコネクタ	定格ヒューズ	許容電力
DC電源ソケット	7.5 A	25 W
USBソケット		

注意

- **ソケットに防水型でないアクセサリを接続している場合は、雨天時の走行や洗車はしないでください。配線がショートして故障の原因となります。**
- **アクセサリを使用しないときには、必ずソケットにキャップを取り付けてください。**

注意

- **アクセサリ用回路には必ず定格のヒューズを使用してください。**
- **このアクセサリ用回路には許容以上の負荷をかけないでください。負荷が大きくなると、エンジンをかけていてもバッテリが放電する可能性があります。**

グリップヒータ

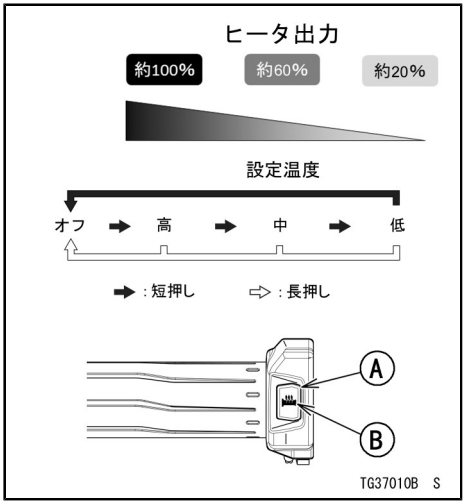
⚠ 警告

- **走行中にグリップヒータスイッチの操作は行わないでください。ボタン操作に気をとられると、思わぬ事故を招く危険性があります。**
- **やけどする危険性がありますので、グリップヒータを使用するときは必ず手袋を着用してください。**
- **グリップが損傷したまま使用するとやけどする危険性がありますので、新しいものと交換してください。**

この車は、温度調整が可能なグリップヒータを装備しています。

グリップヒータの操作方法

- グリップヒータスイッチを押すと、図のようにオン／オフの切り替えや設定温度の変更ができます。



A. グリップヒータスイッチ
B. インジケータ

- グリップヒータの作動状態や設定温度をインジケータで確認してください。

状態／温度	インジケータ
オフ	消灯*
高	3回点滅を5回繰り返した後、点灯
中	2回点滅を5回繰り返した後、点灯
低	1回点滅を5回繰り返した後、点灯

*：バッテリ電圧低下時は点滅します。

アドバイス

- イグニションスイッチをオフにすると、グリップヒータもオフになります。
- イグニションスイッチをオンにしたときにインジケータが点滅した場合は、バッテリ電圧が低下していますので、バッテリの充電を行ってください。充電後も点滅が止まらない場合は、グリップヒータが故障している可能性がありますので、交換してください。
- グリップヒータの使用中にバッテリ電圧が低下すると、グリップヒータはオフになりインジケータが点滅します。高速走行などで電圧が回復してもインジケータは点滅し続けますので、スイッチを押して一度オフにしてください。バッテリ電圧が回復していれば、グリップヒータは再度オンにできます。
- グリップの温度は外気温に比例します。暖かい日に高温で使用することは避けてください。

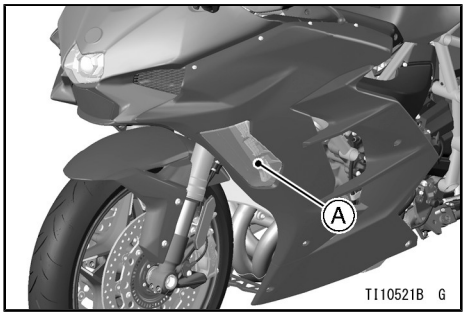
注意

- **エンジンを始動させない状態またはアイドリング状態で長時間使用しないでください。バッテリあがりの原因になります。**
- **高圧洗浄機を使用しての洗車はグリップヒータの故障となるので行わないでください。**
- **グリップヒータが正常に作動しない場合は、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**

コーナリングライト

コーナリングライトは、旋回時にカーブに沿って道を照らす補助ライトです。車両が左右に傾いたときに、その角度に従ってLEDが３段階に点灯します。

コーナリングライトはメニューモード画面でオン／オフの切り替えができます。「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(85ページを参照)。



A. コーナリングライト

サスペンションセッティング（ZX1002P）

各自の好みや運転の状態、路面、積荷の状態に応じて調整ができます。

フロントフォークのセッティング

フロントフォークのセッティングには、スプリングの初期荷重の調整、伸側減衰力の調整、圧側減衰力の調整があります。

⚠ 警告

スプリングの初期荷重、伸側および圧側減衰力調整の各調整位置が左右で異なる場合は、走行安定性を失い事故につながる可能性があります。サスペンションの調整は左右等しくしてください。

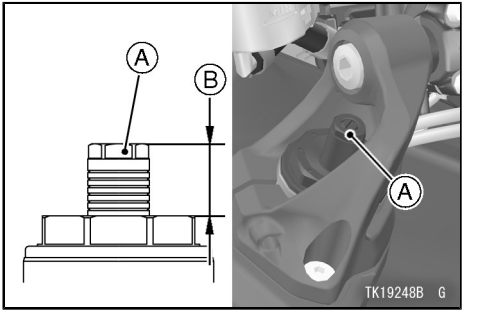
スプリングの初期荷重の調整

フロントフォーク上部にスプリング初期荷重アジャスタがあります。

- アジャスタを回すことにより、スプリングの初期荷重を変えることができます。

＜堅くする場合＞
アジャスタを時計回りに回します。

＜柔らかくする場合＞
アジャスタを反時計回りに回します。



A. スプリング初期荷重アジャスタ
B. 調整範囲

1名標準値	9 mm
調整範囲	5 ~ 20 mm

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

⚠ 警告

スプリングの初期荷重の調整位置が左右で異なる場合は、走行安定性を失い事故につながる可能性があります。サスペンションの調整は左右等しくしてください。

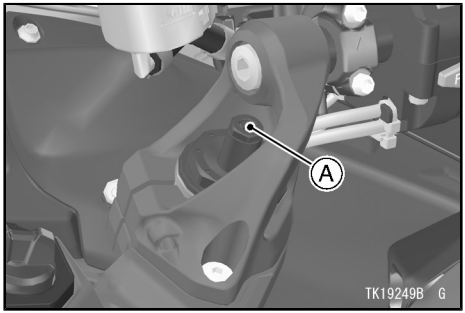
伸側減衰力の調整

フロントフォーク上部に伸側減衰力アジャスタがあります。

- アジャスタを回すことにより、フォークが伸びるときのオイル抵抗（減衰力）の調整ができます。

＜堅くする場合＞
アジャスタを時計回りに回します。

＜柔らかくする場合＞
アジャスタを反時計回りに回します。



A. 伸側減衰力アジャスタ

1名標準値	7クリック戻し（右に一杯の位置から反時計回り）
調整範囲	11クリック

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

⚠ 警告

伸側減衰力調整の各調整位置が左右で異なる場合は、走行安定性を失い事故につながる可能性があります。サスペンションの調整は左右等しくしてください。

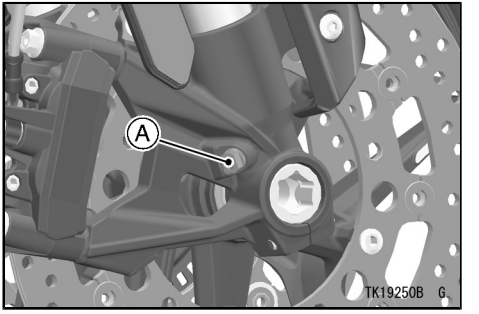
圧側減衰力の調整

フロントフォーク下部に圧側減衰力アジャスタがあります。

- アジャスタを回すことにより、フォークが縮むときのオイル抵抗（減衰力）の調整ができます。

＜堅くする場合＞
アジャスタを時計回りに回します。

＜柔らかくする場合＞
アジャスタを反時計回りに回します。



A. 圧側減衰力アジャスタ

1名標準値	4クリック戻し（右に一杯の位置から反時計回り）
調整範囲	13クリック

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

⚠ 警告

圧側減衰力アジャスタの位置が左右で異なる場合は、操縦安定性を失い事故につながる可能性があります。圧側減衰力アジャスタ調整位置は左右同じにしてください。

リヤショックアブソーバのセッティング

リヤショックアブソーバのセッティングには、スプリングの初期荷重の調整、伸側減衰力の調整、圧側減衰力の調整があります。

スプリングの初期荷重の調整

右リヤステップブラケットにスプリング初期荷重アジャスタがあります。

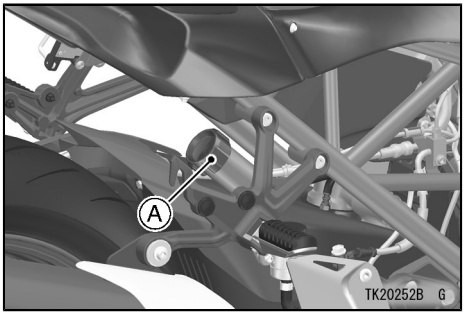
- スプリングの初期荷重の調整は、アジャスタを回すことにより調整ができます。

＜堅くする場合＞

アジャスタを時計回りに回します。

＜柔らかくする場合＞

アジャスタを反時計回りに回します。



A. スプリング初期荷重アジャスタ

1名標準値	4クリック（左に一杯の位置から時計回り）
調整範囲	24クリック

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

伸側減衰力の調整

リヤショックアブソーバ下部に伸側減衰力アジャスタがあります。

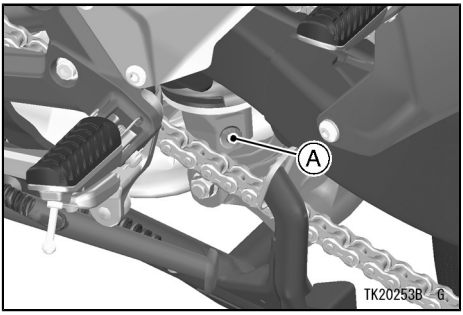
- アジャスタを回すことにより、リヤショックアブソーバが伸びるときのオイル抵抗（減衰力）の調整ができます。

＜堅くする場合＞

アジャスタを時計回りに回します。

＜柔らかくする場合＞

アジャスタを反時計回りに回します。



A. 伸側減衰力アジャスタ

1名標準値	3/4回転戻し（右に一杯の位置から反時計回り）
調整範囲	2 1/2回転

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

圧側減衰力の調整

リヤショックアブソーバ上部に圧側減衰力アジャスタがあります。

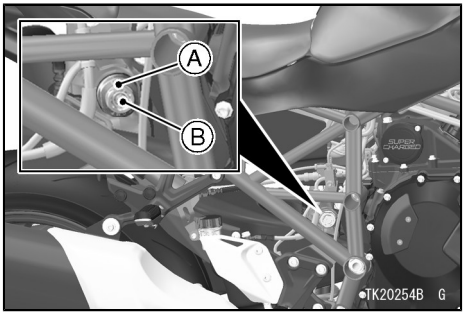
- アジャスタを回すことにより、リヤショックアブソーバが縮むときのオイル抵抗（減衰力）の調整ができます。

＜堅くする場合＞

アジャスタを時計回りに回します。

＜柔らかくする場合＞

アジャスタを反時計回りに回します。



A. 圧側減衰力アジャスタ(高速)
B. 圧側減衰力アジャスタ(低速)

1名標準値	高速：1 2/4回転戻し 低速：5クリック戻し （右に一杯の位置から反時計回り）
調整範囲	高速：2回転 低速：18クリック

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

リヤショックアブソーバの取り扱い方

⚠ 警告

リヤショックアブソーバには、高圧窒素ガスが封入されています。取り扱いを誤ると爆発する可能性があります。

- **リヤショックアブソーバを火中に投棄しないでください。火中に投棄すると爆発が起こり、危険です。**
- **リヤショックアブソーバは穴をあけたり、分解をしないでください。穴をあけたり分解を行うとオイルが吹き出し、危険です。**

アドバイス

○ リヤショックアブソーバを廃棄するときは、カワサキ正規取扱店にお申しつけください。

セッティング表

フロントフォークスプリング初期荷重のセッティング

	柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置	20 mm*	**9 mm**	5 mm*
スプリングの作用	弱い	←→	強い
設定	柔らかい	←→	硬い
荷重	軽い	←→	重い
路面	良好	←→	悪路
速度	低速	←→	高速

*：アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、初期荷重に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

フロントフォーク減衰力のセッティング

		柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置：	伸側	11クリック戻し**	**7クリック戻し****	1*
	圧側	13クリック戻し**	**4クリック戻し****	1*
減衰力		弱い	←→	強い
設定		柔らかい	←→	硬い
荷重		軽い	←→	重い
路面		良好	←→	悪路
速度		低速	←→	高速

*：アジャスタを時計回り一杯に回した位置。
**：時計回り一杯の位置から反時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

リヤショックアブソーバスプリング初期荷重のセッティング

	柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置	1*	**4クリック戻し****	24クリック戻し**
スプリングの作用	弱い	←→	強い
設定	柔らかい	←→	硬い
荷重	軽い	←→	重い
路面	良好	←→	悪路
速度	低速	←→	高速

*：アジャスタを反時計回り一杯に回した位置。
**：反時計回り一杯の位置から時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、初期荷重に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

リヤショックアブソーバ減衰力のセッティング

			柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置：	伸側		2 1/2回転戻し**	**3/4回転戻し****	0*
	圧側	高速	2回転戻し**	**1 2/4回転戻し****	0*
		低速	18クリック戻し**	**5クリック戻し****	1*
減衰力			弱い	←→	強い
設定			柔らかい	←→	硬い
荷重			軽い	←→	重い
路面			良好	←→	悪路
速度			低速	←→	高速

*：アジャスタを時計回り一杯に回した位置。
**：時計回り一杯の位置から反時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

サスペンションセッティング（ZX1002R）

各自の好みや運転の状態、路面、積荷の状態に応じて調整ができます。

アドバイス

○ **フロントフォークのスプリング初期荷重以外のサスペンションセッティングは、KECSが制御しています。「正しい運転操作」の章、「KECS」の項を参照してください(216ページを参照)。**

フロントフォークのセッティング

注意

通常走行時や雨天時、未舗装路を走行した際、インナチューブに付着した汚れ（砂埃、泥、虫等）は固まる前に清掃してください。付着したまま使用を続けるとオイルシールが損傷しオイル漏れの原因となります。

スプリングの初期荷重の調整

右側のフロントフォーク下部にスプリング初期荷重アジャスタがあります。

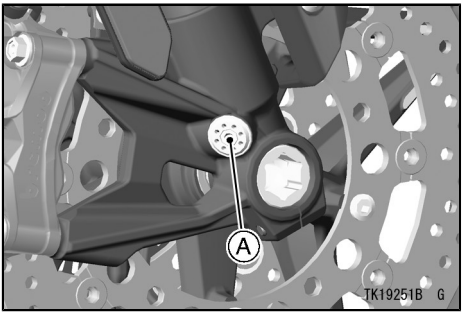
- ツールキットのアレンレンチでアジャスタを回すことにより、スプリングの初期荷重を変えることができます。

＜硬くする場合＞

アジャスタを時計回りに回します。

＜柔らかくする場合＞

アジャスタを反時計回りに回します。



A. スプリング初期荷重アジャスタ

1名標準値	6回転戻し（左に一杯の位置から時計回り）
調整範囲	15回転

注意

アジャスタを調整するときは、調整範囲を超えて無理に回してはいけません。アジャスタが損傷する可能性があります。

セッティング表

フロントフォークスプリング初期荷重のセッティング

	柔らかめの設定	**標準**	硬めの設定
アジャスタ位置	0*	**6回転戻し****	15回転戻し**
スプリングの作用	弱い	←→	強い
設定	柔らかい	←→	硬い
荷重	軽い	←→	重い
路面	良好	←→	悪路
速度	低速	←→	高速

*：アジャスタを反時計回り一杯に回した位置。
**：反時計回り一杯の位置から時計回り。アジャスタは調整範囲以上にも回りますが、初期荷重に変化はありません。調整範囲内でご使用ください。

ETCの取り扱い方

ETCとは

- ETC（Electronic Toll Collection）とは、有料道路（高速道路）において料金所の通過をスムーズに行うため、無線通信を用いて利用料金を自動精算するシステムです。

ETC2.0の情報提供サービス

- ETC2.0は、道路側のITS（高度道路交通システム）スポットアンテナと無線通信することで、ITSスポットから発信されている交通情報（安全運転支援情報、渋滞回避支援情報、災害時支援情報など）を受け取ることができます。本モデルでは、受け取った交通情報をETCインジケータでお知らせします。

ETCを利用するには

- ETCを利用するには、事前にETCカードの取得が必要です。お客様ご自身によりクレジットカード会社等へお申込みください。
- すでにETCカードを所有している場合は、車種を問わずにご利用いただけます。
- 車両の情報を車載器に登録するため、ご利用前にセットアップが必要です。詳しくはカワサキ正規取扱店にご相談ください。
- ナンバープレートが変更になった場合等には、再セットアップが必要です。

ETC利用上の注意

- ETCシステムを安全に使用して頂くため、ご利用前に必ず以下の事項を

お読み頂き、記載された内容に従って正しくお使いください。

- ETCカードを挿入する前に、車載器本体のカードソケット、ETCカードのコンタクト面に汚れ、濡れが無いことをご確認ください。
- 汚れや濡れがあると接触不良を起こし、車載器の故障の原因となります。汚れや濡れがあった場合は、柔らかい乾いた布等で取り除いてください。
- ETCカードの出し入れは雨等に濡れない場所で行ってください。
- 車載器のアンテナ周辺を物などで遮らないでください。
- アンテナの位置は、本書の車両各部の名称をご覧ください。
- 車載器は二輪車専用ですので、四輪車には使用できません。
- 乗車前にETCカードを車載器に確実に挿入し、正常に作動することを確認してください。
- ETCカードの有効期限をあらかじめご確認ください。
- 有効期限切れのETCカードを車載器に挿入した場合でも、車載器はカードを正常に認証しますが、料金所の開閉バーは開かず利用料金の自動精算も行えません。
- 盗難防止のため、車両から離れる際はETCカードを車載器から取り出してください。
- ETCカードを車載器に挿入したまま放置すると、カードが高温で変形し、車載器が正常に作動しなくなる場合があります。また、ETCカードに強い力を加えることもカード変形の原因となりますので、取り扱いにはご注意ください。
- ETCカードの取扱いは、ご契約された発行会社の注意事項に従ってください。
- 車載器管理番号は、お持ちの車載器に記載されている19桁の固有の番号で、ETCの各種割引サービスを受け

る場合、あるいは今後の新たなサービスを受けるにあたって必要な番号です。
- 車載器を他の車両に載せ換える場合や、住所変更等により車両の登録住所が変更となり、ナンバープレートを変更する場合には車載器への車両情報の再登録が必要になります。再登録する場合にはカワサキ正規取扱店にご相談ください。

⚠ 警告

ETC車載器の取り扱いを誤ると、火災や感電による負傷や、死亡事故につながる危険性があります。必ず下記の項目を守ってください。
- **ご自身での車載器の載せ替え等は絶対に行わないでください。取り付け方法を誤る可能性があります。**
- **ETCアンテナの周辺に物を置いたり、周囲を塞がないでください。料金所通行時に通信エラーとなり、開閉バーが開かない可能性があります。**

注意

ETC車載器の取り扱いを誤ると、破損、故障、誤作動の原因となる可能性があります。必ず下記の項目を守ってください。

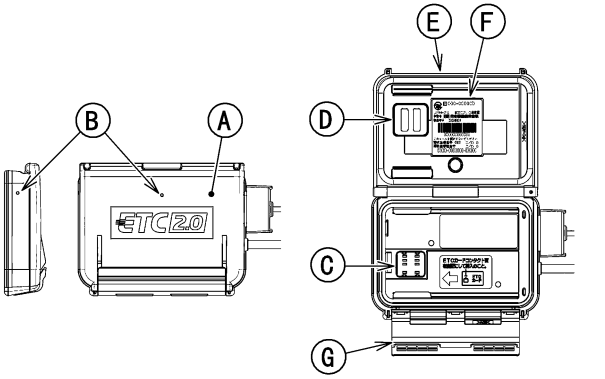
- **分解や改造を行わないでください。不法改造により法律で罰せられます。**
- **車載器の上に荷物を載せるなど、圧迫しないでください。**
- **車載器内部へ水、金属などの異物が混入した場合や異常に高温となった場合、または異臭や煙が出ている場合などは、イグニションスイッチをオフにして、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**

- 料金所では、案内板等により、ETCが利用可能であることを確認し、ETCレーンでは路面表示に従って走行してください。
- ETCレーンには、十分な車間距離をとり、20km/h以下に減速して進入し、徐行して通行してください。ETCレーンでの並走、追い抜き、車群走行は禁止です。
- ETCレーンを走行中に開閉バーが開かなかった場合は、路側表示が停車と出る場合もありますが、後続車による追突防止のため、後退や停車をせず、開閉バーを避けてETCレーンから退避し、駐停車が禁止されていない場所から安全を確認の上、すみやかにご利用の高速道路会社にご連絡ください。
- 有料道路の入口料金所から出口料金所を出るまでは、同一のETCカードを継続して使用してください。ETCカードには、通行料金の計算に必要な情報が記録されます。異なるETC

カードを使用すると料金が正しく計算されない場合があります。
- 一部の料金所では、左側のETCレーンの利用を推奨しています。対象となる料金所では、「ETC 二輪 左へ」等の案内板が設置されています。
- 通信エラー等により、入口料金所のETCレーンで通行券を受け取られた場合は、出口料金所でのお支払いは係員のいるレーンで一旦停止し、ETCカードと通行券を係員にお渡しください。清算機のあるレーンでは、インターホン等で係員を呼び出してください。
- ETCを利用して入口料金所を通過した場合で、出口料金所でETCレーンが利用できない時、あるいは設置されていない時は、一旦停止してETCカードを係員にお渡しください。
- 点検等によりETCレーンが閉鎖されている場合は、係員のいるレーンでETCカードでの支払いが可能です。
- ETCシステムのご利用方法、通行方法、制限事項等については、「ETCシステム利用規定」（https://www.go-etc.jp/）をご覧ください。

TG32165BZ1 S

車載器各部の名称



TG32062B S

A. ETC車載器本体
B. 呼吸穴
C. カードソケット
D. 耐振ゴム
E. カバー
F. 銘版
G. バックル

(A)ETC車載器本体

ETCカードを装着させ、路側アンテナとの通信の制御を行います。

(B)呼吸穴

ケース内の気圧を調整し、防水性を保ちます。防水性の低下およびカバーが開かなくなる可能性があるため、呼吸穴は塞がないでください。

(C)カードソケット

ETCカードとの通信を行います。

(D)耐振ゴム

ETCカードとカードソケットの接触を保持します。カード認証ができなくなったり、カード破損の原因となるため、耐振ゴムは剥がさないでください。

(E)カバー

ETCカード着脱時に開閉します。

(F)銘版

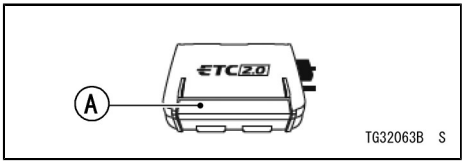
型式、製造年月日、技適番号、車載器管理番号等が記載されています。認証機器としての証明ですので、銘版は剥がさないでください。

(G)バックル

カバー開閉時に付け外しします。車載器の使用/不使用に関わらず、常にロックしてください。

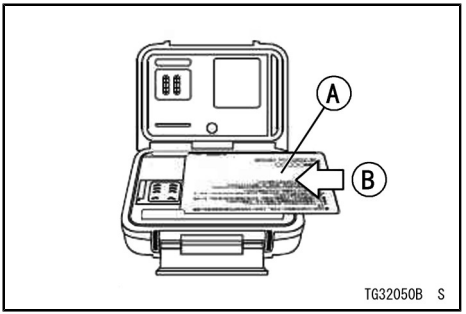
ETCカードの挿入

- バックルを外し、車載器本体のカバーを開いてください。



A. バックル

- ETCカードの端子面と車載器本体のカードソケットが接触するようにスライドさせて突き当たるまで挿入してください。

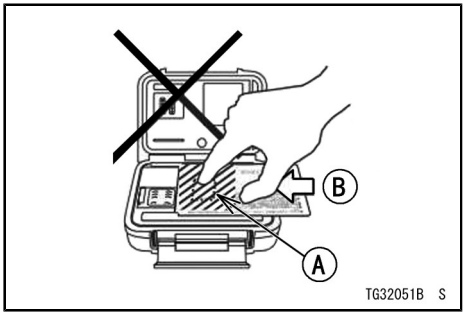


A. ETCカード
B. 挿入方向

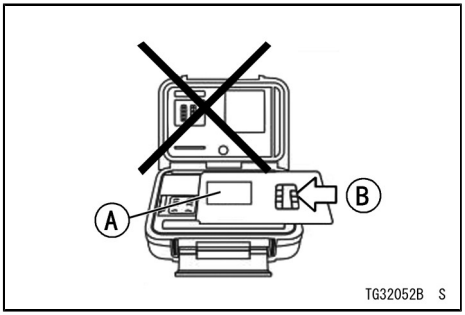
- カバーを閉じ、バックルでカバーを固定します。
- イグニションスイッチをオンにすると、カード認証が開始され、ETCインジケータが緑/赤に交互点滅します。
- カードが正常に認証されると、ETCインジケータが緑色に点灯します。

注意

- ETCカードを挿入する際、カードのICチップ付近を押さえながら入れると、車載器のカードコネクタピンが破損する可能性があります。カードの端を軽く押してゆっくりと挿入してください。
- ETCカードの向き（前後、表裏）を誤ったり、ETCカードではない物を挿入した場合も、カードコネクタピンをが破損する可能性があります。カードの向きや種類をよくご確認ください。



A. ICチップ
B. 挿入方向



A. 表面
B. 挿入方向

ETCインジケータの表示について

状態	ETCインジケータのパターン
車載器が利用できる時 料金所で正常に情報を受け取った時	緑　点灯
ETCカードが未挿入の時 車載器が利用できない時	赤 点灯／点滅
料金所で異常情報を受け取った時	赤　点灯
ETCカード認証中	緑／赤 交互点滅
車載器が未セットアップの時	赤　点滅
イグニションスイッチをオフにした時	消灯
ETCカードの更新をお知らせする時	2秒おきに3回赤点滅

状態	ETCインジケータのパターン
ITSスポットで注意喚起情報を受け取った時	赤高速点滅（約5秒間）
ITSスポットで一般情報を受け取った時	緑高速点滅（約2秒間）

注意

ETCカードの更新をお知らせする機能は簡易的な機能です。GPS信号を受信していない時は、ETCカードの有効期限切れ判定は行わず、インジケータ表示は緑点灯のままとなります。

⚠ 警告

ETCインジケータが緑色に点灯していない場合、ETCシステムは利用できません。ETCレーンの開閉バーが開かず、負傷や死亡事故につながる可能性があります。

ETCレーンでの注意

- ETCレーンに進入する前に、ETCインジケータが緑色に点灯していることを確認してください。
- 確認する際は、インジケータを注視せず、運転の妨げにならないようにしてください。
- ETCレーンでは路面表示（レーンマーク）に従って走行してください。
- ETCレーンには、十分な車間距離をとり、20km/h以下に減速して進入し、徐行して通行してください。

ETCレーンでの並走、追い抜き、車群走行は禁止です。

- 渋滞などでETCレーンに他の車両が停車している場合も、絶対に追い抜きはしないでください。

⚠ 警告

ETCレーンで並走、追い抜き、車群走行などを行った場合、ETCが正常に作動せず、負傷や死亡事故につながる可能性があります。充分な車間距離を保ち、1台ずつまっすぐに進入してください。

- スマートインターチェンジ*を利用する場合は、車両停止状態で通信が行われるため、必ず開閉バーの手前で一旦停止してください。一旦停止しても開閉バーが開かない場合は、レーンに設置されたインターホン等で係員を呼び、案内に従ってください。
- 運営時間、出入り方向、対象車種等に制約がある場合がありますので、ご注意ください。

*スマートインターチェンジ：高速道路の本線、サービスエリア、パーキングエリア等から乗り降りができ、ETCを搭載した車両のみ通行が可能なインターチェンジ。

⚠ 警告

ETCアンテナの周辺に物を置いたり、周囲を塞ぐと通信エラーの原因となります。料金所通行時に開閉バーが開かず、負傷や死亡事故につながる可能性があります。

故障かなと思ったら

- 下記の表で内容を確認し、ご対応ください。
- 症状が改善されない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

症状	確認事項	対応
ETCインジケータが緑色に点灯しない	ETCカードが挿入されているか。	ETCカードを正しく挿入してください。（挿入方向、表裏等）
	ETCカードが正しく挿入されているか。	
	ETCカードのICチップ、車載器本体のカードソケットに汚れや濡れがないか。	ETCカードのICチップ、車載器本体のカードソケットを掃除してください。
	ETCカードが変形していないか。	変形していないETCカードをご使用ください。
ETCレーンの料金所で開閉バーが開かない	料金所との通信トラブル。	開閉バーが開かなかった場合、後続車による追突防止のため、後退や停車をせず、開閉バーを避けてETCレーンから退避し、駐停車が禁止されていない場所から安全を確認の上、すみやかにご利用の高速道路会社にご連絡ください。
	ETCカードの有効期限が切れていないか。	有効なETCカードをご使用ください。
	アンテナの周囲に遮蔽物がないか。	アンテナ周辺に電波を遮るものを置かないでください。

症状	確認事項	対応
ETCカードが入らない	ETCカードが変形していないか。	変形していないカードをご使用ください。
	車載器の内部に異物が入っていないか。	異物を取り除いてください。
請求金額が違う	下記のホームページにて利用履歴をご確認ください。 https://www.etc-meisai.jp/  	料金については、ご利用のETCカード発行会社（クレジットカード会社）にお問合せください。

燃料の補給

ガソリンの補給

⚠ 警告

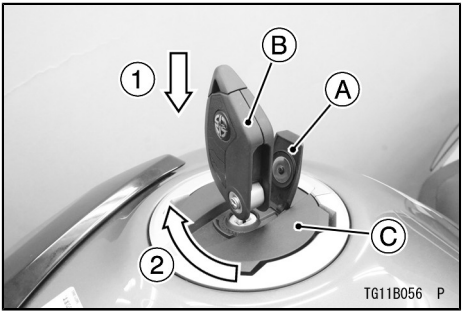
燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。燃料を取り扱うときあるいは、給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- **タバコを吸うなど火気を近づけないでください。**
- **ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。**
- **給油は必ず風通しのよい屋外で行ってください。**

身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります。次のことは必ず守ってください。

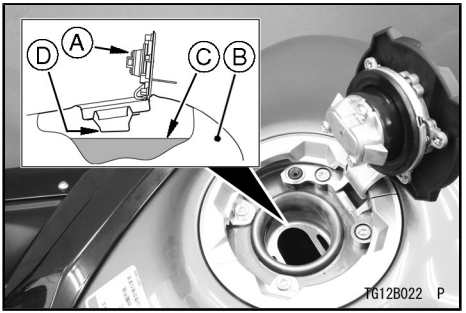
- **タンクキャップを開ける前に車体または、給油機等の金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。**
- **ガソリンまたは燃料がこぼれた場合は、布などで完全に拭きとってください。**
- **タンクキャップを開けるなど、給油機の操作は必ず、静電気の除去を行った人お1人で行ってください。**
- **給油口に他の人を近づけないでください。**

- キーホールカバーを引き上げます。
- 燃料タンクキャップのロックにキーを差し込み、燃料タンクキャップを軽く押しながらキーを時計回りに回します。



A. キーホールカバー
B. キー
C. 燃料タンクキャップ

- 燃料タンクキャップを開けます。
- 燃料を給油します。燃料は注入口にあるレベルプレートの下端以上入れず、図のように少し控え目に入れてください。



A. 燃料タンクキャップ
B. 燃料タンク
C. トップレベル
D. レベルプレートの下端

タンク容量：19 L

使用燃料：無鉛プレミアムガソリン

注意

- **必ず無鉛プレミアムガソリンを使用してください。燃料を補給するときは、必ず無鉛プレミアムガソリンであることを確認してから行ってください。無鉛レギュラガソリンを使用すると、エンジンに悪影響を及ぼす原因となります。**
- **高濃度アルコール燃料を使用しないでください。高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。**
- **粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響を及ぼす可能性があります。**

- タンクキャップを閉じるときは、キーをキャップに差し込んだ状態で、キャップを手で押し下げます。
- キーを"LOCK"の位置に回して抜きます。
- キーホールカバーを閉めます。
- サイドスタンド状態においては燃料計は燃料量を正確に表示しません。車体を正立状態にして、燃料量の確認を行ってください。

アドバイス

○ タンクキャップはキーを差し込んでいないとロックできません。また、キャップが確実にロックされていないとキーは抜けません。

○ タンクキャップを閉じるときに、キーを持って押し付けないでください。正しくロックできません。

⚠ 警告

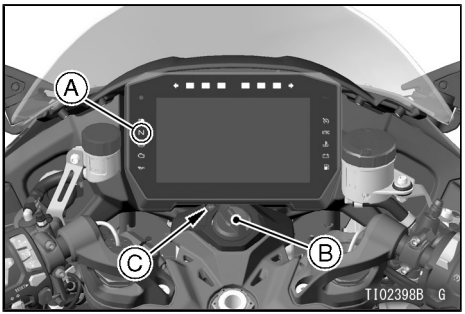
燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。燃料を取り扱うときあるいは、給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- **燃料タンクに燃料を入れすぎると、走行中燃料が膨張してタンクキャップのブリーザホースからにじみ出ることがあります。燃料は入れすぎないでください。**
- **タンクキャップは確実に閉めてください。**
- **燃料がこぼれた場合は、ただちに布などで完全に拭きとってください。**

正しい運転操作

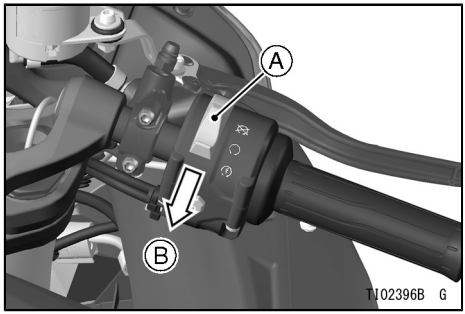
エンジンのかけ方

- キーノブを押すと、キーノブインジケータが点灯します。
- キーノブインジケータが点灯している間にイグニションスイッチを回します。
- トランスミッションをニュートラルにします。ニュートラルに入っているかどうかニュートラルインジケータで確認します。



A. ニュートラルインジケータ（緑色）
B. イグニションスイッチ
C. キーノブインジケータ

- メータの初期動作が終了したのち、スロットルグリップを動かさずに、クラッチレバーを握り、エンジンスタート／ストップスイッチを の位置にスライドし、エンジンを始動させます。



A. エンジンスタート／ストップスイッチ
B. スライドする。

アドバイス

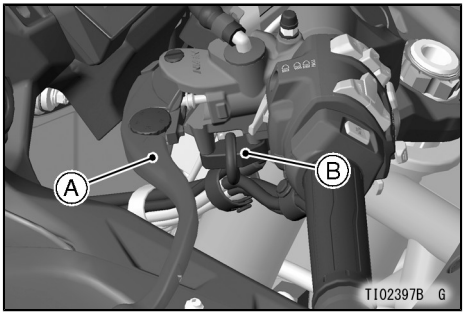
- エンジン冷間時にはファーストアイドル機構が自動的に働き、エンジン回転速度が高くなります。この時、無理なスロットル操作を行うとエンジン警告インジケータが点灯する可能性があります。
- この車には、転倒した際に自動的にエンジンを停止させるための転倒センサを採用しています。再度エンジンを始動させるには車体を垂直に起こした後、一旦イグニションスイッチをオフにして、再度回します。

⚠ 危険

排気ガスには、無色無臭の有毒ガスである一酸化炭素が含まれています。排気ガスを吸い込むと、意識不明になったり、死亡する可能性があります。閉め切った場所でエンジンを運転しないでください。換気の良い場所で作業してください。

アドバイス

- スタータロックアウトシステムにより、サイドスタンドが降りている時は、ニュートラル以外でエンジンは始動できません。



A. クラッチレバー
B. スタータロックアウトスイッチ

アドバイス

○ エンジンスタート／ストップスイッチをスライドして5秒以内でエンジンが始動しない時は、一旦イグニションスイッチをオフにし、10秒くらい休んでから再度イグニションスイッチをオンにしてエンジンスタート／ストップスイッチをスライドしてください。これはバッテリ電圧を回復させるためです。

○ エンジンが始動してエンジンスタート／ストップスイッチを放すと、ヘッドライトが点灯します。

○ 不必要な空吹かしはしないでください。燃料の無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を及ぼします。

○ アイドリング状態で長時間放置すると、充電不良を起こし、バッテリに悪影響を及ぼします。

ならし運転

最初の1 000 kmを走行するまでは下表のエンジン回転速度以下でならし運転をしてください。ならし運転を行うと、車の性能を維持し寿命を延ばします。

走行距離	エンジン回転速度
0 ~ 350 km	4 000 rpm
350 ~ 600 km	6 000 rpm
600 ~ 1 000 km	控えめな運転

アドバイス

○ 必要に応じて一時的に制限回転速度を超えることは問題ありません。
○ 不必要な空吹かし、急加速、急減速はつつしんでください。
○ 法定速度を守って走行してください。

走り方

● サイドスタンドが完全に戻っているかを確認します。

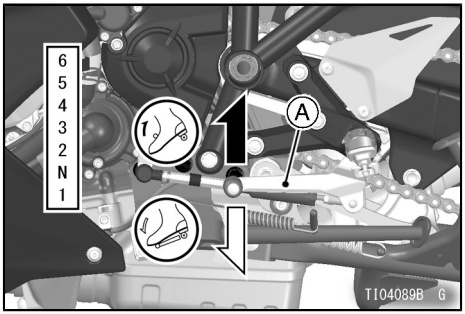
アドバイス

○ サイドスタンドが降りたままギヤを入れると、サイドスタンドスイッチとスタータロックアウトスイッチが働いて、自動的にエンジンが止まります。
○ サイドスタンドが滑らかに作動しない時は取り付け部に注油を行い、滑らかに作動するか確認してください。

⚠ 警告

走行中はサイドスタンドを操作しないでください。走行中にサイドスタンドを操作するとエンジンが止まり、思わぬ事故の原因となることがあります。

● クラッチレバーを握り、シフトペダルを操作してギヤを１速に入れ、静かに発進します。
● 車のスピードに応じてギヤチェンジをします。ギヤチェンジは6段リターン式です。



A. シフトペダル

アドバイス

○ ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻し、クラッチレバーを完全に握ってから行ってください。
○ チェンジ操作は、ペダルにコツンと感じるまで確実に行ってください。
○ チェンジ操作が堅く感じられる時は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。
○ 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命を延ばします。

注意

- **無理なチェンジ操作やシフトペダルに足を乗せたままでの走行は、チェンジ機構やクラッチを傷める原因となります。**
- **走行中に異常を感じたときは、ただちにカワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**

シフトダウンの仕方

追い越しするとき等強力な加速が必要な時は、シフトダウン（低速ギヤにチェンジ）をすると加速力が得られます。あまり高い速度で行うとエンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を及ぼします。各ギヤ共、5 000 rpm以下で行ってください。

⚠ 警告

急激なシフトダウンは、走行安定性をそこない転倒等の原因となりますので行わないでください。

ブレーキの使い方

- ブレーキは前後輪同時に使用してください。

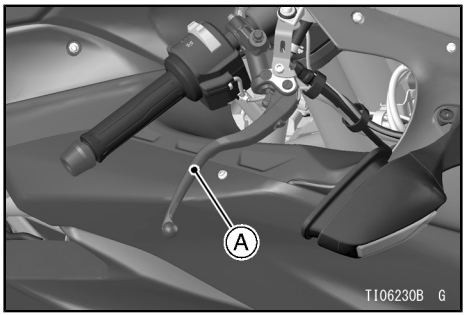
⚠ 警告

前輪または後輪ブレーキだけを使うと、走行安定性をそこない横すべりや転倒の原因となる場合があります。必ず前後ブレーキを同時にかけてください。

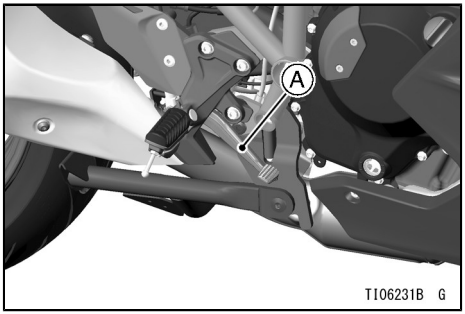
- 不必要な急ブレーキはかけないでください。

⚠ 警告

急ブレーキをかけると、走行安定性をそこない横すべりや転倒の原因となる場合があります。不必要な急ブレーキは行わないでください。



A. フロントブレーキレバー



A. リヤブレーキペダル

アドバイス

- 雨の日や路面が濡れているところ、雪道や凍った道路では路面が滑りやすく、晴天時よりも制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもって運転してください。
- 長い坂道を下る時等に連続してブレーキを使用すると、ブレーキ部の温度が上昇しブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。このようなときはエンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。
- 雨の日や水たまりを走行した後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ブレーキの効きが悪い時は、周囲の交通状況に充分注意して低速で走行しながら、ブレーキの効きが回復するまでブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

エンジンブレーキ

走行中、スロットルグリップを戻した時にかかる制動力です。低速ギヤほどエンジンブレーキはよく効きます。

ESS

ESS（エマージェンシーストップシグナル）は、急ブレーキ時にブレーキライトを点滅させることで後続車に注意を促し、追突される可能性を低減させるシステムです。

- ESSは以下の条件で作動します。

車速	55 km/h以上
ハザードライト	オフ

アドバイス

- **ハザードライトがオンの場合、システムは作動しません。**
- **ABSインジケータが点灯している場合、システムは作動しません。**

- 急ブレーキが解除されると、ESSはオフになります。

ABS

ABS（アンチロックブレーキシステム）は、直線走行中に急ブレーキをかけたとき、車輪がロックしないように設計されています。ABSはブレーキ力を自動的に制御します。グリップ力とブレーキ力を断続的に得ることによって、車輪がロックすることを防ぎ、車が停止するまで運転者が安定したハンドル操作をできるようにします。

ブレーキの操作は通常の車と同じです。前輪ブレーキはブレーキレバーで、後輪ブレーキはブレーキペダルでかけます。

ABSは車輪のロックを防いで車を安全に停止させますが、次のような特徴がありますので注意してください。

- ABSは悪い路面、誤った判断、または間違ったブレーキのかけ方を良い方向に補うことはできません。ABSがついていない車と同じような注意が必要です。
- ABSは停止距離を縮めるようには設計されていません。すべりやすい、凹凸が多い、あるいは下りの道路などでは、ABS搭載の車の方が搭載されていない車より停止距離が長くなる場合があります。このようなところを走行するときは特に注意してください。
- ABSは直線走行中にブレーキをかけたとき車輪がロックすることを防ぐのに役立ちます。しかし、コーナリ

ング中にブレーキをかけたときに起こる車輪の横すべりをコントロールすることはできません。コーナリング中のブレーキはかけない方が安全です。もしかける必要がある場合は、前後輪共、軽くかけるだけにします。

アドバイス

○ コーナに入る前にシフトダウンをして、充分に減速してください。

● ABSに組み込まれているコンピュータは、車の走行速度と車輪の回転速度を比べています。指定サイズ以外のタイヤは車輪の回転速度を変え、コンピュータを誤作動させて停止距離を長くすることがあります。

⚠ 警告

指定外のタイヤを使用するとABSが誤作動を起こし、停止距離が長くなって事故につながる可能性があります。必ず指定されたタイヤを使用してください。

⚠ 警告

ABSシステムの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

アドバイス

○ ABSの作動中に、ブレーキレバーやペダルに振動を感じることがあります。これは異常ではありませんので、ブレーキをかけているのを中断する必要はありません。

○ 車速が5 km/h以下ではABSは作動しません。
○ バッテリが上がっている場合も、ABSは作動しません。

KIBS

KIBS（カワサキインテリジェントアンチロックブレーキシステム）はスポーツライディングにおいて、よりスムーズなブレーキ制御を行うシステムです。

KIBSは減速中の車輪のロックを防ぐために、前後輪の車輪回転速度に加えてエンジンのデータも使用して自動的にブレーキの強さを制御します。

⚠ 警告

KIBSの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

エンジンの止め方

- スロットルグリップを全閉にします。
- トランスミッションをニュートラルにします。
- イグニションスイッチをオフにします。

エンジンの非常停止

何らかの原因で、エンジンがスロットルコントロールを失うと非常に危険な状態に陥ることがあります。このような非常時において、イグニションス

イッチで停止できないときはエンジンスタート／ストップスイッチを ⊠ の位置にしてください。ハンドルから手をはなさずにエンジンを停止することができます。

駐車の仕方

⚠ 警告

可燃物近くでの運転、駐車は、火災の原因となる可能性があります。背の高い植物、枯れ木、枯れ葉、等の可燃物がマフラ等の排気系部品に触れるような場所で、アイドリングしたり駐車したりしないでください。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。

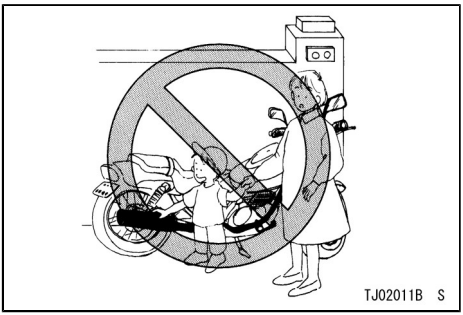
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **駐車するときは交通の邪魔にならない、安全な場所で他の方がマフラ、エンジンに触れることのない場所に駐車してください。**

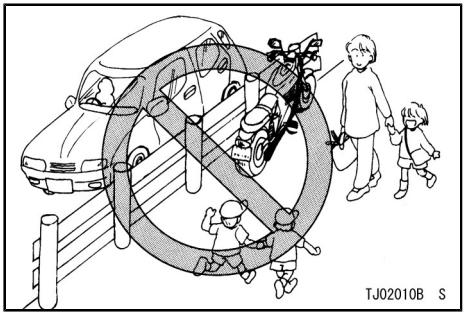
- 車を止め、トランスミッションをニュートラルにします。
- イグニションスイッチをオフにしてエンジンを停止させます。
- サイドスタンドを使って、水平でしっかりとした場所に駐車します。

⚠ 警告

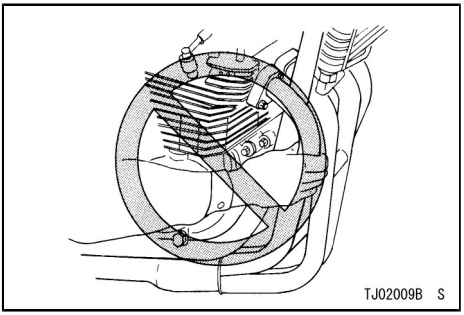
坂道、砂利道や凸凹な所に駐車すると、スタンドが不安定になり転倒する可能性があります。車が安定するところに駐車してください。

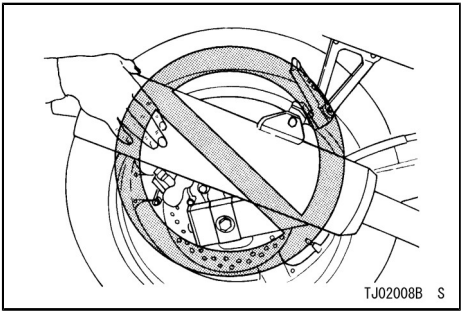
- 交通の邪魔にならない安全な場所に駐車してください。





- エンジン回転中や停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンに触れないでください。
- マフラ、エンジンが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車してください。やむをえず子供が遊ぶ施設や人通りの多いところに駐車するときは他の方がマフラ、エンジンに触れないように配慮してください。


TJ02009B S


TJ02008B S

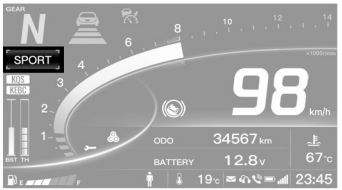
- ガレージまたはその他の建物の内部に駐車する時は、風通しが良く、火気のない所にします。

⚠ 警告

ガソリンは引火性が高く火災の原因になることがあります。ガソリンを取り扱うとき、あるいは燃料を給油するときは必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

- 車から離れるときは、盗難予防のため必ずステアリングロックをかけてください。

インテグレイテッドライディングモード(ZX1002P)



この車両は、ボタンひとつでその性能特性を変更できます。各ライディングモードはエンジンを統合制御します。

SPORT:

パワーモード	F (100%)
KTRC	1 (介入、少)

ROAD:

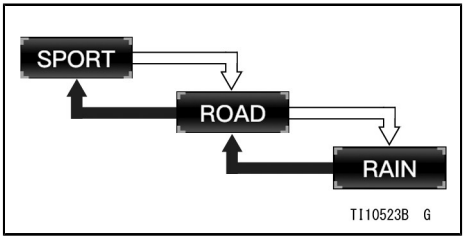
パワーモード	F (100%)
KTRC	2 (中間)

RAIN:

パワーモード	L (50%)
KTRC	3 (介入、多)

ライディングモードの切り替え方法

- 上下のMODEボタンを長押ししてモードを切り替えます。



➡ :上MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ :下MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

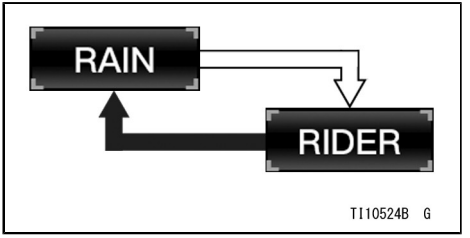
- 下記の状態では切り替えができません。
- スロットルを開けているとき
- クルーズコントロールを使用しているとき

ライダモード(RIDER)

3種類のライディングモードに加えて、好みに合わせて設定を変えられる「ライダモード」が利用できます。パワーモードとKTRCの2つのパラメータを調整できます。

ライダモード(RIDER)への切り替え方法

- メニューモード画面でライダモードを使用できるようにしてください。「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(89ページを参照)。
- "RAIN"モードのときに下MODEボタンを押し続けて切り替えます。



➡ :上MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

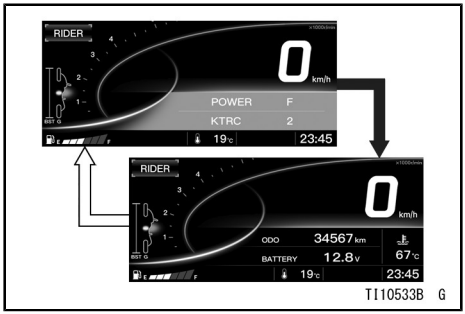
⇨ :下MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

- 下記の状態では切り替えができません。
- スロットルを開いているとき
- クルーズコントロールを使用しているとき

アドバイス

○ ライダモードに切り替えると、各パラメータの設定状態が図のように表示されます。通常表示に戻すにはRESETボタンを押してください。

○ 各パラメータの設定状態を表示するには、RESETボタンを長押ししてください。



➡ :RESETボタンを押したときの切り替わり方

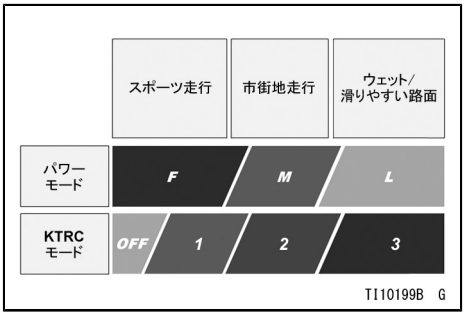
⇨ :RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

ライダモードのパラメータ

パワーモードとKTRCのパラメータを組み合わせることにより、好みに合わせた設定を作成できます。

各モードの組み合わせは運転者の技量や路面状況により異なります。組み合わせは、次の表を参考に、運転者自身の判断で行ってください。

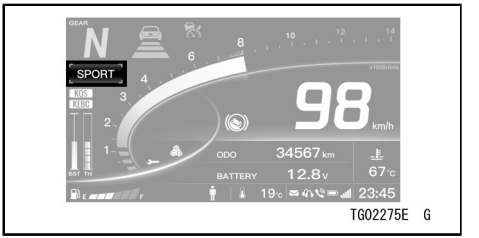
組み合わせの例



パラメータの変更方法

- 「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(88ページを参照)。

インテグレイテッドライディングモード(ZX1002R)



この車両は、ボタンひとつでその性能特性を変更できます。各ライディングモードはエンジンとサスペンションを統合制御します。

SPORT:

パワーモード	F (100%)
KTRC	1 (介入、少)
KECS	HARD (硬め)

ROAD:

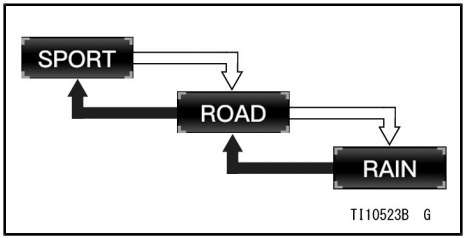
パワーモード	F (100%)
KTRC	2 (中間)
KECS	NORMAL (標準)

RAIN:

パワーモード	L (50%)
KTRC	3 (介入、多)
KECS	SOFT (柔らかめ)

ライディングモードの切り替え方法

- 上下のMODEボタンを長押ししてモードを切り替えます。



➡ :上MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ :下MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

- 下記の状態では切り替えができません。
- スロットルを開けているとき
- クルーズコントロールを使用しているとき

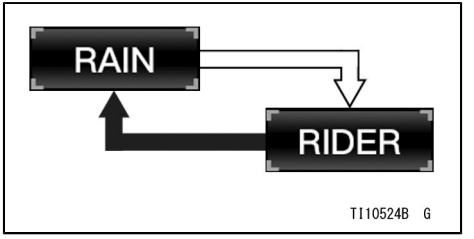
ライダモード(RIDER)

3種類のライディングモードに加えて、好みに合わせて設定を変えられる「ライダモード」が利用できます。パ

ワーモード、KTRC、KECS（減衰力）の3つのパラメータを調整できます。

ライダモード(RIDER)への切り替え方法

- メニューモード画面でライダモードを使用できるようにしてください。「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(89ページを参照)。
- "RAIN"モードのときに下MODEボタンを押し続けて切り替えます。



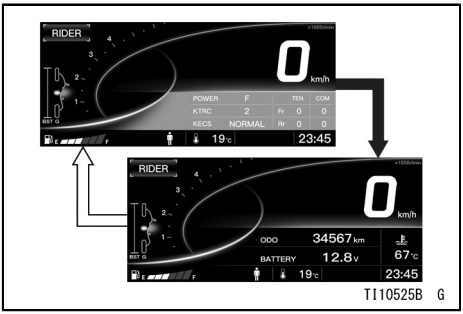
➡ :上MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

⇨ :下MODEボタンを押し続けたときの切り替わり方

- 下記の状態では切り替えができません。
- スロットルを開けているとき
- クルーズコントロールを使用しているとき

アドバイス

- ライダモードに切り替えると、各パラメータの設定状態が図のように表示されます。通常表示に戻すにはRESETボタンを押してください。
- 各パラメータの設定状態を表示するには、RESETボタンを長押ししてください。



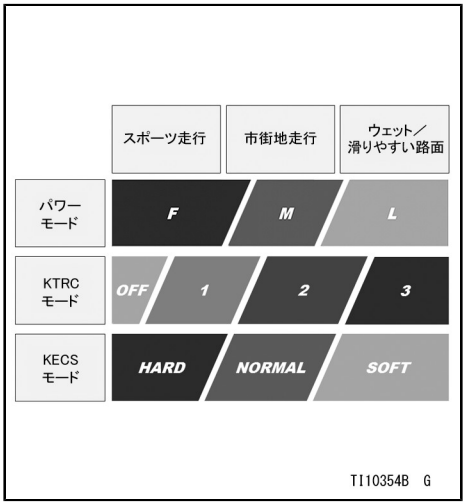
➡ :RESETボタンを押したときの切り替わり方
⇨ :RESETボタンを押し続けたときの切り替わり方

ライダモードのパラメータ

パワーモード、KTRC、KECSのパラメータを組み合わせることにより、好みに合わせた設定を作成できます。

各モードの組み合わせは運転者の技量や路面状況により異なります。組み合わせは、次の表を参考に、運転者自身の判断で行ってください。

組み合わせの例



パラメータの変更方法

- 「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(88ページを参照)。

KTRC

KTRC（Kawasaki TRaction Control）は、加速時の後輪スリップ（ホイールスピン）を検出し、ライディング状況に応じた最適なスリップ率になるように制御するインテリジェントシステムです。スポーツ走行だけでなく、ツーリング先の荒れた路面や滑り易い路面でも安定した走行をサポートします。

KTRCは、公道で使用することを目的にしていますが、あらゆる状況に対応できるものではありません。路面状態によってはホイールスピンが生じ、車両の加速に遅れが生じることがあります。

⚠ 警告

KTRCシステムの機能には限界があり、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。天候、路面状況、交通事情にふさわしいスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。

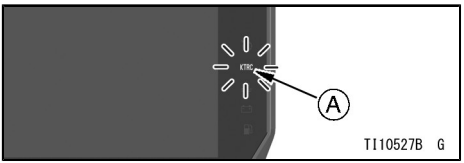
極端な加速により前輪が浮き上がると、KTRCはエンジン出力を抑制し、前輪を接地させようとします。このような場合には、スロットルグリップを少し戻してできるかぎり早く前輪を接地させてください。

⚠ 警告

指定外のタイヤを使用するとKTRCが誤作動を起こし、正しく機能しなくなって事故につながる可能性があります。必ず指定されたタイヤを使用してください。

KTRCインジケータ

システム介入中に点滅します。



A. 黄色KTRCインジケータ

KTRCモード

KTRCは、道路状況に応じて3種類の作動モードが選択できます。また、KTRCをオフにすることもできます。

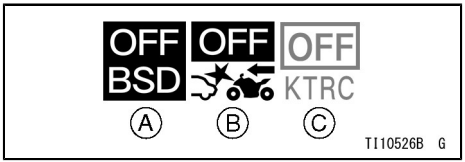
モード1:
スリップ抑制を最も控えめにしたモードです。スポーツライディングに適した加速力が得られます。

モード2:
システムの介入頻度は中程度で、モード1と3の中間レベルになります。

モード3:
システムが早期に介入し、可能なかぎり後輪の空転が抑制されます。路面のグリップ力が弱い場合に使用してください。

アドバイス

- KTRCがオフのときは後輪スリップを制御できません。スロットルを慎重に操作してください。
- KTRCがオフのとき、BSD OFF、FCW OFF、KTRC OFFインジケータがメータユニットに表示されます。



A. BSD OFFインジケータ
B. FCW OFFインジケータ
C. KTRC OFFインジケータ

パワーモード

パワーモードは、3種類のエンジン出力特性が選択できます。

モードF（フルパワー）：
最高出力を発揮するモードです。エンジンが持つ本来のスロットルレスポンスを発揮します。

モードM（ミドルパワー）：
最高出力の75%程度の出力に抑制します。

モードL（ローパワー）：
最高出力の50%程度の出力に抑制します。スロットルレスポンスが最も穏やかになります。

KECS（ZX1002R）

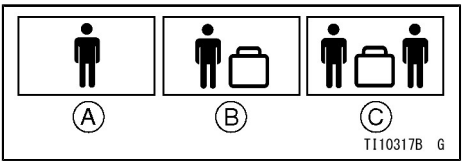
KECS（Kawasaki Electronic Control Suspension）は前後サスペンションの減衰力を個別に自動制御します。さらに、リヤショックアブソーバのスプリング初期荷重（プリロード）を調整できます。

アドバイス

○ フロントフォークのスプリング初期荷重は、右側のフロントフォーク下部にあるアジャスタで調整できます。「各部の取り扱い方」の章、「サスペンションセッティング」の項を参照してください(172ページを参照)。

プリロードモード

リヤショックアブソーバのスプリング初期荷重の調整範囲は0 ~ 35です。KECSには3つのプリロードモードがあり、各セッティング値は下記の通りです。

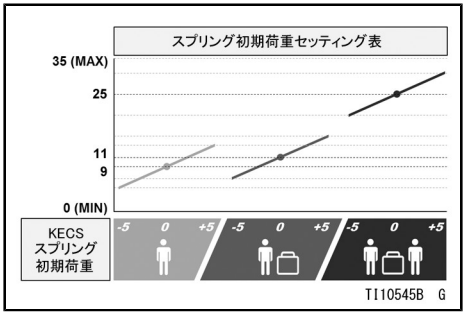


A. 運転者のみ:9
B. 運転者＋手荷物:11
C. 運転者＋手荷物＋同乗者:25

アドバイス

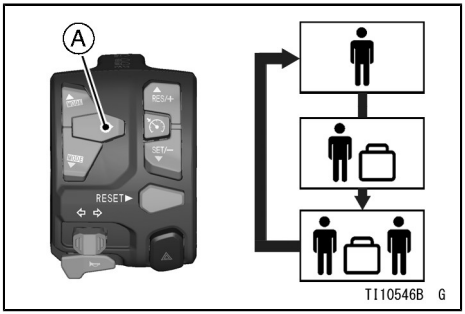
○「運転者＋同乗者」の場合は「運転者＋手荷物」を使用してください。

各セッティング値は±5段階で微調整できます。



プリロードモードの切り替え方法

● 左ハンドルスイッチのミドルボタンを長押しすると、プリロードモードが下記の順に切り替わります。

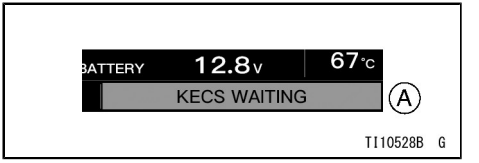


A. ミドルボタン
➡ :ミドルボタンを長押ししたときの切り替わり方

- 下記の状態では切り替えができません。
- スロットルを開けているとき
- クルーズコントロールを使用しているとき

アドバイス

- モータの発熱やバッテリの放電を防ぐため、プリロードモードの変更は繰り返さないようにしてください。
- “KECS WAITING”メッセージが表示されたときは、何らかの原因でスプリング初期荷重調整機構が待機状態となっています。この表示が消えない場合は、カワサキ正規取扱店で点検をお受け下さい。



A. KECS待機メッセージ

スプリング初期荷重セッティングの調整方法

- 「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(84ページを参照)。

減衰力

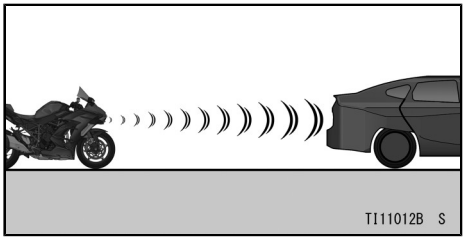
KECSの減衰力は、3種類のセッティングが選択できます。KECSは車速や加速度およびサスペンションストロークに基づいて、自動的に伸側減衰力および圧側減衰力を調整するシステムです。

HARD(硬め):
スポーツライディングや高荷重時に適したセッティングです。

NORMAL(標準):
路面の凹凸に対する吸収性を高めた標準的なセッティングです。

SOFT(柔らかめ):
濡れた路面に対して効果的な、最も柔らかいセッティングです。

フロントレーダアシスト



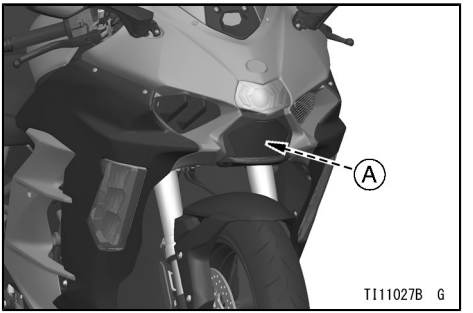
フロントミリ波レーダを用いて、以下の支援を行います。

- ACC (アダプティブクルーズコントロール)
- FCW (前方衝突警告)

アドバイス

○ 他の国で走行する場合は、レーダセンサを使用するための国別規定を遵守する必要があります。このレーダセンサは特定の国のライセンスがなく、国別規定で使用が認められていない場合は、無効にする必要があります。

フロントレーダセンサはアッパカウリングのフロントレーダセンサカバーの後ろにあります。



A. フロントレーダセンサ

注意事項

システムが正しく機能するように、次の点に注意してください。

きれいに保つ

フロントレーダセンサ付近に異物が付着しないようにしてください。（ほこり、雪、氷、虫、アクセサリ、ステッカ（透明のものを含む）、アルミテープなど）

アドバイス

○ 異物が原因でシステムが正常に動作せず、メータユニットに警告メッセージが表示されることがあります。異物を除去しても問題が解決しない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

振動、衝撃を避ける

フロントレーダセンサに強い振動や衝撃を与えないでください。

アドバイス

○ センサがわずかでもずれるとシステムが誤作動したり、正しく検知されないことがあります。不明な場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

改造しない

フロントレーダセンサ付近を分解しないでください。またセンサ付近を塗装しないでください。不明な場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

ACC

システムの制限内で車速の調整および車間距離の維持を支援します。

このシステムにより、スロットルやブレーキを操作することなく速度を維持することができます。

⚠ 警告

ACCの機能を過信しないでください。

- **いかなる状況でも適切なスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。**
- **機能を正しく使用するために、本項および「各機能の制限」の項をよくお読みになり、機能の限界に留意した上でご使用ください。**

⚠ 警告

事故を避けるため、次のような状況ではACCを使用しないでください。

- **高速道路、自動車専用道路以外の一般道。**
- **交通量の多い道路。**
- **急カーブがある道路。**
- **急な下り坂を走行する場合。下り坂で惰行によって設定車速を超える可能性があっても、本機能はブレーキを作動させません。**
- **料金所などの車線にまたがった構造物がある道路や、駐車場またはドライブスルーが可能な施設を走行する場合。**

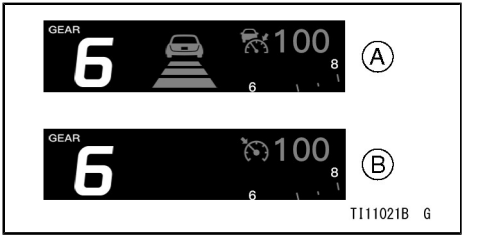
ACCとCC

フロントレーダ機能をオフにしても、クルーズコントロール（CC）は使用できます。

アドバイス

○ CCは先行車との距離を制御しないため、運転者によるブレーキ操作が必要です。

○ ACCとCCはメータ画面の表示で区別できます。



A. ACC
B. CC

ACCとCCの切り替え方法

- ACCのオン／オフはメニューモード画面で設定できます。「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(86ページを参照)。

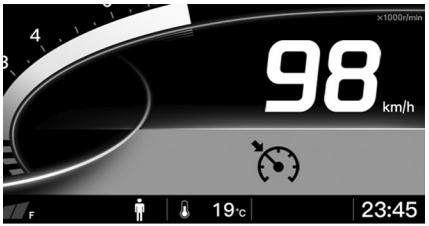
システム操作

● ACCは以下の条件で使用できます。

ACC	オン
KTRC	オン
車速	30 km/h以上

アドバイス

○ クルーズコントロールを使用するときは、法定速度をご確認ください。
○ KTRCがオフの場合、ACCは自動的にオフになります。
○ エンジン保護のため、「RES/＋」ボタンを押したときのエンジン回転数が8 000 rpmを超えないように制御します。運転状況によっては、エンジン回転数が8 000 rpmを超えることがあります。
○ エンジン回転数が7 500 rpmを超えると警告メッセージが表示されます。



TI11006B G

アドバイス

○ システムによる加減速には限界があり、特に高負荷状態では限界があります。足りないと感じたら手動で操作してください。
○ コーナリング中は加減速をマイルドに制御し、快適な乗り心地を実現します。
○ イグニションスイッチをオンにすると、ACCシステムチェックのためにブレーキランプが数秒点灯します。

○ 各ギアには最低車速があります。運転状況によっては、シフトアップ時に加速することがあります。

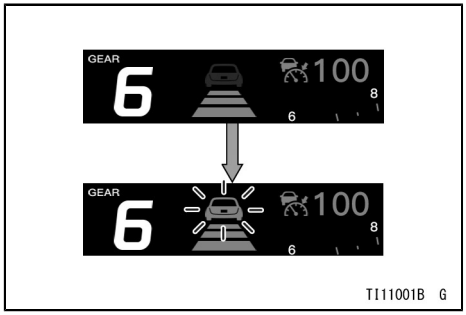
最低車速

ギヤ位置	km/h
1速	30
2速	30
3速	40
4速	50
5速	50
6速	60

先行車がいる場合

レーダセンサは検出範囲に入る先行車両を監視しています。車両が検出された場合、設定された車間距離を維持するために車両の速度を維持または減速します。

先行車が検出されると、アイコンは緑色に変わります。



設定速度よりも先行車のほうが遅い場合、減速し始めます。

アドバイス

○ 先行車との車間距離が短い場合でも、先行車の状況によっては加速し始めることがあります。

先行車がいない場合

設定速度を維持します。

先行車が車線変更をした場合、設定速度まで加速し、その後速度を維持します。

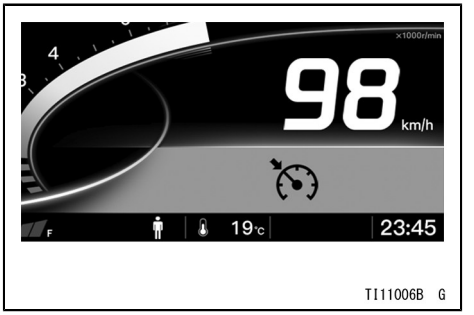
カーブコントロール

カーブ走行時、必要に応じて車速を下げることで快適なリーン角を実現する機能です。

さらに、急ブレーキや急加速操作に運転者が驚かないように、傾斜角が大きくなるにつれて減速や加速が制限されます。たとえば、カーブコントロールは、先行車が失われ、設定した速度が高すぎる場合に予期しない加速が発生するのを防ぎます。カーブを走行しているときに、レーダによって限られた範囲でしか検出されない場合、前方の車両が検出できなくなることがあります。

運転者への介入要求

状況によっては後述する制限のために、減速中または加速中であっても必要であればシステムは運転者に介入を促すことがあります。このような要求が行われると警告メッセージが表示されます。

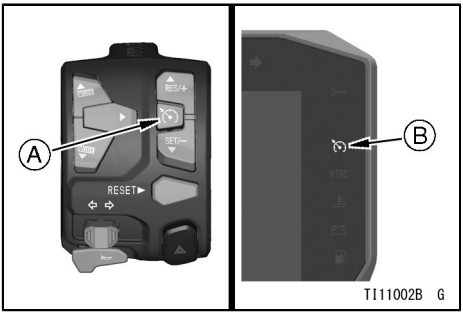


次のような場合に表示されます。

- システムがブレーキをかけられなかった場合、または車間距離を調整できなかった場合（たとえば、車両が突然車線に進入した場合や、検出した車両が自車よりもはるかに遅い速度の場合など）。
- エンジン回転数が7 500 rpmに達した場合、またはエンジン回転数がギア位置に対して低すぎる場合。この場合、運転者ができる範囲でギアを上下にシフトすることをお勧めします。

ACC設定方法

- メニューモード画面で“Adaptive Cruise Control”を有効にします。「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(86ページを参照)。
- 左ハンドルスイッチのクルーズコントロールボタン（ ）を押してください。システムが起動してクルーズコントロールインジケータが点灯します。



A. クルーズコントロールボタン
B. クルーズコントロールインジケータ

- 「SET/-」ボタンを押してください。現在車速で設定されクルーズコントロールが開始します。

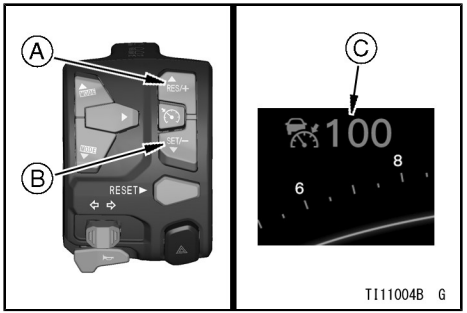
設定速度の調整方法

- 設定速度を上げるには、「RES/＋」ボタンを使用します。

短押し	1 km/hずつ増加
長押し	5 km/hずつ増加

- 設定速度を下げるには、「SET/−」ボタンを使用します。

短押し	1 km/hずつ減少
長押し	5 km/hずつ減少



A.「RES/＋」ボタン
B.「SET/−」ボタン
C. 設定速度

アドバイス

○ 一時的に加速する場合は、通常のスロットル操作で加速します。この場合、設定速度に戻すには前後のブレーキを使用せずにスロットルを戻してください。

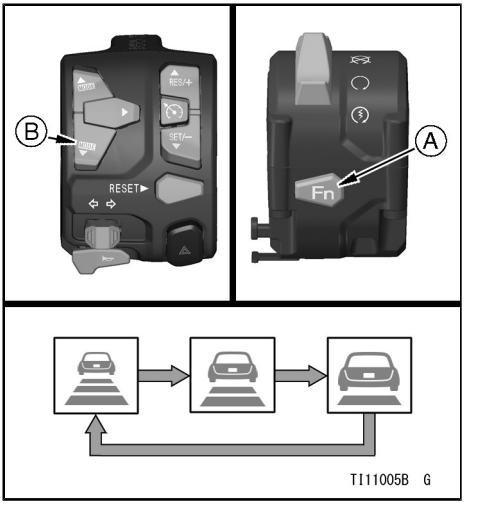
車間距離の調整方法

メニューモード画面から調整する場合

- 「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(86ページを参照)。

Fnボタンを使用する場合

- Fnボタンを押しながら下MODEボタンを押します。



A. Fnボタン
B. 下MODEボタン

ACCをオフにするには

- クルーズコントロールボタン（ ）を押してオフにします。

設定車速の解除方法

一時解除

設定車速は以下の条件で一時的に解除されます。

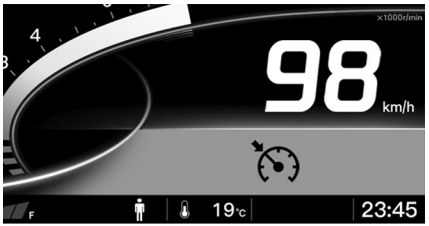
- ブレーキレバーを引いたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- クラッチレバーを数秒間引いたとき
- スロットルをアイドリング位置以上に戻したとき

自動解除

設定車速は以下の条件で自動的に解除されます。

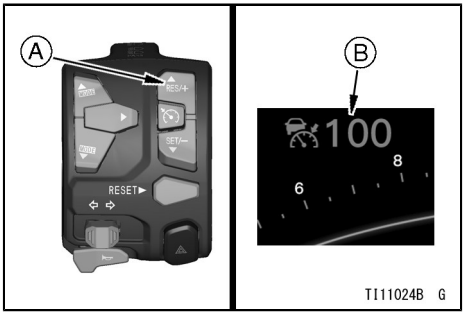
- 車速が最低車速を下回ったとき
- その他の要因が発生したとき「各機能の制限」を参照してください(232ページを参照)。

自動的に解除されると、警告メッセージが表示されます。



設定車速への復帰方法

- 「RES/＋」ボタンを押します。



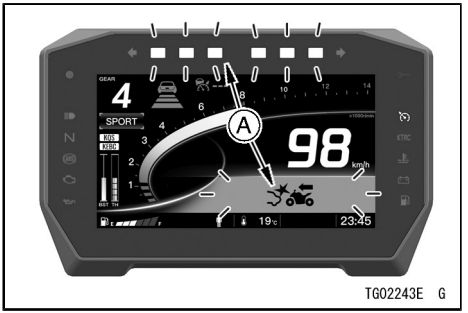
A.「RES/＋」ボタン
B. 設定速度

アドバイス

○ 解除された車速で復帰します。

FCW

前方衝突の可能性を検出した場合に、運転者に回避行動を促すシステムです。システムが前面衝突の可能性を検出すると、メータユニットの赤色警告インジケータと画面上の警告メッセージが点滅し、運転者に危険を知らせます。



A. FCWインジケータ

⚠ 警告

FCWの機能を過信しないでください。

- **本機能は正面衝突の危険があることに対する警告表示しか行いません。急制動により転倒の可能性があることから、本機能はブレーキを作動させないため、衝突を防止したり衝突時の損傷を軽減したりすることはできません。ブレーキ操作や車線変更など、運転者自身で適切な操縦を行い、衝突を回避してください。**
- **また、機能の限界により衝突を検知できない場合がありますので、いかなる状況でも適切なスピードと方法で運転し、安全を確保することは運転者の責任です。**
- **機能を正しく使用するために、本項および「各機能の制限」の項をよくお読みになり、機能の限界に留意した上でご使用ください。**

システム操作

- FCWは以下の条件で使用できます。

FCW	オン
KTRC	オン
車速	30 km/h以上

アドバイス

○ KTRCがオフの場合、FCWは自動的にオフになります。

警告タイミングの調整方法

FCWが作動するタイミングは3段階で調整できます。

- 「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(87ページを参照)。

FCWのオン／オフの方法

- FCWのオン／オフはメニューモード画面で切り替えます。「メータの見方・使い方」の章、「メニューモー

ド画面」の項を参照してください(87ページを参照)。

- FCWがオフの場合、メータユニットにFCW OFFインジケータが表示されます。



各機能の制限

フロントレーダアシストを使用するシステムは、特定の条件または状況では正しく動作しない場合があります。以下にいくつかの例をあげます。

環境の要因

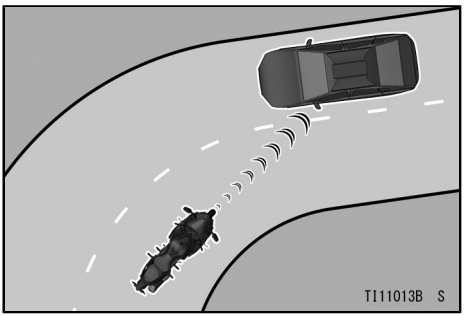
- 悪天候の場合（大雨、霧、雪など）
- 蒸気や煙の中を通過する場合

アドバイス

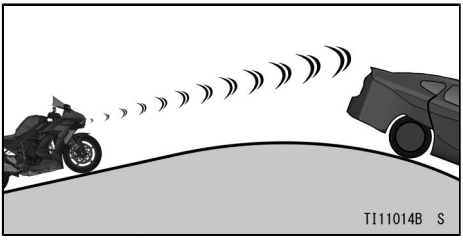
○ 微粒子がレーダを散乱させることがあります。

道路の要因

- 曲がりくねった道路や起伏のある道路の場合



- 勾配が急に変化する道路の場合



- レーダ反射物のある道路の場合（トンネル、細い鉄橋、駐車場など）

アドバイス

○ 先行車がレーダの検出範囲外の可能性があります。
○ 路肩の車両または構造物が先行車と誤検出されることがあります。

車両の要因

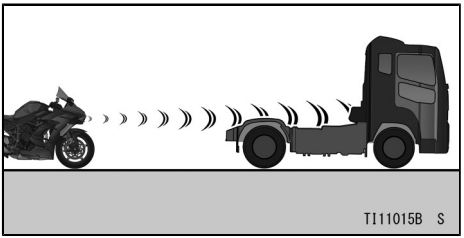
- 過度な荷重またはサスペンションの改造により車両が傾いている場合
- タイヤまたはホイールの状態が適切ではない場合（サイズが違う、空気圧が不適切など）
- レーダセンサ付近に異物が付着している場合（ほこり、泥、虫など）
- エンジン始動後、一定時間走行していない場合
- 事故などにより、レーダセンサ付近に強い衝撃が加わった場合

乗り方の要因

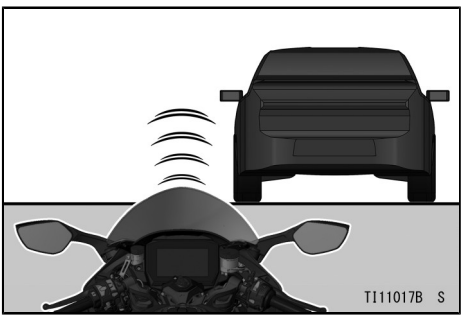
- 千鳥走行の場合
- 路側帯を走行している場合
- 追い越し中の場合
- 極端な運転状況の場合（ウィリー、ジャックナイフ、急加減速など）

状況の要因

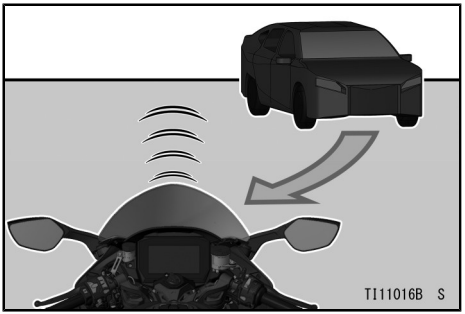
- 先行車が小さい場合（自転車、スクーターなど、また歩行者が検出できない場合があります）
- 先行車の形状が特殊な場合（トレーラー、タンクローリーなど）



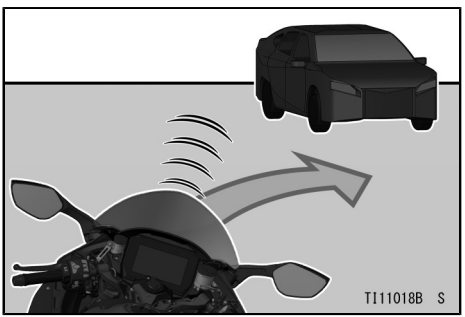
● 先行車の真後ろにいない場合



● 車両や動物が突然横切った場合（交差点含む）



● 自車が他の車両の前を横切った場合



- 先行車との車間距離が極端に短い場合
- 車両がゆっくり車線に割り込み、ブレーキをかけた場合

自動停止

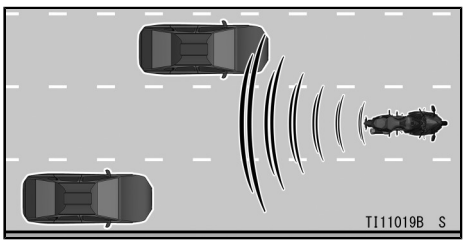
フロントレーダアシストを使用するシステムは、特定の条件または状況で自動停止する場合があります。以下にいくつかの例をあげます。

- ECUの温度が高い場合
- 特定の道路（オフロード、山道、曲がりくねった道路など）を長時間走った場合
- タイヤまたはホイールの状態が適切ではない場合（サイズが違う、空気圧が不適切など）
- レーダセンサ付近に異物が付着している場合（ほこり、泥、虫など）

アドバイス

- 自動停止した場合、各システムに問題があることを表す警告メッセージがメータユニットに表示されます。
- 自動停止した要因が改善すると、システムは復帰します。

リヤレーダアシスト



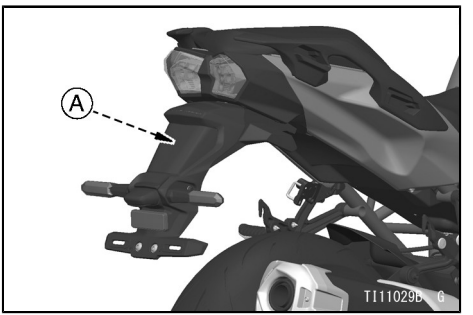
リヤミリ波レーダを用いて、以下の支援を行います。

- BSD（後方死角検知）

アドバイス

○ 他の国で走行する場合は、レーダセンサを使用するための国別規定を遵守する必要があります。このレーダセンサは特定の国のライセンスがなく、国別規定で使用が認められていない場合は、無効にする必要があります。

リヤレーダセンサはフラップの中にあります。



A. リヤレーダセンサ

注意事項

システムが正しく機能するように、次の点に注意してください。

きれいに保つ

リヤレーダセンサ付近に異物が付着しないようにしてください。（ほこり、雪、氷、虫、アクセサリ、ステッカ（透明のものを含む）、アルミテープなど）

アドバイス

○ 異物が原因でシステムが正常に動作せず、メータユニットに警告メッセージが表示されることがあります。異物を除去しても問題が解決しない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

振動、衝撃を避ける

リヤレーダセンサに強い振動や衝撃を与えないでください。

アドバイス

○ センサがずれるとシステムが誤作動したり、正しく検知されないことがあります。不明な場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

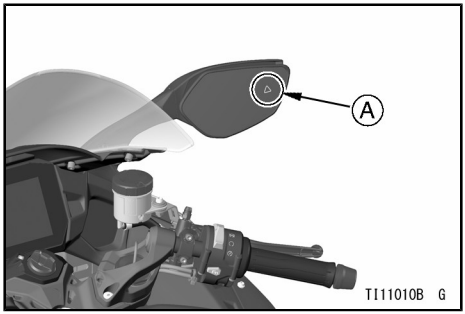
改造しない

リヤレーダセンサ付近を分解しないでください。またセンサ付近を塗装しないでください。不明な場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

BSD

システムの制限内で車線変更の支援をします。

自車に隣接する特定の範囲で車両を検出すると、右側または左側のバックミラーに内蔵されているBSDインジケータが点灯／点滅します。



A. BSDインジケータ

⚠ 警告

BSDの機能を過信しないでください。

- **本機能は、後方死角に車両があることに対する警告表示しか行わないため、あらゆる状況下で運転者を補助するものではありません。**
- **また、機能の限界により検知できない車両が接近または通過する可能性があるため、目視での確認の代わりにはなりません。車線変更の前には、運転者の責任において必ず後方確認を行ってください。**
- **機能を正しく使用するために、本項および「各機能の制限」の項をよくお読みになり、機能の限界に留意した上でご使用ください。**

システム操作

- BSDは以下の条件で使用できます。

BSD	オン
KTRC	オン
車速	22 km/h以上

アドバイス

○ KTRCがオフの場合、BSDは自動的にオフになります。

○ イグニションスイッチをオンにすると、BSDインジケータが数秒間点灯します。もし点灯しない場合は、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。

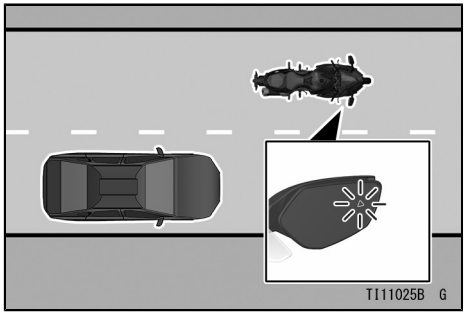
警告レベル

システムには2段階の警告レベルがあります。

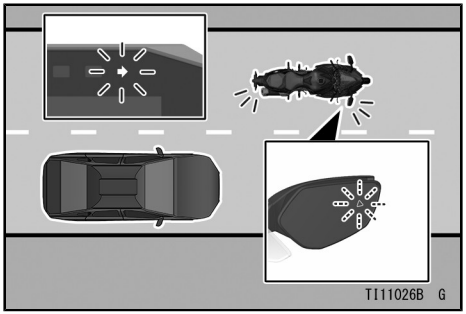
レベル1:

BSDインジケータ点灯

- 検出範囲に車両が入ったとき



レベル2:
BSDインジケータ点滅
- レベル1の状態でターンシグナルスイッチを操作したとき



BSDのオン／オフの方法

- BSDのオン／オフはメニューモード画面で切り替えます。「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(88ページを参照)。
- BSDがオフの場合、メータユニットにBSD OFFインジケータが表示されます。



TI11030B G

各機能の制限

リヤレーダアシストを使用するシステムは、特定の条件または状況では正しく動作しない場合があります。以下にいくつかの例をあげます。

環境の要因

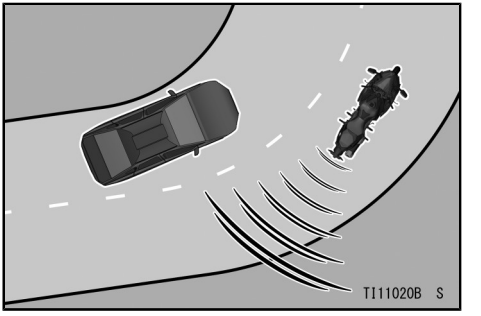
- 悪天候の場合（大雨、霧、雪など）
- 蒸気や煙の中を通過する場合

アドバイス

○ 微粒子がレーダを散乱させることがあります。

道路の要因

- 隣接する車線に駐車している車両がある場合
- 曲がりくねった道路や起伏のある道路の場合


TI11020B S

- 勾配が急に変化する道路の場合
- レーダ反射物のある道路の場合（トンネル、細い鉄橋、駐車場など）

アドバイス

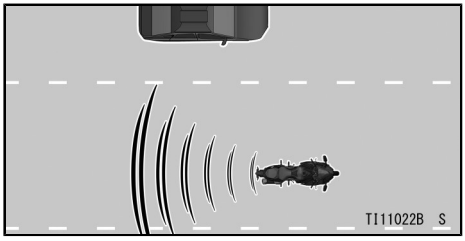
○ 死角にある車両がレーダの検出範囲外の可能性があります。

○ **路肩の車両または構造物が誤検出されることがあります。**

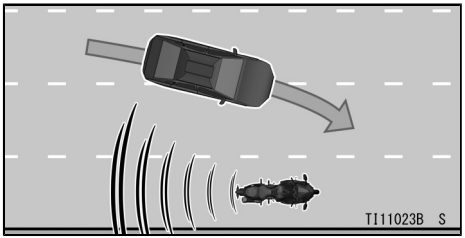
車両の要因
- レーダセンサ付近に異物が付着している場合（ほこり、泥、虫など）
- エンジン始動後、一定時間走行していない場合
- 事故などにより、レーダセンサ付近に強い衝撃が加わった場合

乗り方の要因
- 千鳥走行の場合
- 路側帯を走行している場合
- 追い越し中の場合
- 極端な運転状況の場合（ウィリー、ジャックナイフ、急加減速など）

状況の要因
- 検出範囲の車両が小さい場合（自転車、スクーターなど、また歩行者が検出できない場合があります）
- 水しぶきなどの予期しない物体がレーダに干渉した場合
- 車線の幅が広く、隣接する車線が検出可能範囲外である場合



- 隣接していない車線から、自車の側方へ車両が近づいた場合



- 車間距離の短い複数の車両が接近してきた場合
- 4 km/h以上の速度差で追い越す場合
- 検出可能範囲内の車両と自車との高さの差が大きい場合

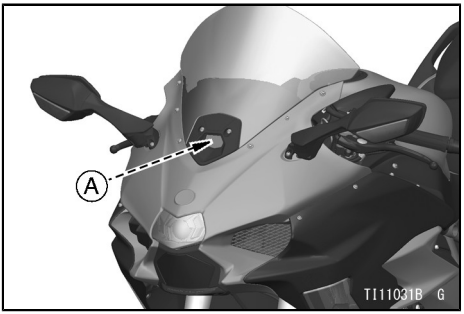
AHB

AHB（オートハイビーム）はカメラセンサを用いて、前方の車両や街灯などの明るさを判断し、必要に応じて自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

アドバイス

- AHBシステムは、あらゆる状況下で運転者を補助するものではなく、特定の条件または状況では正しく動作しない場合があります。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でロービームに切り替えてください。
- カメラが認識できる範囲や距離は、周囲の状況により異なります。

AHBカメラセンサはカメラセンサカバーの後ろにあります。



A. AHBカメラセンサ

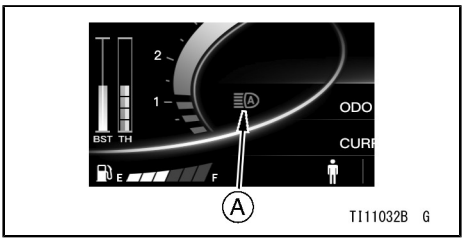
システム操作

- AHBは以下の条件をすべて満たすと、ヘッドライトが自動的にハイビームに切り替わります。

AHB	オン
ディマ／パッシングスイッチ位置	ハイビーム*
車速	20 km/h以上
車両周辺	暗い

*：ハイビーム位置以外ではAHBは作動しません。スイッチ位置に応じてインジケータの色が変化します。

AHBモードがオンの場合、AHBインジケータが点灯します。



A. AHBインジケータ

AHBインジケータの色は以下のように変化します。緑色がAHB作動中の状態です。

ディマ／パッシングスイッチ位置	インジケータの色
ハイビーム	緑色
ロービーム	灰色
パッシング	灰色

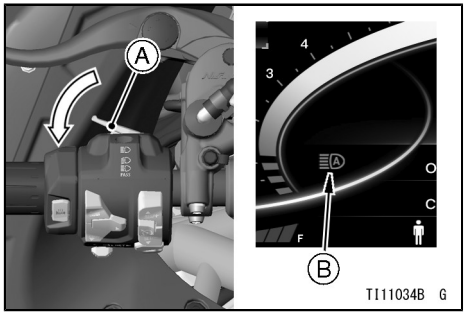
アドバイス

- 車速が15 km/h以下になると、ヘッドライトがロービームに切り替わります。
- カメラセンサが霧を検知すると、ヘッドライトがロービームに切り替わります。
- 新車時やAHBユニットの交換時は、カメラセンサの初期学習のためAHBが使用できず以下のインジケータが点灯します。



AHBモードのオン／オフの方法

- AHBモードのオン／オフを切り替えるには、ディマ／パッシングスイッチをパッシング方向に数秒間引き続けます。
- AHBモードが切り替わると、AHBインジケータがオン／オフします。



A. ディマ／パッシングスイッチ
B. AHBインジケータ

アドバイス

○ AHBモードのオン／オフはメニューモード画面でも設定できます。「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(86ページを参照)。

注意事項

- カメラセンサやカメラカバー周辺は常にきれいに保ってください。
- カメラセンサやカメラカバーが汚れていたり、水滴や雪などで覆われている場合は、多量の水を使用し柔らかい布で傷つけないよう優しく拭いてください。
- カメラカバー周辺にステッカ、フィルム等を貼らないでください。
- カメラレンズには触れないでください。
- 純正以外のカメラカバーに交換しないでください。

カメラセンサに強い衝撃が加わった場合や、カメラセンサ周辺の修理が必要な場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

各機能の制限

特定の条件または状況では、AHBシステムが正しく動作しない場合があり

ます。以下にいくつかの例をあげます。

AHB警告メッセージが表示された場合は、安全な場所に停車し、カメラカバー周辺を清掃してください。清掃後、しばらく走行しても警告メッセージが消えない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

環境の要因

- 悪天候の場合（大雨、霧、雪、カメラカバーの霜など）
- 蒸気や煙の中を通過する場合

道路の要因

- 街灯、電光掲示板、信号等周辺の光源が前方の道路を照らしている場合
- 前方の道路の明るさが常に変化している場合
- 曲がりくねった道路や起伏のある道路の場合
- 前方の標識、ミラー等の反射物が強い光を反射している場合
- 勾配が急に変化する道路の場合

車両の要因

- 車両後部への過度な荷重またはサスペンションの改造により車両が傾いている場合
- カメラセンサ周辺が汚れている場合（ほこり、泥、虫など）
- カメラセンサが高温または低温になった場合

乗り方の要因

- 極端な運転状況の場合（ウィリー、ジャックナイフ、急加減速など）

状況の要因

以下のような状況では正しく動作しない場合があります。

自動切り替えがお好みに合わない場合は、手動でヘッドライトを切り替えてください。

- 先行車または対向車のライトの明るさが強い、または弱い場合

- 前方に車両が突然現れた場合や、前方の車両がカメラセンサの範囲外である場合
- 前方の車両が街路樹、中央分離帯等に隠れている場合
- 前方の対象物が小さい場合（自転車、スクーターなど、また歩行者が検出できない場合があります）

一時的なセンサ感度調整

カメラセンサの感度を一時的に下げることができます。

設定方法

- ディマ／パッシングスイッチをパッシング方向に引いた状態で、イグニションスイッチをオンにします。
- AHBインジケータが点滅するまでディマ／パッシングスイッチを引き続けます。（約20秒間）
- 点滅してから3秒以内にディマ／パッシングスイッチをハイビームの位置にします。

アドバイス

○ カメラセンサの感度が下がるとAHBインジケータが緑色に点滅します。

解除方法

- ディマ／パッシングスイッチをパッシング方向に数秒間引いたとき
- イグニションスイッチをオフにしたとき

VHA

VHA（ビークルホールドアシスト）は、坂道での停車時にブレーキを保持し、発進を支援します。

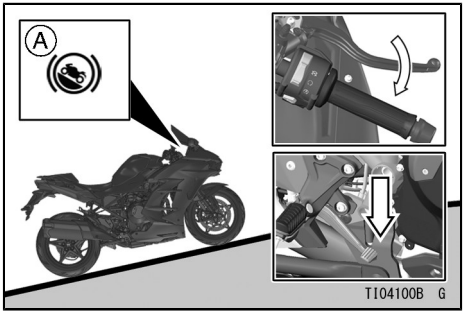
アドバイス

○ VHAはパーキングブレーキとして使用することはできません。

- VHAは以下の条件で使用できます。

勾配	30%未満
サイドスタンド	格納

- VHAを作動させるには、フロントブレーキまたはリヤブレーキを強くかけます。ブレーキが保持され、メータユニットにVHAインジケータが表示されます。



A. VHAインジケータ

解除条件
- 車両が動き始めたとき
- ブレーキレバーを引いて、1秒以内に放したとき
- サイドスタンドが降りたとき
- ブレーキが保持されてから10分経過したとき

アドバイス

○ 10分経過後、システムがブレーキを解除する前にVHAインジケータが点滅します。

KQS

KQS（Kawasaki Quick Shift）はクラッチ操作をせずにシフトアップ／ダウンが可能となる機能です。

KQSは自動的にシフトアップ／ダウンする機能ではありませんので、KQSが搭載されていない車両と同様のシフトペダル操作が必要です。

アドバイス

○ クラッチレバーを引いたときには、KQSは作動しません。

○ エンジン回転数が約1 600 rpm以下のときには、KQSは正しく作動しません。

○ KQSを繰り返し作動させるには、ギヤチェンジ後にシフトペダルを完全に戻す必要があります。

シフトアップ

車両加速時、クラッチ操作をせずに、かつ、スロットルグリップを戻すことなく、シフトアップ操作が可能となります。

アドバイス

○ スロットルグリップが閉じているときには、KQSのシフトアップ機能は働きません。

シフトダウン

クラッチ操作をせずにシフトダウンが可能となります。

アドバイス

○ エンジン回転数が高い（レッドゾーン付近）ときには、KQSのシフトダウン機能は働きません。

KQSの設定

● メニューモード画面でKQSのオン／オフを選択できます。「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(84ページを参照)。

KEBC

KEBC（Kawasaki Engine Brake Control）はエンジンブレーキ力を2つのモード（OFF/LIGHT）から選択できます。KEBCモードの切り替えは、メニューモード画面で行います。「メータの見方・使い方」の章、「メニューモード画面」の項を参照してください(85ページを参照)。

KLCM

KLCM（Kawasaki Launch Control Mode）は電子制御によりエンジン出力を制御することで、最適な発進加速を得ることができる運転者サポートシス

テムです。**KLCMはサーキット走行で使用し、通常走行では使用しないでください。**

KLCMのセット方法

- ライディングモードを変更します。"RIDER"モードでは、パワーモードを"F"に設定してください。「インテグレイテッドライディングモード」の項を参照してください(207ページを参照)(210ページを参照)。

アドバイス

○ KLCMは、下表のライディングモードでは使用できません。

RAIN
RIDER： パワー (M、L) KTRC (OFF)

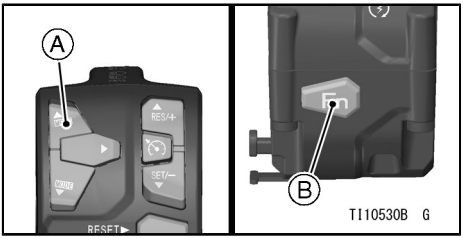
アドバイス

○ KLCMはメニューモード画面では使用できません。ただし、Kawasaki Spinアプリを使用してのミラーリング中は使用することができます。

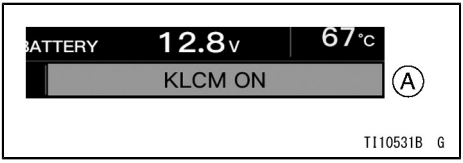


A. KLCM使用可能
B. KLCM使用不可能

- KLCM起動メッセージが3回点滅するまで、上MODEボタンとFnボタンを同時に押し続けます。



A. 上MODEボタン
B. Fnボタン



A. KLCM起動メッセージ

アドバイス

○ KLCMが作動している間でも、KTRCが作動するとKTRCインジケータが点灯します。

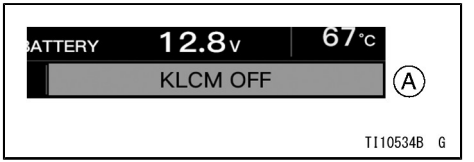
KLCMを起動した後、停車中にギヤを1速に入れると、KLCMは作動状態になります。作動中はスロットルを全開にしても、エンジン回転速度は6 250 rpmに保たれます。

発進時はスロットルを全開にしたまま、徐々にクラッチをつなげてください。クラッチがつながった後、システムは最大限の加速を得るためにトルクを制御します。KLCMは、2速ギヤへのシフトアップ時に自動的に解除されます。

エンジン保護のため、KLCMの連続使用には一定の制限を設けています。

水温が40°C以下	制限なし
水温が41 ~ 100°C	最後の使用から2.5分間は使用できません。
水温が101°C以上	使用できません。

KLCMが使用できないときは、以下のメッセージが表示されます。



A. KLCM制限メッセージ

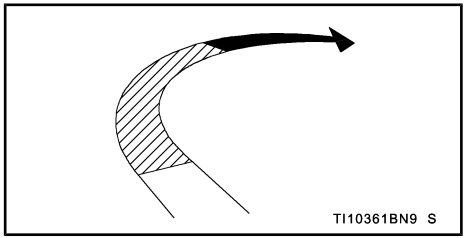
⚠ 警告

KLCMは経験を積んだ運転者向けのシステムです。使用する前にその特性を十分にご理解してください。クラッチは決して急激に接続しないでください。バランスを崩し転倒する可能性があります。また、急激な動力の伝達によりエンジンが損傷する可能性があります。

KCMF

KCMF (Kawasaki Cornering Management Function) は走行中にIMUから得られる精細な車体姿勢の情報を基にして、コーナの入り口から出口に至る全域でエンジン・車体制御のパラメータを監視することでブレーキ力とエンジン出力を調整します。それにより減速から加速に至るまでスムーズに移行でき、意図したとおりにコーナリングを行えるようにライダをアシストします。

このシステムはKTRC、KLCM、KECS、KIBSおよびKEBCを統合制御しています。



⇨ :カーブの手前(KTRC/KLCM/KECS)
⇛ :カーブ(KIBS/KEBC/KECS)
➡ :カーブの出口(KTRC/KECS)

慣性計測装置(IMU)

IMUは車体姿勢の分析に使用されています。車両に搭載された電子システムは、IMUの情報を利用することで、よりスムーズな制御を行えるようになります。

点検整備について

法令で定められた点検整備

お車を安全かつ快適にご使用いただくため、法令により日常点検と定期点検整備を行うことが義務付けられています。必ず実施してください。

1. 日常点検

走行距離や運行時の状態などから判断した適切な時期に実施する点検です。

2. 定期点検整備

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。
二輪車については1年点検と2年点検があります。
なお、詳細についてはメンテナンスノートをご覧ください。

カワサキが指定する点検整備（メーカ指定点検整備）

- **1か月目（または1 000 km）点検整備**
  登録日から1か月目または1 000 km走行時点に行う点検です。
  お買いあげいただいたカワサキ正規取扱店にてお受けください。
- **メーカ指定点検整備**
  法令で定められた定期点検整備項目のほかに、カワサキが指定する定期点検整備項目があります。所定の時期になりましたら、法令で定められた定期点検整備と同時に実施してください。

また、総排気量が251 cm³以上の車は初回3年目、以降2年毎の継続検査（車検）を受けなければ､引き続き使用することができません。車検有効期間の満了前に必ずお受けください。
なお、点検整備の詳細についてはメンテナンスノートの「お車を安全、快適にご使用いただくために」をご覧ください。

簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換等の整備が必要となった場合、通常行われることの多い代表例について、その整備の実施方法を述べています。

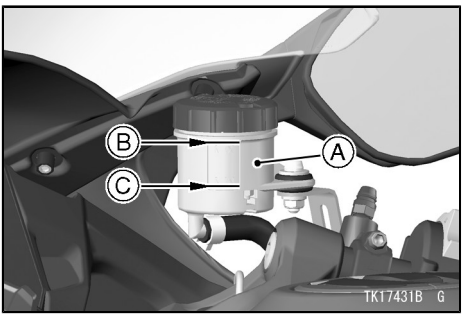
⚠ 警告

整備は安全のためご自身の知識、技量の範囲内で行ってください。難しいと思われる内容、あるいは整備後に何か不審を感じられた場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。整備を行うときは、安全に充分注意してください。

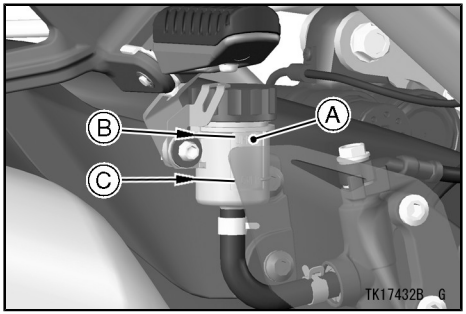
- **場所は、平坦で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジンを停止した状態で行ってください。**
- **排気ガスには有害な一酸化炭素等の成分が含まれています。エンジンをかけた状態で点検整備を行うときは、通気性の良い場所で行ってください。**
- **エンジンの運転時や停止後しばらくの間は、マフラ、エンジン、ラジエータ等が熱くなっています。触れてやけどをしないようにしてください。**
- **適切な工具を使用してください。もし、不適切な工具を使用して整備作業を行うとけがをする可能性があります。**

ブレーキ液量の点検

- 平坦な場所で車を垂直にし、リザーバを水平にします。
- リザーバ内のブレーキ液量がアッパとロアレベルの間にあるかを点検します。



A. フロントブレーキリザーバ
B. アッパ(UPPER)レベルライン
C. ロア(LOWER)レベルライン



A. リヤブレーキリザーバ
B. アッパ(UPPER)レベルライン
C. ロア(LOWER)レベルライン

アドバイス

○ もし液面がロア(LOWER)レベル以下の場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

⚠ 警告

- **液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきますが、ブレーキ液が早く減少する場合、ブレーキ系統からの液漏れが考えられます。重大な事故につながる可能性がありますので、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**
- **ブレーキ液は安全のため、2年毎の交換をおすすめします。**

⚠ 警告

リザーバキャップを取り外す前に清掃する。密閉された容器に入ったDOT4ブレーキ液を使用すること。

注意

- **ブレーキ液を混用すると変質するので、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。**
- **ブレーキ液は塗装をいためますので、部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。**

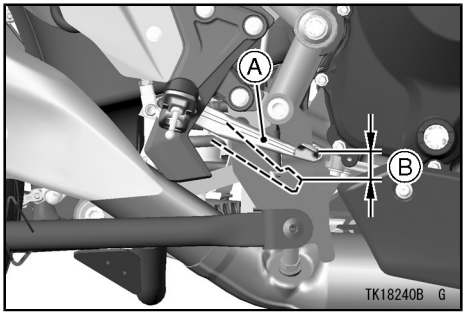
ブレーキライトスイッチ

ブレーキライトスイッチの点検

- ブレーキレバーを引いた状態で、イグニションスイッチをオンにします。
- ブレーキライトが数秒間点滅することを確認してください。
- フロントブレーキをかけるとブレーキライトが点灯することを確認してください。もし異常があれば、カワ

サキ正規取扱店で点検をお受けください。
- リヤブレーキをかけるとブレーキライトが点灯することを確認してください。ブレーキペダルを踏み込み、ブレーキライトが点灯したときの踏み込み量を測定します。標準値外の場合は、調整してください。

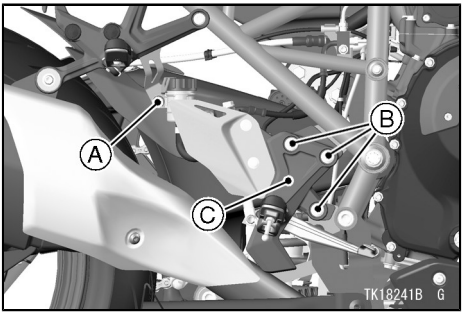
[リヤブレーキライトの点灯時期]
標準値： 7 mm



A. ブレーキペダル
B. 7 mm

ブレーキライトスイッチの調整

- リヤブレーキリザーバボルトとストッパを取り外します。
- 右フロントステップブラケットボルトを取り外します。
- 右フロントステップブラケットを少し外側へ引き出します。

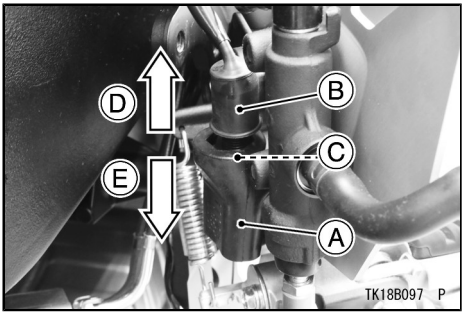


A. リヤブレーキリザーバボルトおよびストッパ
B. 右フロントステップブラケットボルト
C. 右フロントステップブラケット

- カバーをずらします。
- スイッチを指で押さえ、調整ナットを回して調整します。

アドバイス

○ スイッチの取り付け位置が高くなれば早く点灯し、低くなれば遅く点灯します。



A. カバー
B. リヤブレーキライトスイッチ
C. 調整ナット
D. 早く点灯
E. 遅く点灯

注意

リヤブレーキライトスイッチを調整する際、配線を損傷させないためにスイッチ本体を回さないようにしてください。

- カバーを元に戻します。

- 右フロントステップブラケットを取り付けます。
- 右フロントステップブラケットボルトを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク

フロントステップブラケットボルト： 25 N·m (2.5 kgf·m)

アドバイス

○ トルクレンチがない場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

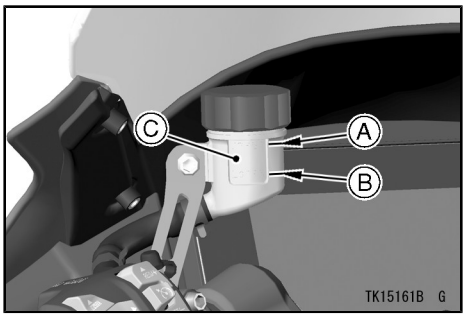
- ストッパを取り付け、リヤブレーキリザーバボルトを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク

リヤブレーキリザーバボルト： 9.0 N·m (0.92 kgf·m)

クラッチ液量の点検

- 平坦な場所で車を垂直にし、リザーバを水平にします。
- リザーバ内のブレーキ液量がアッパとロアレベルの間にあるかを点検します。



A. アッパ(UPPER)レベルライン
B. ロア(LOWER)レベルライン
C. クラッチリザーバ

アドバイス

○ ブレーキと同じ液を使用します。

⚠ 警告

- **液面はクラッチプレートの摩耗と共に下がってきますが、ブレーキ液が早く減少する場合、クラッチ系統からの液漏れが考えられます。カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。**
- **ブレーキ液は安全のため、2年毎の交換をおすすめします。**

注意

- **ブレーキ液を混用すると変質するので、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。**
- **ブレーキ液は塗装をいためますので、部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。**

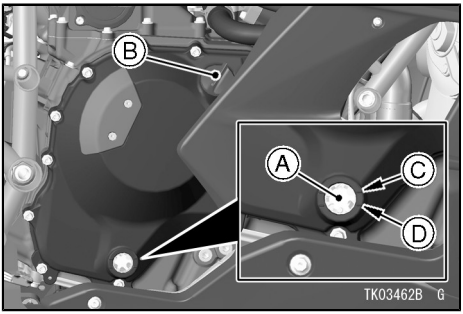
エンジンオイルの補給

- 平坦な場所で、エンジンを2～3分間アイドリング運転で暖機し、エンジンを停止します。

アドバイス

○ **走行直後でエンジンが充分に暖機していればアイドリング運転は不要です。**

- 車体を垂直にし、エンジンを停止して2～3分後に、オイル量がオイルレベル点検窓のアッパレベルとロアレベルの間にあることを確認します。
- もしオイルが多いときは、スポイトや適切な器具を使用してオイルを排出します。
- オイル量がロアレベルに近ければ、オイル注油口キャップを取り外し、オイルレベル点検窓で確認しながらアッパレベルとロアレベルの間まで、エンジンオイルを補給します。
- オイル注油口キャップを確実に取り付けます。



A. オイルレベル点検窓
B. オイル注油口キャップ
C. アッパレベル
D. ロアレベル

＜推奨オイル＞

カワサキ純正4サイクルオイル

R4 SJ 10W-40 JASO MA

S4 SG 10W-40 JASO MA

または

API SG、SH、SJ、SLまたはSM（JASO MA、MA1またはMA2適合品）

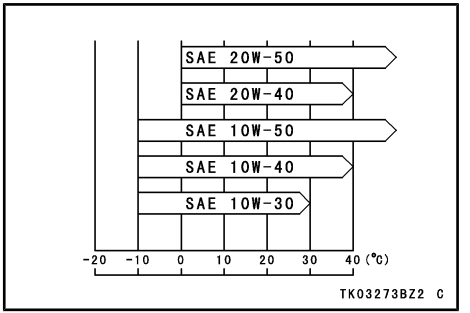
SAE 10W-40

アドバイス

○ クラッチの滑りやエンジンの性能、耐久性に悪影響を与えることがあるので、エンジンオイルに摩擦を低減させる添加物は加えないでください。

エンジンオイルの粘度は、次の図を参考にして使用する地域の外気温によって使いわけてください。なお、前述の推奨オイルと同じAPI分類とSAE規格のエンジンオイルでも、それぞれオイルの特性等が微妙に異なっているた

め、この車には適合しない場合があります。



交換時期は“走行キロ毎交換”と“年（月）毎交換”のどちらか早い方で実施してください。

＜エンジンオイル交換時期＞

初回： 1 000 km時　または　1か月時
2回目： 6 000 km時　または　1年時
以後： 6 000 km毎　または　1年毎

[エンジンオイル量]

ｵｲﾙﾌｨﾙﾀを取り外していない時	3.5 L
ｵｲﾙﾌｨﾙﾀを取り外した時	4.3 L

＜オイルフィルタ交換時期＞

初回： 1 000 km時　または　1か月時
2回目： 18 000 km時
以後： 18 000 km毎

アドバイス

- 補給するときには、オイル注油口からゴミ等が入らないようにしてください。
- オイル量は、規定範囲の上限（アッパレベル）を超えないようにしてください。

⚠ 警告

エンジンや排気系統は運転中や停止後しばらくの間は高温のため、やけどをおこす可能性があります。
- **エンジンや排気系統には触れないでください。**
- **オイルをこぼしたときは、完全に拭きとってください。**

注意

- **銘柄や等級の違うオイルを混用したり、低品質のオイルを使用すると変質してエンジンの故障の原因になることがあります。同一銘柄、等級の良品質オイルを使用してください。銘柄、等級が不明の場合はオイル全てを交換してください。**

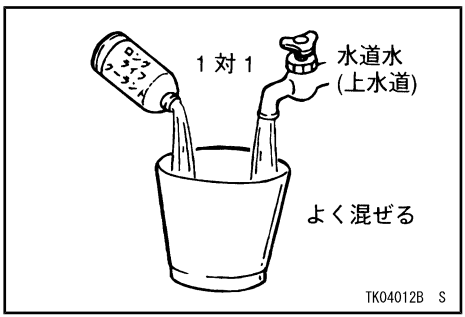
アドバイス

○ 油脂類の廃液は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

冷却液

冷却液の作り方

カワサキ純正ロングライフクーラントと水道水（上水道）を1：1に混ぜ合わせます。



⚠ 警告

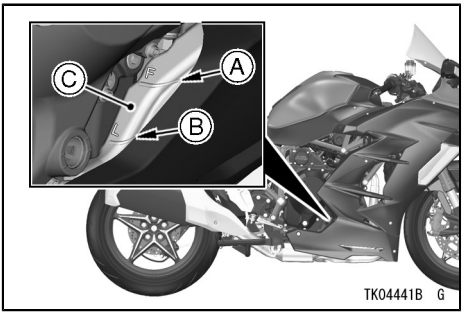
冷却液には毒性があります。取り扱いには充分注意してください。
- **皮膚や衣類についた場合**
  すみやかに水で洗ってから、石けん水で洗ってください。
- **目に入った場合**
  水で充分洗い流してから、医師の診察を受けてください。
- **飲んだ場合**
  直ちにおう吐させ、医師の診察を受けてください。

注意

冷却液に混合または補充する水は水道水（上水道）を使用してください。井戸水や塩分を含む天然水はエンジンの損傷につながるので使用しないでください。

冷却液の点検

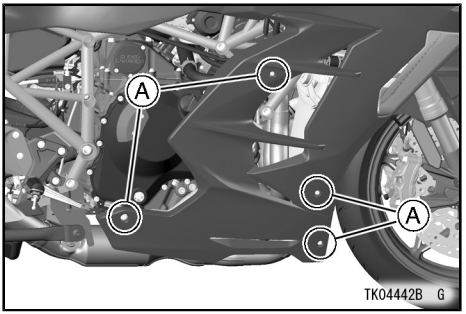
- 車体を地面と垂直に保持します。
- エンジンが冷えている時に、右ロアカウリングの裏側にあるリザーブタンク内の冷却液の量を点検します。液面がL（下限）マークラインより下がっている場合は、リザーブタンクのキャップをはずして、タンクのF（上限）マークラインとL（下限）マークラインの間まで冷却液を補給します。



A. F(上限)マークライン
B. L(下限)マークライン
C. リザーブタンク

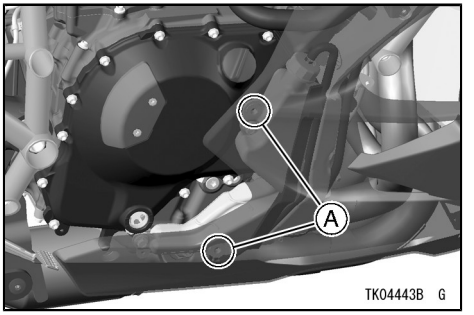
冷却液の補給

● ボルトとワッシャを取り外します。



A. ボルトおよびワッシャ

● 突起をグロメットからはずします。



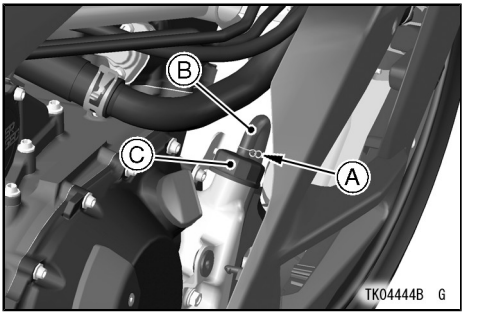
A. 突起

- クランプをずらしてホースをはずします。

アドバイス

○ ホースをはずさないとキャップがはずしづらくなります。

- リザーブタンクのキャップをはずし、タンクのF（上限）マークラインとL（下限）マークラインの間まで冷却液を補給します。



A. クランプ
B. ホース
C. リザーブタンクキャップ

アドバイス

○ 冷却液はF（上限）マークラインを超えて補給しないでください。

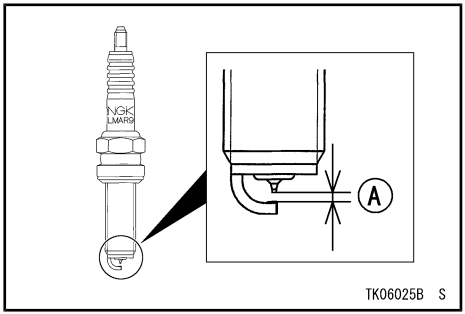
注意

冷却液の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、エンジン内部、ホースなどからの液漏れが考えられますので、カワサキ正規取扱店で点検をお受けください。冷却液の交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

- リザーブタンクにリザーブタンクキャップを取り付けます。
- 取り外した部品を取り付けます。

スパークプラグ

指定スパークプラグはNGK SILMAR9E9です。プラグギャップは0.8 ~ 0.9 mm、締め付けトルクは13 N·m (1.3 kgf·m)です。



A. プラグギャップ

注意

スパークプラグを交換するときは、指定スパークプラグ以外は使用しないでください。エンジン故障の原因となります。

アドバイス

○ スパークプラグの取り外しおよび取り付けは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

エアクリーナ

エアクリーナエレメントが詰まると吸入空気量が不足し、燃料消費量増加、出力低下、プラグかぶり等の原因になります。

アドバイス

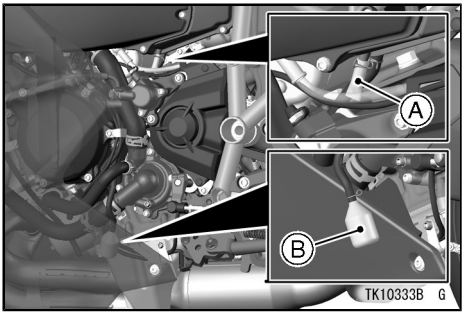
○ 著しくほこり等の多い場所を走行した場合は、定期点検期間よりお早めに点検を行ってください。

エレメントの交換

エレメントの交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

オイルの排出

- エンジンの左側にあるドレンプラグとキャッチタンクに、エアクリーナハウジングからの水やオイルがたまっていないか点検します。



A. ドレンプラグ
B. キャッチタンク

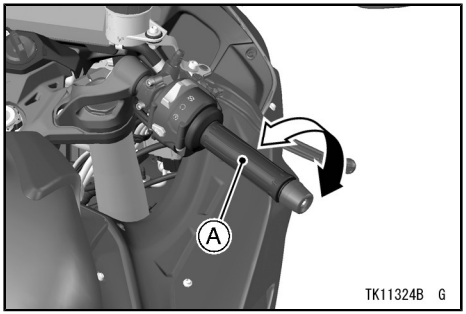
- 水やオイルがたまっている場合は、はずして排出します。
- 排出後、プラグおよびキャッチタンクは必ず元どおりに取り付けてください。

⚠ 警告

プラグおよびキャッチタンクからオイルが漏れるとタイヤに付着し、タイヤが滑りやすくなり負傷や死亡事故につながる危険性があります。プラグおよびキャッチタンクは必ずしっかりと取り付けてください。

スロットルの点検

スロットルグリップが全閉から全開までスムーズに動くか点検します。もし異常を感じた場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



A. スロットルグリップ

アイドリング回転速度の調整

アイドリング回転速度は電子制御されており、調整の必要はありません。アイドリング回転速度が不安定な場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

［アイドリング回転速度］

標準値： 1 000 ~ 1 200 rpm

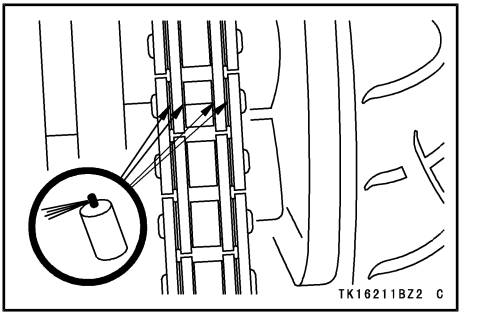
アドバイス

○ エンジン冷間時にはファーストアイドル機構が自動的に働き、エンジン回転速度が高くなります。

ドライブチェーン

給油

- 後輪を浮かした状態で、後輪を手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れを柔らかいブラシ等で落とし、カワサキ純正チェーンクリーナを使用して洗浄します。
- 乾燥後、後輪を手でゆっくり回しながら給油を行います。オイルがチェーン各部によく行きわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。



注意

- **オイルは、カワサキ純正チェーンオイルを使用してください。**
- **この車のチェーンは、ゴムシールを使用しています。ゴムシールの損傷を防ぐためスチーム洗浄は行わないでください。**
- **シンナ、ガソリン等の揮発性溶剤、ワイヤブラシを使用しての洗浄はしないでください。ゴムシールが損傷します。**

アドバイス

○ **雨天走行後、あるいは洗車後も給油してください。**

● 給油後、余分なオイルは拭きとります。

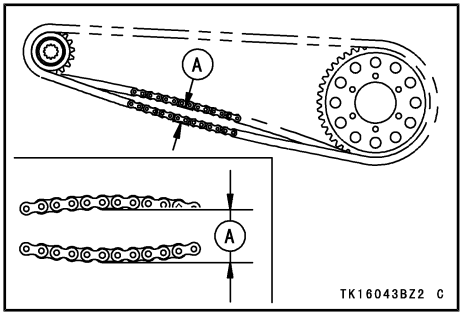
たるみ点検

アドバイス

○ **チェーンが汚れていたり、乾いている場合は、洗浄および給油します。**

● サイドスタンドを立てます。
● 後輪を回し、チェーンの張りが最も強くなる位置で、前後のスプロケットの中間部で垂直の動き（チェーンのたるみ）を測定します。標準値外の場合は、調整してください。

[ドライブチェーンのたるみ]
標準値： **25 ~ 35 mm**



A. 25 ~ 35 mm

たるみ調整

● チェーンの調整はカワサキ正規取扱店にお申し付けください。

タイヤ

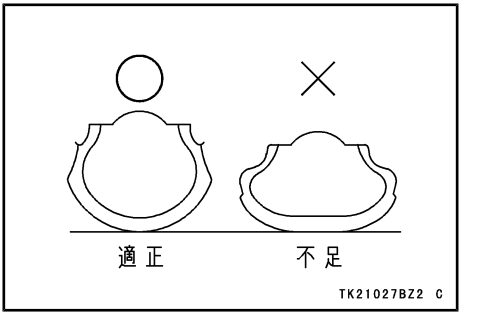
車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが重要です。

⚠ 警告

空気圧が適正でなかったり、タイヤに亀裂や、損傷、異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

空気圧

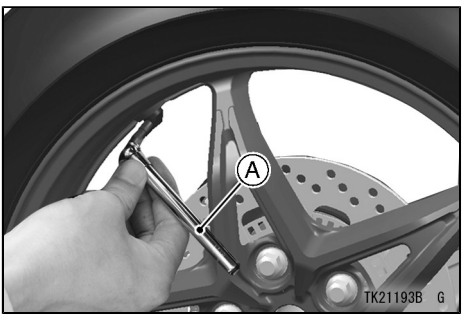
常に適正な空気圧を保ってください。タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えている時に、タイヤの接地部のたわみ状態により空気圧が適正であるかを点検します。



アドバイス

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目では分かりにくいものもあるため、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなることがありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

- メータに表示される値でタイヤの空気圧を調整しないでください。
- ホイールを交換するときは純正ホイールを使用し、タイヤ空気圧センサを移し替えてください。交換後、タイヤ空気圧がメータに表示されることを確認してください。

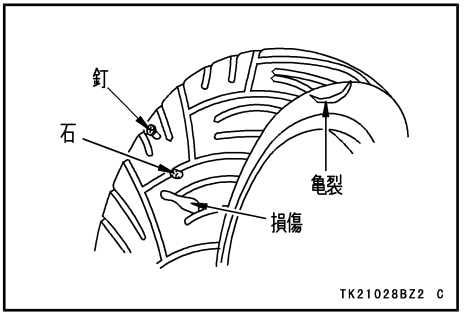


A. タイヤゲージ

		前輪	後輪
タイヤ空気圧		290 kPa (2.90 kgf/cm²)	290 kPa (2.90 kgf/cm²)
タイヤサイズ		120/70ZR17 M/C (58W)	190/55ZR17 M/C (75W)
指定タイヤ	ブリヂストン	BATTLAX HYPERSPORT S22F AA	BATTLAX HYPERSPORT S22R AA

亀裂と損傷

タイヤの全周に著しい亀裂や損傷がないか点検します。また、タイヤの全周にわたり、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



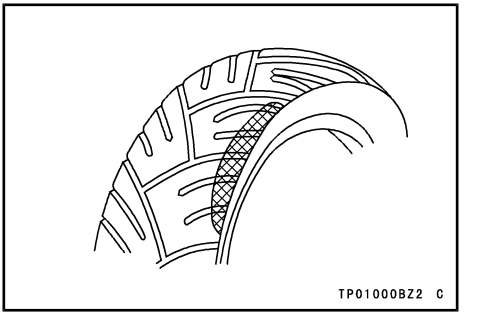
アドバイス

○ 道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越した時は、必ず点検してください。

異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

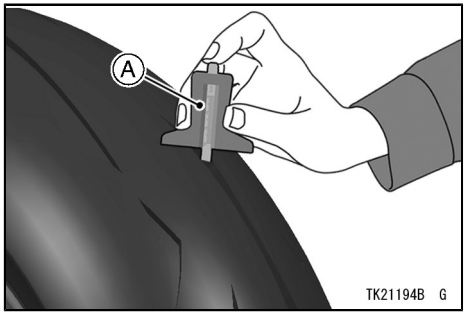
タイヤが異常に摩耗しているときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



溝の深さ

コーナリング、操縦安定性、さらに安全走行のため、二輪車のタイヤは溝の深さが前輪**1 mm**、後輪**2 mm**以下になりましたら交換をおすすめします。

タイヤの交換は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。



A. デプスゲージ

⚠ 警告

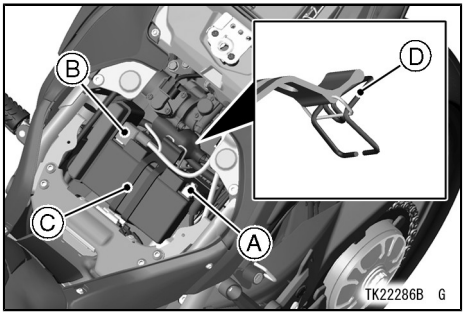
異なった種類のタイヤを使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用すると、車の走行安定性を失い、けがや死亡にいたる事故につながる可能性があります。前後輪同一メーカの指定タイヤを使用してください。

バッテリ端子部の清掃

バッテリ端子部に汚れや腐食がある場合はバッテリをはずして清掃します。

バッテリの取り外しおよび取り付け方

- イグニションスイッチをオフにします。
- 運転者用シートを取り外します(151ページを参照)。
- マイナス（–）ケーブルを取り外します。
- 赤色のキャップをずらし、プラス（+）ケーブルを取り外します。
- バンドをはずし、バッテリをバッテリケースから取り出します。クランプを装備しているモデルは、バンドと一緒にはずします。



A. マイナス(−)端子
B. 赤色キャップとプラス(＋)端子
C. バンド
D. クランプ

- バッテリの取り付けは、取り外しの逆順に行います。
- プラス（＋）ケーブル（キャップあり）を接続し、それからマイナス（−）ケーブルを接続します。

アドバイス

○ マイナス(−)ケーブル接続時、必ずケーブルの端子をバッテリ端子へ押し当てながら端子ボルトを締め付けてください。

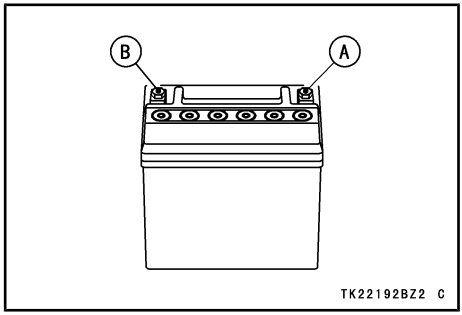
注意

バッテリケーブルの(＋)(−)の接続は逆にしないでください。電気系統が損傷します。

- 取り外した部品を取り付けます。

バッテリ端子部の清掃

- バッテリを取り外します。
- 端子部に汚れや腐食があるときは清掃します。なお、端子部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭くとよく落ちます。
- 端子部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシ、サンドペーパで磨きます。
- 清掃、締め付け後は、端子部にグリースを薄く塗布します。



A. プラス(＋)端子
B. マイナス(－)端子

⚠ 危険

バッテリ液は、腐食性が大きく皮膚炎を起こしたり、金属を腐食させる等非常に危険です。万一、目や皮膚等に付着したときはすぐ多量の水で、5分間(目の場合は15分間)以上洗浄して専門医の診察を受けてください。

⚠ 危険

バッテリは引火性ガス(水素ガス)を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発する可能性があります。必ず下記の項目を守ってください。

- **バッテリの整備を行う時は、必ずエンジンを停止させてください。**
- **作業中、バッテリの(＋)(－)端子が工具等により、ショートしないように注意してください。**
- **ケーブルを取り外す場合は、(－)端子から取り外してください。また、取り付ける場合は、(＋)端子を先に取り付けてください。**
- **ケーブルに緩みが生じないよう確実に接続してください。**
- **バッテリにガソリン、オイル、有機溶剤等を付着させないでください。電槽割れの原因になります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

注意

- **この車のバッテリにはシール形バッテリを使用しています。シール形バッテリは液の補充は必要はありません。密封栓をこじ開けて液の補充は絶対おやめください。バッテリが損傷します。**
- **寿命がつきたバッテリを交換する場合は、必ず同型式のバッテリをご使用ください。**
- **使用済みのバッテリを廃却する場合はカワサキ正規取扱店にご相談ください。**

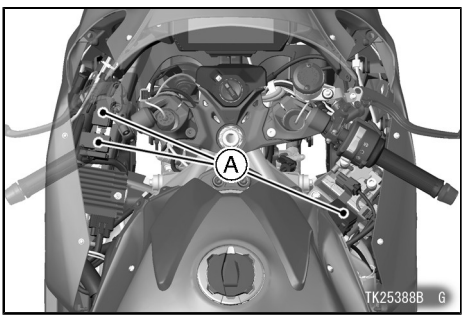
メーカ名	**GSユアサ**
型式	**YTZ10S**

アドバイス

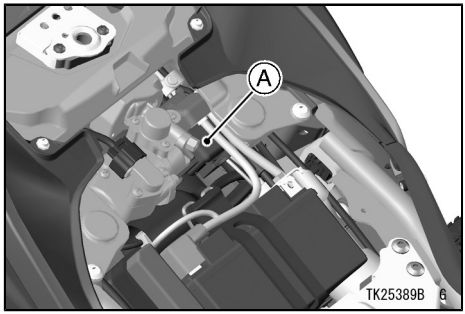
○ エンジンが始動しなかったり、ホーンの音が弱い、ヘッドライトが暗い等の場合は、バッテリが放電しています。バッテリの補充電をカワサキ正規取扱店にご相談ください。

ヒューズの交換

ヒューズはアッパインナカウリングの下にあるヒューズボックスにあります。メインヒューズは運転者用シートの下にあるスタータリレーにあります。



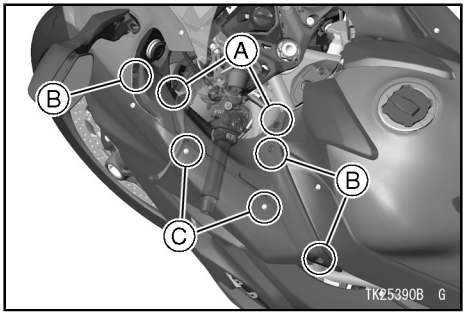
A. ヒューズボックス



A. メインヒューズ

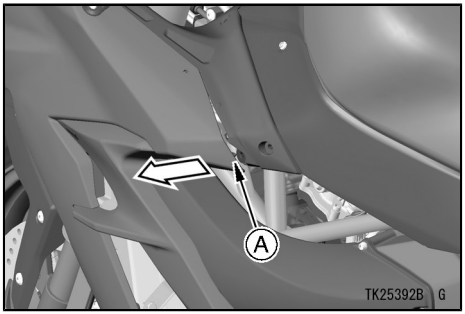
前側ヒューズボックス（両側）へのアクセス方法

- クイックリベットを取り外します。
- ボルトとワッシャを取り外します。



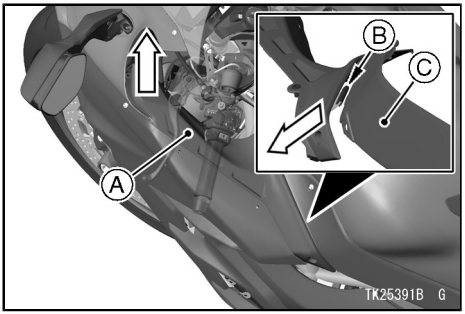
A. クイックリベット
B. ボルト
C. ボルトおよびワッシャ

- 突起をグロメットからはずします。



A. 突起

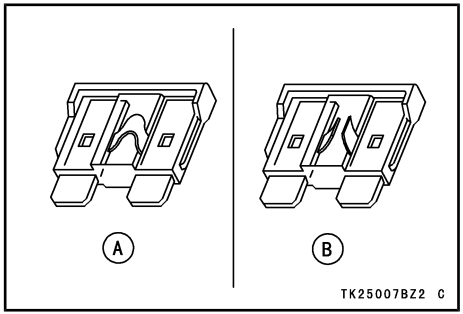
- アッパインナカウリングの前側を引き上げます。
- アッパインナカウリングを下側に押し下げて燃料タンクカバーのフックをはずします。
- アッパインナカウリングを取り外します。



A. アッパインナカウリング
B. フック
C. 燃料タンクカバー

- ヒューズを確認します。
- アッパインナカウリングのフックを燃料タンクカバーに差し込みます。
- 取り外した部品を取り付けます。

ヒューズが切れたときは原因を調べてスペアヒューズと交換してください。



A. 正常
B. 切れた状態

⚠ 警告

指定以外のヒューズを使用するのは火災の可能性があり危険です。かならず指定の容量、規格のヒューズを使用してください。

アドバイス

- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、他の原因が考えられます。カワサキ正規取扱店にご相談ください。
- スペアヒューズを使用した場合は、なるべく早めに代わりのスペアヒューズを補充してください。

車のお手入れ

いつまでも愛車を長持ちさせるため定期的にお手入れを行ってください。隅々まで清掃すれば、普段気づかない異常箇所や摩耗が発見でき、故障予防にもつながります。

⚠ 警告

ごみや可燃物が車体、エンジン、排気系部品の中や周囲に堆積すると、故障の原因となることがあり、火災の可能性も高くなります。

- **ごみや可燃物が車体に堆積するような環境で使用するときは、エンジン、電気部品、排気系統を頻繁に点検してください。**
- **ごみや可燃物が堆積している場合は、屋外に車を停めてエンジンを停止し、エンジンが冷えてから堆積したごみ類を取り除いてください。**
- **駐車や狭い囲われた場所に格納する前に、ごみや可燃物が堆積していないか点検してください。**

注意

通常走行時や雨天時、未舗装路を走行した際、インナチューブに付着した汚れ（砂埃、泥、虫等）は固まる前に清掃してください。付着したまま使用を続けるとオイルシールが損傷しオイル漏れの原因となります。

主な注意事項

- 洗車はエンジンとエキゾーストパイプ等が冷えているときに行ってください。
- シール部品、ブレーキパッド、タイヤにクリーナ等がかからないようにしてください。

注意

コンパウンド入りのワックスや洗剤、硬いブラシまたはやすりなどを使用して塗装面や樹脂部品を磨くと、色むらあるいは傷が入る可能性がありますので、使用しないでください。

注意

ヘッドライトのレンズは樹脂製です。レンズ部分を洗浄する場合には中性洗剤を用いて柔らかいスポンジで行ってください。

- ワックス、洗剤等はコンパウンドを含んでいないものをご使用ください。
- ガソリン、ブレーキ液および冷却液等は、塗装面や樹脂部品を傷めますので、これらを部品類に付着させないでください。もし付着したら、すぐに洗い流してください。
- 硬いブラシまたはやすり等は、ご使用にならないでください。
- 樹脂部分を傷めないように、充分に注意をしてください。
- 高圧洗車機を使用しての洗車は行わないでください。特に可動部分や電装品に水がかかると、作動不良や故障の原因となります。

- 洗車の前に下記の部分に水がかからないようにしてください。
- イグニションスイッチ
- マフラ後部

  ビニール袋でカバーする。
- クラッチレバーと左ハンドルスイッチ

  ビニール袋でカバーする。
- エアクリーナの吸入口

  ガムテープ、または布でふさぐ。
- フロントブレーキレバーと右ハンドルスイッチ

  ビニール袋でカバーする。
- シート

  ビニール袋でカバーする。
- 下記の部分には強く水をかけないでください。
- メータユニット
- ヘッドライト
- ディスクブレーキのマスタシリンダとキャリパ
- シートの下、カウリング内および燃料タンクの下の電装品（スティックコイル、スパークプラグ等が著しく濡れると漏電によりエンジンが始動しなくなることがあります。）
- フロント／リヤホイールのハブ
- ステアリングステムヘッドパイプ部
- スイングアームのピボット部
- 燃料タンクキャップ
- スロットルボディアッシ

洗車

- 水を流しながら柔らかい布やスポンジを使って汚れを落とし、水分を拭きとってください。拭きとり作業を行いながら、破損や傷がないかを点検してください。自然乾燥は塗装面を傷めますのでおやめください。

- 汚れが落ちにくいときは、中性洗剤を使って拭きとり、水で充分に洗い流し、水分を拭きとってください。
- 防錆のため、洗車後はドライブチェーン、または各可動部の給油を行ってください。

⚠ 警告

洗車後はブレーキの効きが悪くなり思わぬ事故につながる可能性があります。効きが悪い場合は周囲の安全を確認し、低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキを軽く作動させ、ブレーキの湿りを乾燥させてください。

- **ブレーキディスク、パッドにワックス、オイルを塗らないでください。ブレーキが効かなくなり事故の原因になります。**
- **ディスク、パッドにオイルが付着した場合は、乾燥後オイル成分が残らないような洗浄液で洗浄してください。また、完全に洗浄しきれないときは、パッドを交換してください。**

アドバイス

○ 海岸地域や路面凍結防止剤を散布した路面を走行した後は、直ちに水洗い

をしてください。温水を使用すると塩の化学反応を強めますので、洗車は冷水で行ってください。洗車後は水分を拭きとり、金属部品やクロームメッキ部には防錆油を吹き付けてください。

○ 雨天走行後、または洗車直後等に、ヘッドライト内部に結露による曇りが発生することがあります。ヘッドライト内部が曇った時は、エンジンを始動し、ヘッドライトを点灯させ、しばらくすると、曇りは徐々に消えます。

塗装面

洗車後はワックスがけしてください。ワックスは3か月に一度、または必要に応じてかけてください。

アドバイス

○ それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項を必ずお守りください。

つや消し塗装

中性洗剤と水を使って、汚れを落としてください。塗装面は強く擦ると、つや消しの塗装面につやが出るおそれがあります。不明な場合は、カワサキ正規取扱店にご相談ください。

樹脂部品

洗車後、樹脂部品に残った水分は柔らかい布で丁寧に拭きとってください。乾燥後は樹脂部品専用のワックス／ポリッシュをご使用ください。

注意

- **樹脂部品にガソリン、ベンジン等の有機溶剤が付着すると部品の損傷の原因となります。付着した場合は直ちに水、または中性洗剤で拭きとり、損傷がないかを点検してください。**
- **コンパウンド入りの洗剤や硬いブラシの使用は塗装面に傷を入れる可能性があります。使用しないでください。**

長期間の格納

長期間、車を使用しない場合は下記の要領で手入れをしてください。

アドバイス

○ **油脂類の廃却は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、カワサキ正規取扱店にご相談ください。**

格納のための準備

- 車全体を念入りに洗浄します。
- エンジンを充分に暖機後、エンジンを停止します。そして、ドレンボルトをはずし、エンジンオイルを排出します。
- ドレンボルトを取り付け、オイル注油口キャップを取り外し、新しいエンジンオイルを入れます。
- オイル注油口キャップを取り付けます。
- 燃料タンクの燃料をすべて排出します。

⚠ 警告

燃料を排出するときは、通気性のよい、火気のない場所で行ってください。

- タイヤの空気圧を2割減らし、前後輪の下に防湿のために板を敷きます。

- メッキ部には防錆油を吹き付けます。ただしゴム部品とブレーキは避けてください。
- ドライブチェーンとすべてのケーブルに注油します。
- バッテリを取り外します。直射日光の当たる所、湿気の多い所、温度が非常に低い所等には保管しないでください。また、1か月毎にバッテリの補充電を行ってください。
- マフラに水が入るのを防ぐためにビニール袋でカバーします。
- 防塵のため車全体にカバーをかけてください。

格納した車を使用する時には

- マフラからビニール袋を取り外します。
- タイヤの空気圧を正規の値にします。

前輪	290 kPa (2.90 kgf/cm^2)
後輪	290 kPa (2.90 kgf/cm^2)

- バッテリの補充電を行います。
- 燃料を入れます。
- 車体各部に注油します。
- 日常点検の項目に従って点検します（メンテナンスノートの日常点検項目、日常点検の方法をご覧ください。）。

環境保護について

● 車、または使用済みの部品・オイル等を廃棄するときは？

環境保護のため、使用済みのバッテリやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。これらのものを廃棄するときは、カワサキ正規取扱店にご相談ください。また、将来お車を廃棄する際は、お近くの廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

● 廃棄二輪車取扱店とは？

（社）全国軽自動車協会連合会に登録されている販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されている廃棄二輪車取扱店です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口であり、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪車取扱店の証（230 mm × 200 mm）

● 二輪車リサイクル費用とは？

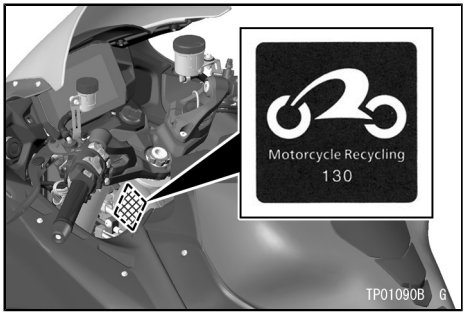
廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化するための費用です。

二輪車リサイクルマークが車体に貼り付けされている二輪車は、リサイクル費用がメーカ参考小売価格に含まれていますので、あらためてリサイクル

料金をお支払いいただくことはありません。ただし、運搬または収集する費用は含まれておりませんのでお客様から廃棄二輪車取扱店、あるいは指定引取場所までの運搬または収集費用はお客様の負担となります。

● 二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行、部品販売の取り扱いはいたしません。二輪車リサイクルシステムの概要、ご利用方法等については、カワサキのホームページまたは、（公財）自動車リサイクル促進センターのホームページでご確認ください。



二輪車リサイクルマーク（30 mm × 30 mm）

● 廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車のお取り扱いに関しましては、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記までお問い合わせください。

カワサキホームページ
https://www.global-kawasaki-motors.com/environment/recyc01.html

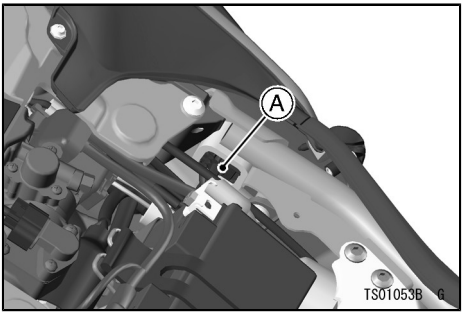
TP01110B Z1 S

（公財）自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

TP01102BZ1 S

DFI自己診断システムコネクタの位置

DFI自己診断システムコネクタはシートの下にあります。



A. DFI自己診断システムコネクタ

車両情報の記録に関して

カワサキでは、この車に搭載されているコンピュータにカワサキ車専用ツールを接続し、記録されている情報を取得する 事があります。取得した情報は車両の点検や故障診断、研究開発、法規適合確認を目的に利用する事があります。

取得する情報はモデルやグレード、地域によって異なりますが、主な項目は次のとおりです。

- エンジンや車体の電子制御装置に記録されている使用状況や設定などの情報
- 排気ガス規制に関連する情報

なお、この車の車両制御コンピュータは音声や映像を記録する事はございません。

取得した情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。

- お客様（または使用者）の同意を得た場合
- 行政や司法機関より法的に要請された場合
- お客様（または使用者）個人や車両を特定せず、加工した情報を研究開発や統計調査などに使用する場合。

イベントデータレコーダ

他の多くの自動車メーカーと同様に、カワサキもこの車にイベントデータレコーダ（EDR）を装備しています。この装置は、一定条件の事故や事故に近い状況が発生したときにのみ、事故発生の直前から事故発生中に車両システムがどのように作動していたかを理解するためのデータを、短時間記録するように作られています。

アドバイス

- **通常走行時もデータは常に記録され上書きされていますが、イグニションスイッチをオフにしたときに消去されます。**
- **事故発生時以外にEDRデータが、後で読み出しできるように保存されることはありません。また、全ての事故がEDRデータとして保存されるものではありません。**
- **この装置に個人情報（例：氏名、性別、年齢）が集められ記録されることはありません。**

このデータにより、事故発生時車両がどのように作動していたかを、運転者とメーカーの双方がより良く理解するのに役立ちます。この車のEDRは、次のような事故時の車両走行状況を示すデータのみを記録するよう設計されています。

- 走行速度
- エンジン回転速度
- スロットル開度

EDRが記録したデータを読み取るには、特殊な装置をEDRに接続する必要があります。カワサキは、警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合を除き、あなたの承諾なしにEDRの情報を提供することはありません。

万一の故障に備えて

日常点検、定期点検を欠かさず行っていただければ、不測のトラブルは未然に防止することができます。万一故障の場合は応急処置を行って、お買いあげいただいたカワサキ正規取扱店へ修理をお申しつけください。

エンジンが始動しない

スタータが回らないとき

- イグニションスイッチはオンになっていますか。
- ヒューズが切れていませんか。
- ギヤがニュートラルになっていますか。
- バッテリケーブルは確実に接続されていますか。
- バッテリはあがっていませんか。

スタータは回るが始動しないとき

- 燃料タンクに燃料が入っていますか。
- 燃料系統が詰まっていませんか。
- 燃料の品質が低下していませんか。
- スパークプラグはゆるんでいませんか。
- スパークプラグは正常ですか。
- スパークプラグギャップは正常ですか。
- スパークプラグはかぶっていませんか。
- 転倒後、一度イグニションスイッチをオフにしましたか。

エンジンが止まる

1速に入れたとき

- クラッチの切れは正常ですか。
- サイドスタンドが降りたままになっていませんか。

走行中に

- 燃料は入っていますか。
- 燃料タンクキャップのエア抜き穴が詰まっていませんか。
- エンジンオイルはありますか。
- バッテリはあがっていませんか。

お客様相談室

名称	電話番号	郵便番号	所在地
(株)カワサキモータースジャパン	フリーコール：0120−400819	〒673−8666	明石市川崎町1番1号

お客様相談室

*フリーコールは携帯電話からもご利用いただけます。

受付時間　月曜～金曜（祝日および当社休業日を除く）

9：00～12：00、13：00～17：00

国土交通省ではリコール業務を円滑に行うため、お客様の安全や環境に大きな影響を及ぼすと判断される場合の情報窓口を設定しております。

●自動車不具合情報専用ダイヤル：「自動車不具合情報ホットライン」

フリーダイヤル：0120–744–960 （受付時間 9：30 ~ 12：00、 13：00 ~ 17：30）

24時間電話受付：03–3580–4434 （年中無休・24時間）

●国土交通省のホームページ：https://www.mlit.go.jp/ → 自動車不具合情報コーナー



TP01103BN1 S

リコールについてのお願い

リコールとは、クルマの構造・装置の不具合による事故を未然に防止することを目的とした制度です。
同一型式・一定範囲のクルマについて、構造・装置・性能などが、安全・公害防止の規定（保安基準）に適合しなくなるおそれがあると弊社が判断した場合に、その旨を国土交通省に届け出て、おクルマをご使用のお客様にご連絡し、無料で修理するものです。
なお、保安基準にかかわらない場合でも、対応の必要があると判断した場合には「改善対策」や「サービスキャンペーン」を行っております。

＜改善対策＞
改善対策とは、保安基準にかかわらない場合でも、弊社が安全確保・公害防止の観点から必要と判断した場合に、ご使用のお客様へご連絡し、責任を持って修理するものです。

＜サービスキャンペーン＞
サービスキャンペーンとは、商品品質改善等の観点から、弊社が必要と判断した場合に、ご使用のお客様へご連絡し、責任を持って修理するものです。

オープンソースソフトウェアについて

この車両の部品にはオープンソースソフトウェアが使用されているものがあります。

使用しているソフトウェアについて開示を受けたい場合は、カワサキ正規取扱店にお問い合わせください。

適合宣言

アドバイス

○ 機能および装備の内容はモデルによって異なり、記載されているワイヤレスシステムやアプリケーション範囲が含まれない場合があります。

KIPASS

朝日電装は、**KIPASS**ワイヤレスシステムが該当するガイドラインに適合していることを宣言します。適合宣言の全文は、以下のURLより閲覧できます。

認証ウェブサイト：
https://en.ad-asahidenso.co.jp/uploads/2021/01/ZKM013-870_0.pdf

TR01115BZ1 S

タイヤプレッシャーモニタリングシステム

アメリカ合衆国:

FCC ID: PAXPMVE006

NOTE

This device complies with part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and
(2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

FCC WARNING

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

TR01132B G3 S

カナダ:

NOTE

This device contains licence-exempt transmitter(s)/receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s).
Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause interference.
(2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

NOTE

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence.
L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:
1. L'appareil ne doit pas produire de brouillage;
2. L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

TR01133B N7 S

中華人民共和国:

中华人民共和国工业和信息化部公告2019年第52号要求说明

（一）符合“微功率短距离无线电发射设备目录和技术要求”的具体条款和使用场景，采用的天线类型和性能，控制、调整及开关等使用方法；
型号：PMV-E006
该变送器安装在摩托车轮胎中。 这是一种无线设备，可测量轮胎中的气压和温度并进行传输。
内置环形天线，天线增益-24.5 dBi

（二）不得擅自改变使用场景或使用条件、扩大发射频率范围、加大发射功率（包括额外加装射频功率放大器），不得擅自更改发射天线；

（三）不得对其他合法的无线电台（站）产生有害干扰，也不得提出免受有害干扰保护；

（四）应当承受辐射射频能量的工业、科学及医疗（ISM）应用设备的干扰或其他合法的无线电台（站）干扰；

（五）如对其他合法的无线电台（站）产生有害干扰时，应立即停止使用，并采取措施消除干扰后方可继续使用；

（六）在航空器内和依据法律法规、国家有关规定、标准划设的射电天文台、气象雷达站、卫星地球站（含测控、测距、接收、导航站）等军民用无线电台（站）、机场等的电磁环境保护区域内使用微功率设备，应当遵守电磁环境保护及相关行业主管部门的规定；

（七）禁止在以机场跑道中心点为圆心、半径5000米的区域内使用各类模型遥控器；

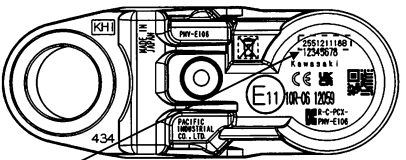
（八）微功率设备使用时温度和电压的环境条件。
-20℃～105℃、内置DC3V纽扣电池

使用微功率短距离无线电发射设备应当符合国家无线电管理有关规定

TR01134B N7 S

大韓民国:

Identification Number: R-C-PCX-PMV-E106
Equipment Name (Model Number): 특정소출력무선기기(PMV-E106)
Applicant: PACIFIC INDUSTRIAL CO., LTD.
Manufacturer: PACIFIC INDUSTRIAL CO., LTD.
Country of Origin: Japan
Manufacturing date: See product



The manufacturing date is the upper 5 digits
of the 10 digit lot number.

2 5 5 1 2 X X X X X

- Least 2 digits of AD
- Manufacturing Month for 1 digit:
  1,2 - 9, A, B, C (A=10, B=11, C=12)
- Manufacturing Date for 2 digit: 01, 02 - 31

TR01136B N7 S

台湾:

取得審驗證明之低功率射頻器材，非經核准，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。

低功率射頻器材之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。

前述合法通信，指依電信管理法規定作業之無線電通信。

低功率射頻器材須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

TR01092B S

マレーシア:



HIDF22000067

TR01135B Z1 S

フロントレーダセンサ

アメリカ合衆国:

FCC ID: NF3-MRRE14FCR

NOTICE

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Changes or modifications made to this equipment not expressly approved by Robert BOSCH GmbH may void the FCC authorization to operate this equipment.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

RF Exposure Information according 2.1091/2.1093/KDB 447498/OET bulletin 65:

Radiofrequency radiation exposure Information:

This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body.
This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

TR01059B S

カナダ:

IC: 3887A-MRRE14FCR

NOTICE

This device complies with Industry Canada license-exempt RSS standard(s).
Operation is subject to the following two conditions:
(1) this device must not cause interference.
(2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio exempts de licence.
L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:
(1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et
(2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

RF Exposure Information according to RSS-102

Radiofrequency radiation exposure Information:

This equipment complies with FCC and IC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body.
This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

Cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements IC établies pour un environnement non contrôlé. Cet équipement doit être installé et utilisé avec un minimum de 20 cm de distance entre la source de rayonnement et votre corps.
Ce transmetteur ne doit pas etre place au meme endroit ou utilise simultanement avec un autre transmetteur ou antenne.

TR01060B S

日本国:

202-LSC039

当該機器には電波法に基づく、技術基準適合証明等を受けた特定無線設備を装着している。
Translation: This equipment contains specified radio equipment that has been certified to the technical regulation conformity certification under the Radio Law.

本無線機器の改造を禁ずる（これに反した場合は当該認証登録番号は無効となる）
Translation: This radio device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)

TR01061B S

台湾:

CCAE17LP0940T7

注意!

依據低功率電波輻射性電機管理辦法
第十二條經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。
第十四條低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。前項合法通信，指依電信規定作業之無線電信。低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

TR01062B S

香港:

HKCA 1035: automotive radar: radio equipment exempted from licensing!

TR01063B S

オーストラリア連邦:



TR01064B S

リヤレーダセンサ

アメリカ合衆国:

FCC ID: NF3-MRR1REAR

NOTICE

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Changes or modifications made to this equipment not expressly approved by Robert BOSCH GmbH may void the FCC authorization to operate this equipment.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

RF Exposure Information according 2.1091/2.1093/KDB 447498/OET bulletin 65:

Radiofrequency radiation exposure Information:

This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body.
This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

TR01066B S

カナダ:

IC: 3887A-MRR1REAR

NOTICE

This device complies with Industry Canada license-exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two conditions: (1) this device must not cause interference. (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio exempts de licence.
L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes: (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et (2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

RF Exposure Information according to RSS-102

Radiofrequency radiation exposure Information:

This equipment complies with FCC and IC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body.
This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

Cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements IC établies pour un environnement non contrôlé. Cet équipement doit être installé et utilisé avec un minimum de 20 cm de distance entre la source de rayonnement et votre corps. Ce transmetteur ne doit pas etre place au meme endroit ou utilise simultanement avec un autre transmetteur ou antenne.

TR01067B S

日本国:

202-LSC006

当該機器には電波法に基づく、技術基準適合証明等を受けた特定無線設備を装着している。
Translation: This equipment contains specified radio equipment that has been certified to the technical regulation conformity certification under the Radio Law.

本無線機器の改造を禁ずる（これに反した場合は当該認証登録番号は無効となる）
Translation: This radio device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)

TR01068B S

台湾:

CCAE15LP0170T7

注意!

依據低功率電波輻射性電機管理辦法
第十二條經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。
第十四條低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。前項合法通信，指依電信規定作業之無線電信。低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

TR01069B S

香港:

HKCA 1035: automotive radar: radio equipment exempted from licensing!

TR01063B S

オーストラリア連邦:



TR01064B S

メータ

技術データ:

アンテナについて（電力+ゲイン+アンテナタイプ+内蔵または外付けアンテナの説明）

Wi-Fi アンテナ：

電力：+15 dBm

ゲイン：2.1 dBi

タイプ：内蔵アンテナ

BTスマートフォンアンテナ：

電力：+4 dBm

ゲイン：1.0 dBi

タイプ：内蔵アンテナ

BTヘッドセットアンテナ：

電力： +4 dBm

ゲイン： 2.9 dBi

タイプ： 内蔵アンテナ



TR01071B S

312 適合宣言

アメリカ合衆国:

FCC ID: 2AUXS-6P5CLUSTER

NOTICE

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

NOTICE

Changes or modifications made to this equipment not expressly approved by (manufacturer name) may void the FCC authorization to operate this equipment.

NOTE

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TR01072B S

RF Exposure Information according 2.1091/2.1093/KDB 447498/OET bulletin 65:

1) For a mobile device which intended use is at least 20 cm between human body and antenna: (e.g. devices for use on desk, use on vehicles, ...)

Radiofrequency radiation exposure Information:

This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of [*] cm between the radiator and your body. This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

[*] Insert min distance where justified by measurement / calculation. Distances lower than 20cm are prohibited.

2) For a portable device where no routine evaluation is required and the radiated source based time averaged power is lower then 90 / f[GHz] (e.g. Headset using Bluetooth technology, ...)

Radiofrequency radiation exposure Information:

The radiated output power of the device is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the device shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

3) For a portable device where routine evaluation is required and Body-worn use with a specific accessory (e.g. Cellular phone, …)

Radiofrequency radiation exposure Information:

For body worn operation, this phone has been tested and meets the FCC RF exposure guidelines when used with the (manufacturer name) accessories supplied or designated for this product. Use of other accessories may not ensure compliance with FCC RF exposure guidelines.

4) For a portable device where routine evaluation is required and Body-worn use without a specific accessory (e.g. Cellular phone, …)

Radiofrequency radiation exposure Information:

For body worn operation, this phone has been tested and meets FCC RF exposure guidelines when used with an accessory that contains no metal and that positions the handset a minimum of [specified distance] from the body. Use of other accessories may not ensure compliance with FCC RF exposure guidelines.

TR01073B S

5) For a portable device where routine evaluation is required and Body-worn use with future manufacturer designed accessories: (e.g. Cellular phone, …)

Radiofrequency radiation exposure Information:

"For body worn operation, this phone has been tested and meets the FCC RF exposure guidelines when used with a (manufacturer name) accessory designated for this product or when used with an accessory that contains no metal and that positions the handset a minimum of (specified distance) from the body."

TR01074B S

カナダ:

IC: 25847-6P5CLUSTER

NOTICE

This device contains licence-exempt transmitter(s)/receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s). Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause interference. (2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes: (1) L'appareil ne doit pas produire de brouillage; (2) L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

RF Exposure Information according to RSS-102

Radiofrequency radiation exposure Information:

This equipment complies with FCC and IC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body.
This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

Cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements IC établies pour un environnement non contrôlé. Cet équipement doit être installé et utilisé avec un minimum de 20 cm de distance entre la source de rayonnement et votre corps. Ce transmetteur ne doit pas etre place au meme endroit ou utilise simultanement avec un autre transmetteur ou antenne.

TR01075B S

日本国:



201-200856
D 20 0200 201

Modelname: 6.5inch Cluster
Aproval ID: 201-200858
電波法 (RL): 201-200856
電気通信事業法(TBL): D 20 0200 201

This device is granted pursuant to the Japanese Radio Law (電波法) and the Japanese Telecommunications Business Law (電気通信事業法)
本製品は、電波法と電気通信事業法に基づく適合証明を受けております。

This device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)
本製品の改造は禁止されています。（適合証明番号などが無効となります。）

In case of WIFI 5 GHz:

電波法により5.2/5.3 GHz帯は屋内使用に限ります
(Translation: “5.2/5.3 GHz band is restricted to indoor use due to the Radio Law.”)

TR01076B S

中華人民共和国:

CMIIT ID: CMIIT ID: 2020DJ15050

TR01077B S

インド:

Model No. 6.5inchCluster
Certification No. ETA-SD-20210100548

TR01078B S

台湾:

CCAL21LP0390T3

經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。

低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。前項合法通信，指依電信法規定作業之無線電通信。低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

TR01079B S

大韓民国:

R-R-BQ2-6_5inchCluster

해당 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다

TR01080B S

バッテリに関する補足情報

バッテリ全般に関する情報

ここでは、車両に搭載されているモーター駆動バッテリ、12 Vバッテリ、ボタン型電池に関する追加情報を提供します。使用前によく読んでバッテリについて理解してください

⚠ 危険

電解液が衣服、皮膚、目に付着すると、重傷を負ったり死亡したりするおそれがあります。衣服、皮膚、目についた場合は、すぐに多量の水で5分以上（目の場合は15分以上）洗い、専門医の診察を受けてください。

⚠ 警告

バッテリを不適切に取り扱うと、感電、重度の火傷、重傷または死亡を引き起こすおそれがあります。以下の注意事項を厳守してください。

- 火花、火または高温を引き起こす可能性のある熱源から遠ざけてください。
- 子供やペットの手の届かないところに保管してください。
- 落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 端子部に金属などを触れたり、接続したりしないでください。
- 水をかけたり、濡れた手で触れたりしないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 破損、変形、水没した場合は絶対に使用しないでください。
- 煙や異臭がした場合は、すぐに使用を中止してください。

注意

バッテリを不適切に取り扱うとバッテリが損傷するおそれがあります。以下の注意事項をお守りください。

- 落としたり、衝撃を与えたり、穴を開けたり、変形させたりしないでください。
- 上に重いものを置かないでください。
- 火花、火または高温を引き起こす可能性のある熱源から遠ざけてください。
- バッテリの排気穴を絶対にふさがないでください。

注意

外気が寒いまたは暑い環境でバッテリを使用または保管すると、バッテリが凍結または過熱し、損傷する可能性があります。外気が冷たい、または暑い環境で使用、保管しないでください。

注意

他のバッテリや金属製品とショートすると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。保管、輸送、廃棄する場合は、端子をテープなどで絶縁してください。

注意

バッテリを電子レンジや高圧容器に入れると、バッテリが発熱、破裂、発火することがあります。電子レンジや高圧容器に入れないでください。

注意

銘柄や種類の異なる電池、新旧の電池を混ぜて使用した場合、電池は特性の違いにより、液漏れ、発熱、破裂することがあります。新旧の電池を混ぜないでください。

注意

バッテリを逆接続したり、接続を誤ったりすると、バッテリや電気系統が損傷する可能性があります。バッテリの損傷を防ぐために、接続が正しいことを確認してください。

注意

規定の充電時間を超えて充電を続けると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。規定の時間内に充電が完了しない場合は、バッテリまたは充電器の故障と考えられますので、充電を中止してください。

注意

バッテリが静電気にさらされると、静電気により爆発する可能性があります。点検や整備の前には、車両の金属部分を素手で触って静電気を逃がしてください。

注意

ベンジン、シンナー、ガソリンなどの有機溶剤や洗剤などでバッテリを清掃すると、バッテリの劣化や液漏れの原因となります。清掃には使用しないでください。

アドバイス

○ 必ず本書に記載されている仕様・性能のバッテリをご使用ください。

ボタン型電池の追加情報

⚠ 危険

電池を飲み込むと化学火傷や粘膜組織の貫通を引き起こし、重傷を負ったり死亡したりするおそれがあります。お子様の手の届かないところに保管してください。電池を飲み込んだ場合は取り出す必要がありますので、直ちに医師の診察を受けてください。

注意

充電するとガスが発生したり、内部構造が損傷し、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となることがあります。絶対に充電しないでください。

注意

長時間接続したままにすると、電池から発生するガスにより、電池を漏液、発熱、破裂、発火させたり、機器を破損するおそれがあります。長期間デバイスを使用しない場合や、電池が消耗した場合は、デバイスから取り外してください。

注意
電池をはんだ付けすると、熱損傷による液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。絶対にはんだ付けをしないでください。

注意
機器によっては、電池ホルダーの金属部分が電池の（＋）、（－）端子に接触する場合があります。電池がショートしないように機器に取り付けてください。





ZX1002P/R

カワサキモータース株式会社

* 9 9 8 1 7 - 0 1 3 2 *

Printed in Japan